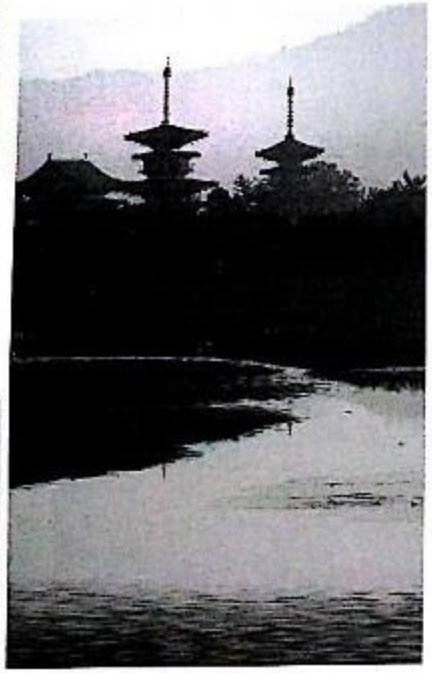


早朝の塔（大池）

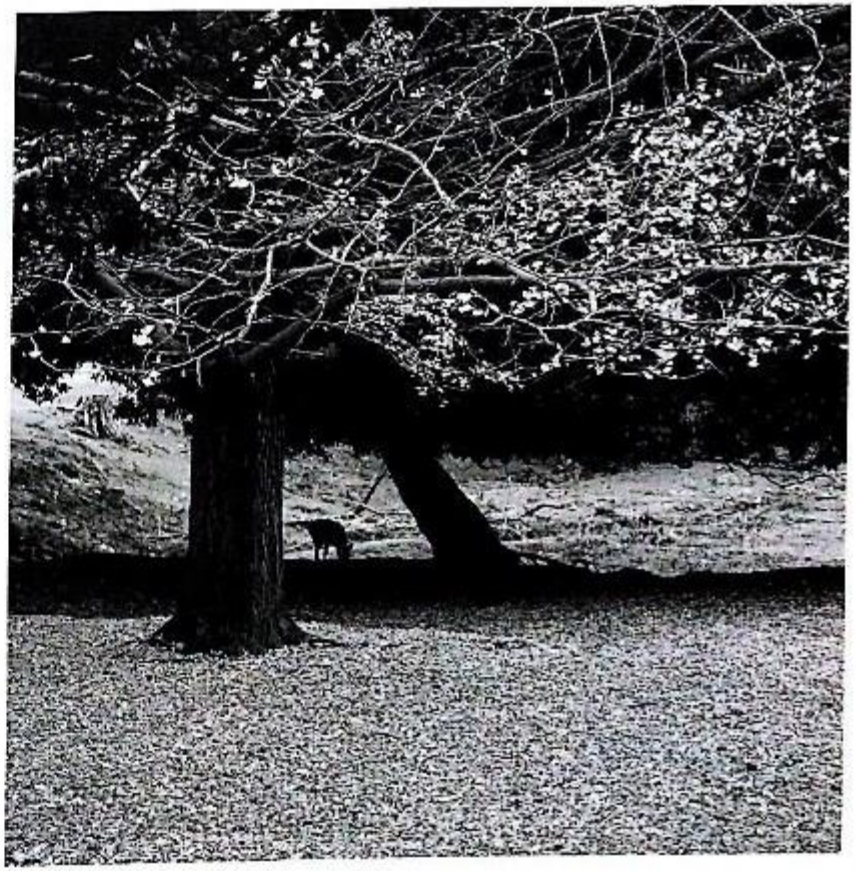
都会の喧騒を離れ
落ち着いた趣の中に身をゆだねる
美しく色づいた紅葉の枝
万葉の頃のもみじは黄葉
紅葉は渡来植物の新鮮な景
月の光を浴びながら
ふっくらと温もりのある調べ
その楽の音に感応して現れた
舞人の華麗さに目を奪われる
折ふし
夕日がくっきりと差し映えて
あまりの美しさに感涙を流す
輝くような舞姿を
苦しい愛に耐えながら
じっと見つめていた

舞楽（万葉植物園）

Photo essay

静寧

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

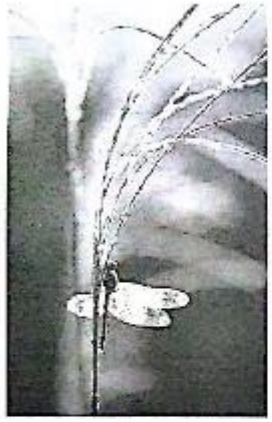


落葉（大仏池付近）

季節の実景

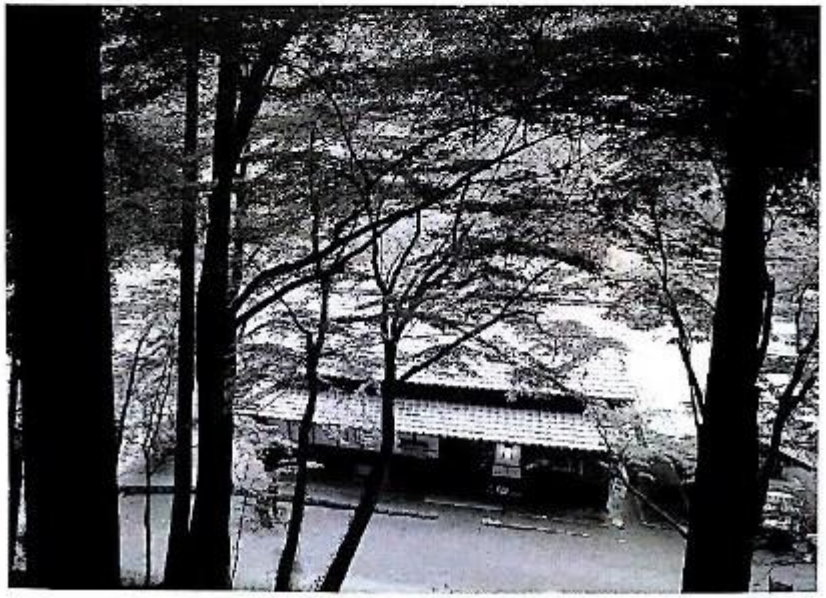
撮影　武市通治

晩秋



秋の朝

大霜の朝



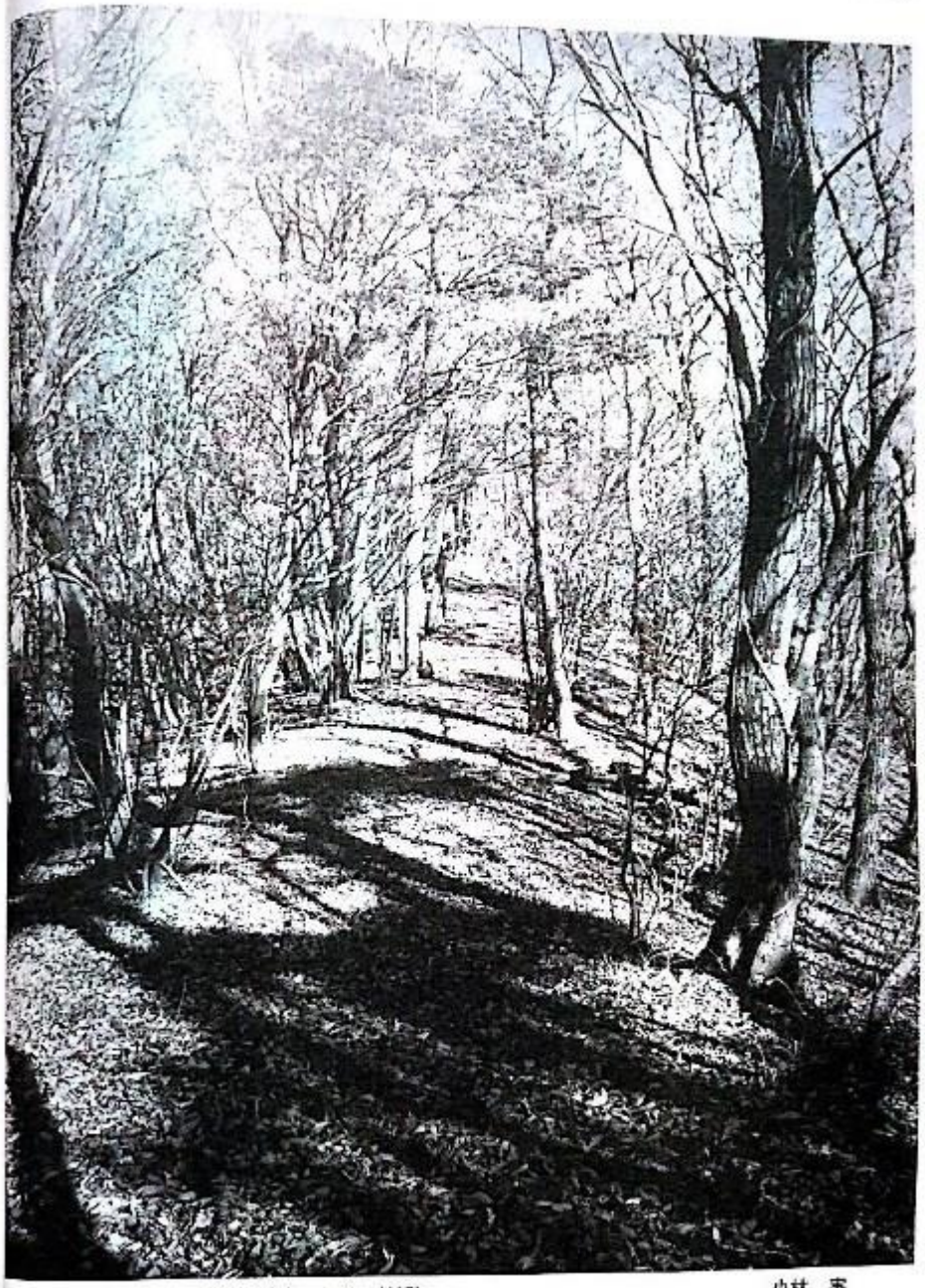
秋の香嵐渓

朝霧

青蓮寺湖秋色

夕日に映えるワレモコウ（両アルプス・入笠山の湿原）　中川　光郎

木曽駒ヶ岳から八ヶ岳を望む（中央アルプス）　横井　徹



過ぎゆく秋の尾根（鈴鹿・ヒキノ付近）　小林　実

新ハイキング 別冊 関西の山
'97年11・12月 晩秋 第37号

●目次

表紙：松田敏男「晩秋の木ノ実ヤ塚にて」（台高山脈）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳画、山岳画の個展多数開催。（京都平安画廊、南アルプス仙水小屋、東京ギャラリー百号、他）京都山と渓に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

●グラビア
静寂……撮影 出井 収
季節の実景（晩秋）朝霧ほか……文 松永 恵一
（口絵）……小林 実 中川 光郎 横井 薇 吉沢 栄一 6 4 2
随想（山のエッセイ）
戸来岳とキリストの墓……生駒 登峰 10
九州への山旅……田中 耕一 12
低山の憂うつ……慶佐次盛一 13
四方山話（4）―モンセラットへの誘い―……芝野 泰明 14
鹿嶽高原……松田 敏男 16
薬師岳から五色ヶ原……雅見 守康 20
連載 日本霊山紀行35 守門岳……浅野 孝一 25
霧降御前山……多摩 雲雄 28
ケリンデ山……内田 嘉弘 32
アバチャ山……生駒 登峰 36
連載 比良を歩く① 霊仙山から小女郎峠……奈 康夫 40
エリア別研究
近江側から登る鈴鹿の山々―夏を楽しむ沢登歩き―……山本 久雄 47
①須谷川……48
②元越谷……49
③神崎川本流（白滝谷出合まで）……52
④ツメカリ谷……53
⑤仙百谷・赤坂谷……54
紀行
●1等三角点峰（500m以上）548座完登の記録（第4回）
―一等三角点研究会―を設立……坂井 久光 44
●小栗街道を歩く 熊野街道探索……中村 敏文 55
●文学歴史探訪ハイク㊲
聖徳太子の奥出城を訪ねて……松永 恵一 58
●錦秋の尾瀬紀行② 尾瀬沼と燧ヶ岳……田中 誠 58
コースガイド
①花ヶ岳・野登山……山形 徹之 62
②頭巾山……村田 智俊 64
③矢立峠越……柴田 昭彦 66
沿線ハイキングガイド……75
サービスチューン……76
せせらぎ……76
新ハイ関西山行計画と報告……82
バス時刻表（京都北山）……94
編集後記・広告案内……96

巻頭言

紅葉の美しい頃、もう何年も前のことですが、ひとりで比良の裏風峠を越えてみました。深谷を過ぎるとオトシで、湿地の中に道が続きます。ゆるやかに登り着いた裏風峠では、冷たい風にあおられて色づいた木の葉がまるで吹雪のように舞っていました。

峠からは裏風谷を渡ヶ瀬にくだったのですが、そのくだり道は何んとふかふかで、色とりどりの葉っぱが織り重なって積もっていました。その時は裏風峠を越えてみたいと思って歩いたのですが、ヨコク峠も越えてみたくなり、木井まで足をのばしてしまいました。

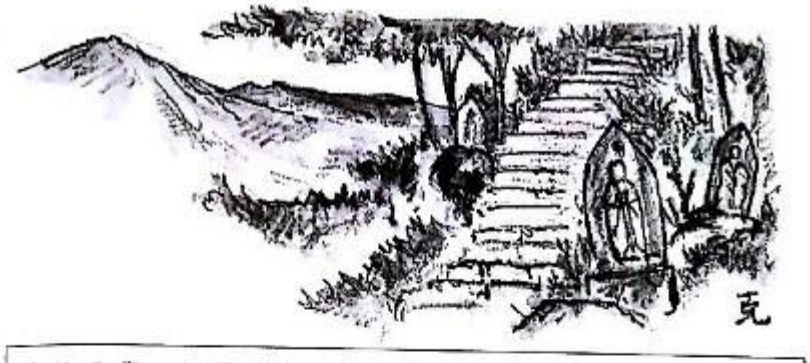
今でも、その時の峠越えが強く印象に残っています。「峠はいいなあ」としみじみと思いました。戦後、車道が整備されて峠越えの山道が村の人たちに使われなくなってしまいました。昔は祭り・婚礼・正月・盆暮れのあいさつ・法事など、何かにつけて村人は峠を越えて往き来していました。時間もゆっくり流れ、山の自然の中を歩き、峠では一服しながら地蔵さんに手を合わせたものです。

晩秋から初冬にかけて、しんみりと峠を越えてみるのもいいものです。

新ハイキング関西（代表）村田 智俊

光る樹（北アルプス・槍沢にて） 吉沢 栄一

岳樺落葉（北アルプス・槍沢にて） 吉沢 栄一



戸来岳とキリストの墓

生駒　碧峰

イエス・キリストの墓が日本にあるのをご存知ですか。

イエス・キリストと言えば、イスラエルのゴルゴダの丘で磔にされたはずで、日本に来たこともなければ墓などあるわけはありませんね。ところがちゃんとイエス・キリストの墓があるのです。

以前、新聞にも記載されたことがあるので、ご存知の方も多いかと思いますが、十和田湖の近く、青森県三戸郡新郷村戸来に実在しております。

過日、十和田湖畔の戸来岳に登りました。この戸来岳の「へらい」はユダヤ語のヘブライからもじったものと言われています。

山麓の戸来には、ユダヤに縁のありげな風習・慣習が今なお多く残っているそうです。

この戸来岳は標高1159㍍、1等三角点が設置された展望の良い山で、山麓の戸来はもちろん、十和田湖から十和利山まで、360度の展望が得られます。

もっとも登山道は少し荒れぎみで、急坂のササこぎや前山の大駒ヶ岳の登り返しに苦労させられました。

下山後、一浴しようと新郷村に車を走らせて行くと、このキリストの墓に出会いました。今や墓は観光名所にもなっていて、次々とマイカーが訪れています。

ゴルゴダの丘で処刑されたはずのキリストが、実はひそかに日本に渡り、この陸奥の山村で長寿を全うしたと言われたのは、昭和初期。騒って湧いたような話でした。

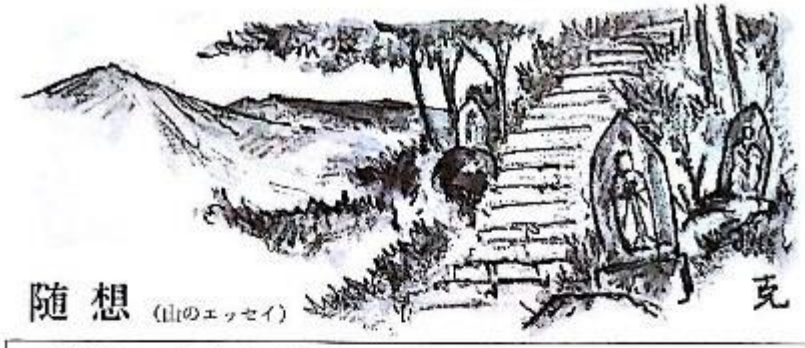
何でも「キリストがこの村に住んでいた」という古文書が発見されて、古代史の研究家たちが竹やぶの中に土まんじゅう二つを見つけ、向かって右側が「十来塚」と呼ぶキリストの墓、左側が弟イスキリの「十代墓」ということになった。

その後もキリストの遺言書が発見されたりして、神秘の村として人々の注目を引くこととなった。

キリストは地中海の沿岸ユダヤに生をうけ、エジプトに父母と共に住む。その後帰国してナザレで成長したが、21歳の時に行方不明となり、33歳の時に忽然と現れ天国を語り、神の実在を説いた。もちろん聖書にもその十一年間の行動は何も載っていない。

ところが発見されたというキリストの遺言書には、その間の消息が鮮明に書かれているそうである。

すなわち、キリストが日本に初めて来たのは十一代垂仁天皇



随想（山のエッセイ）

の弥生時代で、日本海沿岸から越中の国（富山県）に到り、十一年間遊行を積んで33歳で帰国したとある。

しかしキリストの教えは当時のユダヤ教に受け入れられず、ゴルゴダの丘で処刑されることになった。

しかるに遺言書によれば、十字架に上がったのは弟のイスキリで、兄の身代わりとなったとされており、磔刑を逃れたキリストは、弟子たち数人とシベリアに逃れ、四年の後にアラスカから青森県の八戸に上陸した。再渡したキリストは十来太郎大天空とその名を改め、陸奥の国（青森県）戸来村に住み、ユミ子と称する日本婦人をめとり、三女を育てた。

その後は布教することもなく、日本各地を歴訪して、言語・風習などを視察するかたわら、庶民救済に努力したという。

その当時のキリストは、禿頭、白髪、赤ら顔の長高で、ヒゲの多いオーバーを着けていたので、人々に天狗として畏敬されたという。

その後106歳の長寿を全うしたキリストは、その遺言により村の西方にそびえる戸来岳で風葬にして、四年後に埋葬したという。

それは村を見下ろす小高い丘の上にあり、こんもりと盛り上がった二つの塚には真っ白な十字架が立っていた。

歴史的には信じ難いが、山をめざす私としては、登った山の名がへらい岳と呼ばれていることに、何かの興味を感じたのである。

（この文は新郷村の紹介文によるもので、キリスト教徒でない私には誤りがあるかも知れません）。

このリポートが完成して数日、新聞を見ていると「キリストの墓」荒らしとの文字が目に入ったので、その一部を紹介する。

「キリストの墓」荒らし
十字架切断
あなたは信じますか

4日午前8時10分ごろ、青森県新郷村戸来野月のキリストの里公園内の「キリストの墓」に建てられている十字架2本が切り倒されているのを出勤した村職員が発見、五戸署に110番した。

調べたところ、板書に遺ったのはキリストのものとされる墓と、キリストの弟のイスキリのものとされる墓にそれぞれ建てられていた2本の十字架。根元からのこぎりのようなもので切断されていた。ともに高さ約4㍍。同署は悪質ないたずらとみて器物破損容疑で捜査している。……（後略）。

（毎日新聞8月5日付朝刊）

九州への山旅

田中　耕一

九州には名山が多いが、京都からは遠い。しかし、交通手段はたくさんある。

まず空の旅。十数年前の5月の連休に、山の仲間15人で、大阪伊丹空港から鹿児島空港で乗り継いで、屋久島空港まで往復する。片道わずか2時間。

屋久島では最高峰の宮ノ浦岳を始め、岩だらけの永田岳や原生林の高塚山を縦走し、有名な縄文杉・大王杉やウイルソン株を見て回った。縄文杉はさすがに大きくて、その幹の周りを私たち全員で囲んだが、届かなかった。

次に船の旅。数年前の3月、妻と二人で、神戸港から瀬戸内海航路のフェリー「さんふらわあ号」に乗り、別府まで往復する。船内には大きな風呂があり、寝室のベッドではよく眠れた。片道約12時間。

九州ではまず阿蘇山に登って山麓の内牧温泉に泊まる。翌日は九重山を縦走して山中の法華院温泉に泊まる。ここはりっぱで清潔な山小屋だったが、温泉の湯が少しぬるかった。帰途、鷲見岳へも登る。

三度目はバスの旅。これも数年前の3月、妻と二人で京都駅前から西鹿児島駅まで、直通の夜行バスで往復する。

ほとんど高速道路を通るので揺れも少なく、座席は三列でゆったりして脚も前へのばせるほどに広く、案外よく眠れた。片道13時間かかったが、バス代が最も安かった。

えびの高原から韓国岳へ登り、霧島山を縦走して高千穂河原へくだる。途中の新燃岳は噴火直後のため通行禁止で、だれにも会わなかった。火口壁を通るときは、噴煙が足元から盛んに上がってきてこわくなり、妻の手を引いて歩いた。まだ3月なのでキリシマツツジの開花には早かった。

最後にJRの旅。今年の2月、今度は単独で新大阪駅発、西鹿児島行きの寝台特急「なは号」に乗る。寝室は完全な個室で内側からロックでき、広くてゆっくり眠れた。「Bソロ」という寝台車で、三段式寝台を除けば最も料金が安い。片道14時間もかかった。

山はあいにく雨で、開聞岳の頂上まで傘をさして往復する。だれにも会わず、眺望は何もなかった。

列車の旅のよい点は途中下車が何回もできることだ。私も帰途は京都行きの乗車券で開聞駅から乗り、指宿温泉で降りて安い旅館に泊まって、ゆっくり温泉につかる。翌日は西鹿児島駅で下車して駅前の店でさつま揚げを買い、次に熊本駅で降りて市電に乗り、熊本城の天守閣へ上がる。

さらに博多駅でも下車し、地下鉄に乗って、宮崎宮の近くの旅館に泊まる。翌日は午前中、港から連絡船で志賀島へ渡り、国宝の「漢委奴国王印」の金印が出土した金印公園や元寇の役の砦跡など、島内をタクシーで一周する。快晴で気持ちよかった。

博多駅へ戻り、名物のふぐを食べ、新幹線に乗って広島駅で降りる。駅前市場で牡蠣をみやげに買って京都駅まで乗り、近鉄野線（山陽本線）に乗り換えて、私宅に近い花園駅が最終の下車となった。

随想（山のエッセイ）

低山の憂うつ

慶佐次　盛一

この春、近鉄吉野線六田駅から大平山に登って桜峠へ縦走し、蔵王堂を経て吉野駅まで歩いた。

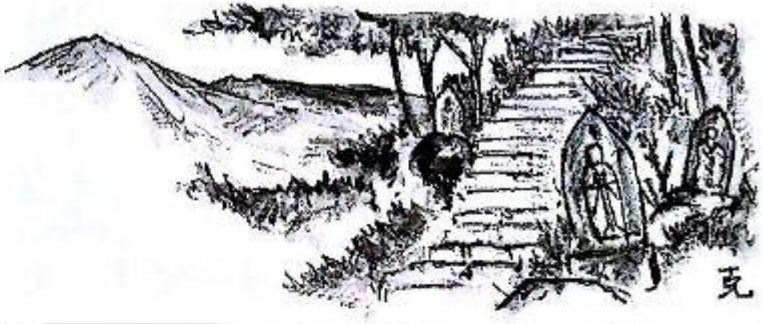
若いリーダーの、「今の六田駅は昔は吉野線の終点で、そこから吉野川の三大渡しのひとつだった『柳の渡し』で吉野へ渡ったのだから、六田は吉野の玄関口だった」という歴史的な考証と、さらに六田から地形図に道の印すらない大平山に登り、桜峠へ縦走するという熱心さにほだされた。

彼が縦走するという尾根は吉野の花見でよく知られている、例の売店がずらりと並んだ観光尾根の、左曽川を挟んだ西側の尾根だった。地形図を見るかぎり標高は低いものの、大きくゆるんだ等高線と複雑に曲折する尾根で、うまく縦走できるのだろうかと多少の不安がよぎる。しかし、道を行きつ戻りつ、迷いながらも尾根をたどるのが低山歩きの醍醐味でもあろう。一日たっぷりと山を楽しめそうで、若いリーダーの提案にも大いに共感を覚えたのだった。

「柳の渡し」は、六田駅から国道を進行方向へ少し歩いた所にある。川床にそれらしき跡と柳の木の下に万葉の歌碑が立っていた。もちろん今はその先の美吉野橋で吉野川を対岸の六田へ渡る。

六田からは大平山北麓へ到る林道の終点まで入る。地形図に道はないが、林道終点から細い山道が大平山まで続いていた。地形図に道の記載がなくとも、こうした里山にはたいてい道があるものだ。ただし、その道が自分たちがめざしている道かどうかを、視界のない山で取捨選択しなければならない。そこが低山をさまよい歩く楽しさでもある。

私たちがたどった尾根も、そのようなごくありふれた里山の尾根だった。地図と磁石とをに



らめっこしながらめざす尾根をたどっているうちに、突然目の前が開けて驚いた。なんと、開発中のゴルフ場だ。一木一草たりとも生えていない荒野を二度ほど目の当たりにする。当然道は途切れたが、なんとか目的の尾根はたどれた。しかし、私たちの低山歩きの興味がそがれたのは言うまでもない。

バブルで私たちは多くの山を失ったが、まだしてもバブルの再現かと惜けなくなった。

途中で山の神の祠に出合ってほっとしたが、久しくほったらかしで祭祀された形跡は見られない。目的の尾根には細々と山道が続く。おそらく桜峠から歩かれた昔ながらの生活の道だったのだろう。そんな道の真ん中で観光会社の「立入禁止」の大きな看板に出合う。看板を無視して進む。桜峠が近づくと地形図にない林道が現れ、ここにも私たちが歩いてきた尾根へ向けて「立入禁止」の看板があった。観光開発業者に山ごと買い占められたようだ。

この尾根歩きも、きょうが最初で最後かと思った。以前はどこの里山でも自由に歩けたのだが、せちがらい世の中になったものだ。各地で入山禁止の山が増えたようだが、登山者のマナー云々の問題だけではないような気がする。山も金になるという経済性を優先させるがあまり、心のおおらかさがなくなったのではないか。

桜峠にはわけなく着いた。地蔵堂があり、散り染めた桜の木に囲まれたいい峠だった。この日は峠の地蔵の祭りがあったらしく、祭りの終わったあとに数台の車が駐まっていた。「もう少し早かったらいっしょに酒を飲んでもらったのに」とこの人たちは実におおらかで親切だった。地元立石の人たちだったが、全員車での参拝だった。

地図には立石からの峠道もあるが、調べてみるとすでに植林のなかに消えていた。もし林道がなければ、山の神の祭りも衰退するいっぽうなのかも知れない……、やがては山も……。

脳天さんへくだり、蔵王堂に登り返し、混み合う観光客に混じって、ふとそんなことを考えていた。

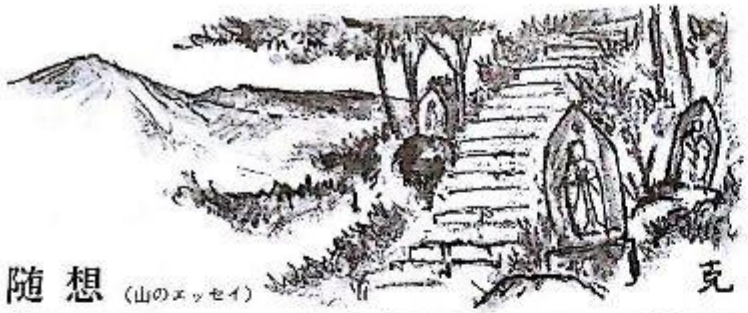
四方山話（よもやまばなし）(4)

―モンセラットへのお誘い―

芝野　泰明

光と陰の国スペインへの旅行で、団体ツアーには含まれていず、訪れる機会の少ない山を紹介します。

バルセロナのやや北西に位置するモンセラットは、カタルニャ



随想（山のエッセイ）

公営鉄道のスペイン広場地下駅から約1時間の距離にあります。発車した六輌編成のゆったりとした列車は郊外へ出ると地上を走ります。沿線はベッドタウンですが、間もなくアーモンドの白い花と杏のピンクの花、そしてオレンジの木の緑に彩られ、南欧の暖かさに満ちた田園風景となります。強い日差しが眩しい白壁の家々を眺めているうちにモンセラット口駅に到着します。

見上げるとお化けのような岩山が頭上にのしかかってきます。モンセラットとは「鋸山」という意味で、かつてワーグナーはこの山を舞台に曲を作り、かのガウディもしばしばここを訪れて建築のインスピレーションを得たということです。駅のすぐ横のロープウェイは45人乗りの丸型のゴンドラで、随時発車し、約6分程で山上駅に着きます。眺望は徐々に開けてきます。

ここはカトリックの聖地で、まずは店舗の並ぶなかを通って修道院に入り、午前のミサに神妙な面持ちで参列しました。礼拝堂には十二世紀以来「ラ・モネレッタ」と呼ばれる黒いマリア像がまつられ、ここの少年合唱団の美しい歌声は有名です。

ミサ終了後、修道院近くからさらに聖ヨアンへケーブルカーで上がるとすでに海抜900㍍の地点です。山は大きくなり、下からは一つにしか見えなかった岩塊は、いくつもの岩峰に分かれ、まるで肉厚の指を大空へ突き出したようです。山裾や麓部には針葉樹に似た低木と雑木が茂っていますが、ほとんど裸の岩山という感じです。最高峰・聖イエロニーは標高1235㍍のモンスターで、頂点には十字架が立てられており、ロッククライミングによるほかは登頂できません。

山頂駅からは二つのハイキングコースがあります。その一つのドロミテのドライチンネに似た最高峰の裾を一周するコースを選び、ドイツ人父子といっしょに歩いてみました。日本人は全く見ません。コースはアップダウンも少なく、整備された安全な道です。東側から逆時計回りに進むと、山容は次々と変貌し、陰から陽へ移り、最後の西側へ出た所では遠く西南方向にコスタ・デル・ソルが望まれ、南欧の春の山と太陽を満喫して心地よい疲労を覚えました。

各コースの歩行時間は約1時間程度で、他のコース上にはいくつかの修道院や教会があるようで、信仰につつまれた聖地の印象を強く受けました。

交通費は往復で約2500円位です。なお鉄道を除く交通機関は午後1時より3時まで運転を休止する昼休みの慣習がありますのでご注意ください。

何物かの遠吠えがこだまする

鹿嶺高原

松田敏男

南アルプス

登山はあっけなかった。タクシーで上まで登ってしまったのだから。富士見駅よりタクシーに乗って鹿嶺高原をめざした。中央自動車道から黒い鹿嶺高原を見て、予想していた雪など、どこにもないのだろうかと不安になっていたが、果たして、登れど登れど雪が現れることはない。車止めのクサリも外されていて、タクシーの運転手さんもあれれと言いながら、ヘアピンカーブを何度も切って登りつめた。山頂近くでやっと雪道になったが、あっけない登山で、運転手さんも私も拍子抜けの面持ちで車から降りることとなった。まあ単調な落葉松林の舗装道路なのだから、あまり歩く気にはなれなかったので、それはそれでよかったものの、それでもやはりありがたかったのか、それともうら寂しいのか、変な気分だった。

ちょっとした遊園地になっている山頂の一角へ数十歩で上がる。目の前に駒ヶ岳や仙丈ヶ岳が出迎えてくれた。何か気恥ずかしい気分で簡単にあいさつ。早々に尾根伝いの林の中に入った。スパッツなどいらない、靴がもぐるほどの深さもない雪の道を歩く。

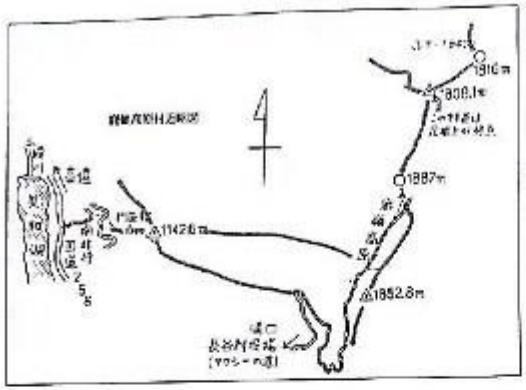
地形図では少し先のほうが標高も高いし、テント場にはよい広場がありそうに思えて進んだのだった。40分ほど歩けば落葉松林から抜けて林道に出た。タクシーを降りた地点の左奥にのびていた道の先なのだろう。

林道の左側ののり面を登って、一段上の平原に出る。晴天の冬の青い澄んだ空、静かな雪原、駒ヶ岳と仙丈ヶ岳の展望。申し分のないこと、このうえない。私だけの足跡を雪の中につけながら雪原を進むと、タクシーを降りて登った所にあったのと同じ鉄製の展望台があった。その近くの松の下、ここが本日のテント場か

テント場より駒ヶ岳（左）と仙丈ヶ岳（右）

と思ってテントを広げるが、座ると駒ヶ岳も仙丈ヶ岳も見えにくい。テントを広げたまま、あちらうろうろ、こちらうろうろと移動した。あまり足跡をつけないように同じ所を踏みながら、樹林帯の中に入っていく寸前の、雪原のいちばん奥に決めた。

テントを開ければ、真正面に仙丈ヶ岳。顔を出して少し左を見れば駒ヶ岳。ああ最高だ。まだ昼過ぎ。今朝家を発ったのに、半日でこんな幸せな場所にテントを張っているとは。この味を知ってしまっては、今後厳しい山行ができなくなりそうだ。



まずはコーヒーをたてよう。テントを開け放って仙丈ヶ岳を眺めながらお湯を沸かす。何というくつろぎ、たまらないほどの贅沢。心配なのはあとからどやどやと車で人が登って来ないかということのみ。出発前はスノーバイクが心配だったが、雪がないから大丈夫。次に予想されるのは鉄砲打ち。思い込みもあるだろうが、これまで出会った一期味の鉄砲打ち」は面構えがどうもいただけない。

テントの中からコーヒーを沸かしている風景を、仙丈ヶ岳を背景に入れて写真におさめる。青空に白く大きい仙丈ヶ岳。優美な山稜を左右に広げて雪を光らせている仙丈ヶ岳。食事用の水を雪からつくり、ひとしきりゆっくりと休んだ。

テントの裏手を登ってみた。樹林をぬんのひと登りで、林がわずか切れている所があった。鹿嶺高原が一望に見下ろせた。その上にふたつの大きな峰が間近に望まれた。落葉松の影が左に青くきれいに並び、夕日の赤みで茶色の枝々がくっきりとした輪郭で浮かび上がっていた。こんな美しい光景はもはや絵にできない。描かないままにしようか。でも一枚ぐらい描かないと後悔するかもしれない。風景を見慣れてしまっては、手も足も出ないように思えるけれども、描いてみた。いや描くというより、座ってじっと眺めていたようなものだった。刻々と変わっていく光の美しさに見とれた。

テントまでゆっくり歩いても一分。夕食としよう。テントを張った時に、雪をビニール袋いっぱいにかき集めてあるから、雪が溶けても連泊は大丈夫。なにしろナサが半分ほど出ているのだから、雪山とは言い難いところが少々残念だ。

夕食後、一日の終わりの御きを、裏山に登って堪能しよう。冬枯れの落葉松林が、絶句するほどの紅に燃え立っていた。鹿嶺高原全体が色をなくして夜を迎える黄昏きに眠り始めると、風景の主役は駒ヶ岳と仙丈ヶ岳の輝きに移った。それまでまだ黄色だった雪の峰が、夕日の最後の光を受けて紅色に染まりだした。空は深い青で、もう眠っている。紅い輝きの境界線が山腹から山頂へ次第に上がって

いき、最後の一点が消えた。いわばスポットライトの中で大見得を切った千両役者が、拍手喝采を浴びながら幕がおりて芝居がはねた時のように、私は我に返ったのだった。突然襲ってきた足元の暗闇。早く我が家へ帰らなくちゃ。でも心配は無用なのだ。テントまでは歩数を数えられる程の近さなのだから。

ろうそくを灯して、夜のテントを楽しむ。と、突然、動物の吠える大きな声が響き渡った。明らかにこちらを向いて吠えている。近づきはしない。しかし威嚇しているのは間違いない。ヘッドランプは灯したまま、ろうそくは消してみる。あまり変化させて刺激を与えてもいけないし、明かりをつけて私の存在を示しておくことも必要だと思った。距離は300㍍ぐらいだろうか。たぶん雪原の南の端あたりだろう。虚空に何度も何度もくり返し吠える声が響く。すばらしい声だなあと惚れぼれ聞き入った。人間の声など、ほんとうにとんまな弱々しい声だろうなあ。確ではない。カモシカとも違う。ヌヌカミは存在しないから、クマなのか。キツネのような小さな動物とは思えない。途中に沈黙をはさんで5分間ほど吠え続けていたが、立ち去っていく気配がした。繰り返し吠えながら、遠のいていく早さに驚いた。山にさえぎられて、左側へこだましながら消えていった。元の静けさが戻った。

ヘッドランプも消して外に出ると、星空が美しかった。目が慣れると雪原は意外に明るかった。前にある松が雪面に影を落として、漠とした存在感があった。天空には点滅しながら移動していく飛行機をいくつも見かけた。この場所の少し南が航路になっているのだろう。人のにおいが遠いかなたに点となって移動している。こちらから確認できても、飛行機に乗っている人は私を確認できやしない。自然の動物に仲間入りしたような感懐がよぎった。おおげさに感じすぎていることに笑しくなった。もう一度ゆっくり天を仰いで、天の川の星雲を見つめた。

次の日は一日中、乗鞍高原の中を歩いたり、裏山の奥の最高地点まで行ったり、カメラ片手に散策三昧をした。周囲の景色は変わらない。ただ自分の心のみが、時間を意識するたががゆるんで変化していくのだった。絵も描かずに、とりたてて何をすることもなく、湯治客が日がな一日、何度も湯につかるように、テントの中と外の生活を楽しんだ。

夕方近い甲斐駒ヶ岳と鹿嶺高原

3日目はテントをたたんでおりることにした。きのう登った樹林の中の最高点を過ぎ、左への下山路を選ぶ。両面の切り開かれた道となり、雪は全くなく今までの山深さは一気になくなって、里山の気軽な雰囲気となった。しかし刈り込んであったはずの道が次第に怪しくなり、下までくだれるのだろうかとしばらく思案する。元の分岐に戻り、北上することにした。

尾根上にはテープが付いていて、道は怪しいが歩ける。足早に歩けば樹林の間から北岳らしい白い尖鋒が望めた。テント場では見えなかった角度に変わってきた。しかし持参した地形図では、現在地はもう北の隅。テープはあるけれども現在地を確認できない道は危険だ。また思案する。元に戻るのは何か気恥ずかしいけれどもそれが一番の安全策だ。本日も上天気、下山するだけの時間はまだあるが、下界で一泊するより、逗留して自分の居所になるつつあった所にもう一度テントを張ろうと決めた。そう思うと気分がなごんだ。

同じ場所にテントをすえ、同じ木にロープを引っ張った。晴天続きでも気温が上昇しないのか、日陰にはしっかり雪が残っている。きれいな雪をササの上からすくい取る。新鮮な気持ちがふみがえってきて、絵を描いた。一枚だけで下山するところだったのに、続けて二枚描いた。

夕方には遠くで鉄砲の音が何度かして気分が潤ったけれども、また静かな夜を迎えた。

下山は尾根通しに戻らないで、尾根の西側の林道を歩いた。中央アルプスが美しかった。乾いた車道は長かったが、ときおり樹林が切れて、白い中央アルプスが輝いていた。その高度が徐々に高くなっていくのを楽しみながら下山した。タクシーで登る時には外されていたクサリがかけてあったので、その地点までは全く一人だった。

雨のかなたに双子峰の二尾山が背くらべきりと天空をかぎって印象的だった。次は必ずあの峰に立とうと思い描きながら下山した。

（平成8年12月27日～30日歩く）

＊文中の駒ヶ岳は、甲斐駒ヶ岳のことですが、終始伊那側から眺めたので、駒ヶ岳としました。

△コースタイム▽

鹿嶺高原入口（50分）鹿嶺高原最北端（ピーク1815㍍往復4時間40分）（4時間15分）南北持

△地形図▽

2万5千＝信濃溝口・甲斐駒ヶ岳

新ハイ例会・自然観察山行

薬師岳から五色ヶ原

鷲見守康

北アルプス

梅雨前線が太平洋上に南下し、梅雨明けするのかどうかも分からないまま、7月例会山行の初日を迎えてしまった。しかし、富山地方鉄道有峰口駅に三々五々集合した16人の頭上には、夏の青空が広がっていた。

折立へのバスは臨時増発され、係員から私たち予約組16人は臨時便に乗車してはどうかとすすめられた。定刻前にメンバー全員が揃っていたこともあり、私たちは他の登山者を尻目に臨時便に乗車した。夏の北アルプスを集団で歩くにはやはり予約は欠かせない。

バスの終点地、折立は広々としたキャンプ場で、水道・トイレも完備している。予想以上の登山者の数だ。準備運動、パーティメンバーの自己紹介の後、水の補給など身仕度を整え、出発。

登山口には見事なミズナラの大木が二本あり、太郎坂に入ると左に愛知大生の遭難供養塔を見る。昭和三十八年、厳冬の薬師岳東南稜で愛知大生13人が全員死亡した遭難は、当時愛知県に在住していた私の記憶にいまも残っている。連日の報道に接して、私の母は「大人になっても山へは行かないで」とポツリと言ったものだった。

周辺はブナ（ブナ科）を中心にした冷温帯落葉広葉樹林で、しばらく登ると、オオシラビソ（別名アオモリトドマツ・マツ科）を主体にした亜高山帯針葉樹林となる。爽快な稜線歩きをめざす登山者には不人気な樹林帯だが、キタゴヨウやコメツガ（マツ科）、そしてヒノキそっくりのクロベ（別名ネズコ・ヒノキ科）もあり、それぞれが大木となって共存している姿は、実に素敵だ。

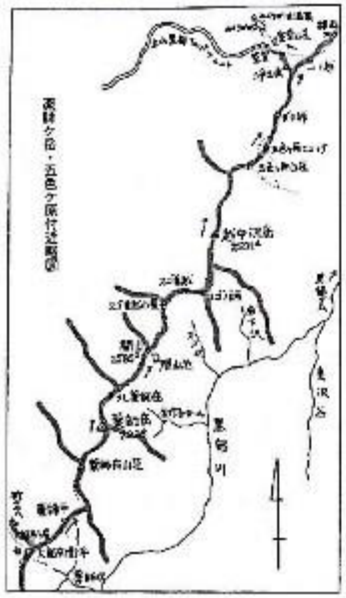
太郎兵衛平と遠く白山

やがて、この樹林を代表するオオシラビソ・キタゴヨウ・コメツガ・クロベの合体巨木にも出合い、森の精の存在すら感じられるようになる。林床にはゴゼンタチバナ（ミズキ科）が咲いている。四枚葉の株はまだ若く、花が咲くのは六枚葉になってからだ。

野鳥のさえずりは少ないが、ホーイチョチョとクロジ（ホオジロ科）が唄い、コマドリ（ヒタキ科ツグミ亜科）はヒンカララと声を響かせていた。

1871㍍の三角点に到ると展望が開け、東に薬師岳のどっしりとした山体、南に平坦な太郎兵衛平、北には佐々成政の埋蔵金伝説のある鍋嶋山が秀麗な三角錐のピークを見せている。薬師岳の左には、立山の雄山や剱岳もくっきりと浮かび、きょうの晴天を登山者がそれなりに喜び合っている。どうやら、梅雨は明けたようだ。

三角点を過ぎるとスゲやササの生える草原状となり、ゼンテイカ（別名ニッコウキスゲ・ユリ科）・イワイチョウ（ミツガシワ科）・タテヤマリンドウ（リンドウ科）が群落をつくっている。タテヤマリンドウは低山にあるハルリンドウの高山型で、色も普通は透明度の高いブルーだが、ここ立山連峰には白花種が多く、シロバナタテヤマリンドウと呼んでいる。



16人のメンバーは、昨夕から夜行バスや夜行列車、あるいはマイカーで集合のため、全員が睡眠不足だった。私自身一睡もしていないし、また自然観察を行いながらの山行だから、先頭を歩くリーダーの私のペースは当然ゆっくりなはずなのだが、休憩時、「花がないと速くなる」と指摘され、思わず苦笑した。

2196㍍ピークで昼食をとり、太郎平小屋に到着したのは13時。小屋では新ハイキングクラブ関西の会員の方に遭遇した。私はまったく面識がなかったが、メンバーの何人かの人たちは顔なじみだったようで、この山行中、スゴ乗越へのくだりでも、また、解散地の立山一ノ越乗越などでも新ハイ会長に出会っている。夏の北アルプスのどこででも出会うような新ハイ会員の幅広い行動力に、ただただ脱帽するばかりであった。

二日目。今回の山行のメイン、北アルプス随一長大な薬師岳の登高である。

6時に太郎平小屋を出発。きょうも空は晴れ上がっている。いったん、キャンプ指定地の薬師峠にくだり、沢沿いに登り返す。シナノキンバイ（キンポウゲ科）やミヤマキンバイ（バラ科）など、これから立山までの登山道を華やかに彩る花たちが姿を現してきた。

1時間ほどで薬師平に到着。開けた広場の東南方向に、槍・穂高連峰の峰々がきれいだ。太郎兵衛平の周辺ではバラバラと散在していたコバイケイソウが群落としてまとまってきた。コバイケイソウは、ほぼ四～五年周期で花を咲かせる。今年の6月初旬、越前の荒島岳を歩いたとき、山頂付近のコバイケイソウを見て、今年はどうやら咲き年だと予測したのだったが、その予測は正しかったようである。

薬師平は撮影ポイントで、メンバーはカメラを構えた。この山行中、休憩以外にも何度か撮影ポイントで立ち止まり、私たちはカメラのファインダーを覗いたり、あるいは花を愛でたりしたのだが、コースタイムはほぼガイドマップの標準

タイムに等しかった。

薬師平から、薬師岳の雄大さを見上げながら一歩一歩登る。残雪の消えた雪田草原にチングルマやハクサンイチゲなどがいっせいに花を開いている。

まもなく、薬師岳山荘の建つ肩の付近に出た。このあたりは、周氷河作用による岩屑斜面が広がり、タカネスミレ（別名タカネキスミレ・スミレ科）が点々と咲いている。いわゆる高山荒原草原なのだが、冬期に強風で雪が吹き飛ばされ、寒冷下で岩石の凍結融解作用が生じて小石や砂が動くこの斜面には、タカネスミレやコマクサなどしか入り込めない。タカネスミレやコマクサは、高山植物の中でも実に生命力に溢れた花なのだ。

タカネスミレの咲く地表から視線をそのままずらしていくと、南の空に白山、御嶽が美しく浮かんでいる。見遣しのよいきょうの天気は、山岳展望を求めて登高意欲がふつふつと湧いてくる。登るにつれ、迫り上がってくる山々に、メンバーは山頂を待ちきれず、山座同定にいそしむのだが、山名をめぐっては議論がぶつかる。

9時、薬師岳山頂に立った。東方向に北アルプスの山々のすばらしい眺めがある。槍・穂高連峰は言うに及ばず、この薬師からは黒部源流の山、黒部五郎・水晶・赤牛・雲ノ平など、裏銀座の野口五郎から烏帽子岳、後立山連峰の針ノ木から白馬、そして立山連峰と広がり、ぼんやりと霞む富士山も見えた。立山主峰と（言えば、台形状の山容を思わせるが、ここ薬師の位置からは、雄山が剱岳にも劣らぬピラミダルな姿を見せている。

山頂の祠の前で全員の記念写真を撮り、再び出発。まもなく東面に金作谷カールを見下ろす。カール壁からカール底まできれいな残雪が広がり、カール底にはS字状のモレーン（氷河が削りとった岩屑などの丘）がくっきりと浮かんでいる。この金作谷カールを含め、薬師東面のカール群は特別天然記念物に指定されているのだが、さすがに雄大な景観である。

山頂から北薬師岳まではさらに1時間を要した。稜線から見下ろす東の峡谷は、黒部川上流下と呼ばれる。標高差は1000㍍ほどもあるのだろうか。眼下に清流を眺めながら進むアルプスの展望尾根歩きである。

北薬師付近で、虚空に舞う蝶を見た。「高山蝶か！」と私は色めき立ったが、アサギマダラ（マダラチョウ科）だった。低山の蝶なのだが、この3000㍍の稜線にまで、風に吹き上げられてきたのだろう。

北薬師で早めの昼食後、きょうの宿、スゴ乗越小屋をめざしてさらに稜線を歩く。リーダーであるにもかかわらず、途中で出合う雪渓や雪山の誘惑に負け、不規則な休憩をとる。お目当ては、雪でつくるかき氷だ。表面の汚れた雪を払って雪渓をスプーンで掘り、カップによそってコンデンスミルクをかければ「ミルク氷」の出来上がりである。これが実においしい。そして、口の広いポリタンクに雪を入れ、水が補給しながら冷やす。

かつて西穂から奥穂へ縦走したおり、険しい岩稜帯で日差しを受け、緊張感と体力的な苦しさとで喉はカラカラの状態だった。ザックの軽量化のため一缶のポリタンしか携行せず、水は次第に乏しくなった。そのとき、天狗のコルなどの雪渓の雪をポリタンに入れ、水を補給しつつ歩いた。水を確保できた安心感からか、冷えきった水の喉ごしは、涙が出るほどおいしかった。それ以来、夏のアルプスを歩くときには、必ず口の広いポリタンとスプーン・カップ、そしてコンデンスミルクを持参し、雪の誘惑には積極的に負けることにしている。

スゴ乗越小屋には、14時に到着。昔ながらのいかにも山小屋然とした古い小屋で、周りはガスが立ち込めていた。夕食まで時間はたっぷりあり、前日に引き続き自然に宴会が始まる。きょうはほとんど全員参加で、宴会は新ハイの山行にはつきものだという声も飛び交い、いやがうえにも盛り上がる。メンバー一人一人の個性がキラキラと輝く。

宴たけなわとなって笑いの渦の中で新ハイリーダーの寸評が始まり、下山後のアフターケアのないリーダーが槍玉に挙がった。下山して

「それではみなさん、さようなら」

とさっさと帰ってしまうリーダーの話に、つい私も引き込まれていっしょに笑ったものの、実は私自身、そんなリーダーの一人である。

五色ヶ原と立山

三日目。小屋からスゴ乗越までいったんくだる。周囲はオオシラビソを主体にした亜高山帯針葉樹林で、夏の亜高山帯を歩くと必ず出会うメボソムシクイ（ヒタキ科ムシクイ属）がチョリチョリチョリと虫のようにさえずり、ルリビタキ（ヒタキ科ツグミ亜科）はヒリョヒリョヒュルヒュルとこころがすように唄っている。いわば亜高山帯定番の鳥だから、覚えておくと楽しい。

乗越からスゴの頭への登りはかなりきつい。森林限界を抜けると岩塊帯となり、やがて眉に出る。昨日越えた薬師岳が東のカール群を見せてそびえ立ち、すばらしい。その左には、水平線のような稜線の上に、笠ヶ岳が秀麗な頭を出し、絵画のごとき風景である。

また、いったんくだり、今度は縦中沢岳への登りである。岩場が続き、イワギキョウ（キキョウ科）でも姿を見せてくれたらうれしいのに……などと考えながら歩いていたら、チシマギキョウ（キキョウ科）が紫棟淡いていた。チシマギキョウは紫色が濃く、ちょっとだらしない感じで咲くが、イワギキョウはきりりとした花で、私はイワギキョウのほうが好きだ。両者の見分け方は、萼緑の鋸歯やがく片の形によるのが確実だと思うのだが、一般的には、花びらの内側に白い長い毛があるのがチシマギキョウで、無毛のものがイワギキョウと区別できる。

越中沢岳を越え、越中沢乗越で早めの昼食後、高山をめざす。この高山がなかなか厄介な山で、登っても登っても次々とピークが現れ、「山が逃げる」感じであった。けれども、この山行中初めての花たちが現れて励まされる。ガスの中、トウヤクリンドウの群生が風に揺らぐ風衝草原もその一つであった。

高山に到ると五色ヶ原台地が見渡せた。ガスが湧き、流れている。五色ヶ原には木道が敷設され、その木道をたどって13時20分、五色ヶ原山荘に到着した。

五色ヶ原山荘には風呂の設備があり、女性陣は一番風呂をめざして部屋に待機し、男性陣はさっそく宴会となった。当初、私の心づもりでは山荘に早めに着き、植物観察をかねて散策するはずであったが、台地を支配するガスに意欲をそがれてしまった。

台風が少しずつ明るくなったので、宴

を早めに打ちきって散策に出てみると、ミヤマクロユリの花を見た。

四日目。山行最終日で疲れもたまっているのだが、解散地の立山をめざして全員元気よく出発。

五色ヶ原台地の北端の湿った草地で、今回の山行では半ばあきらめていたハクサンコザクラに遭遇した。ハクサンコザクラは日本海側の亜高山帯や高山帯に特産し、アルプスでも中アや南アでは見られない。

五色ヶ原台地から立山カルデラの壁を望見しながら、ザラ峠にくだった。武将佐々成政の立山越えとして有名なザラ峠だが、1584年、越中国（富山県）から徳川家康への連絡のためこの峠を越え、さらに針ノ木峠をも踏破して大町に進行したのは、てっきり夏だと信じ、このときもそんな説明をしたのだが、文献を調べてみると、冬のザラ峠、針ノ木峠越えであったようで、改めて驚かされた。「日本山岳史上のセンセーショナルなできごと」という指摘もうなずける。

ザラ峠から鹿子岳へ、苦しい登りだ。登るにつれ、ミヤマタンポポ・ミヤマクワガタ・イワベンケイなど新顔の花が姿を見せ、眺められる。メンバーの中から、二種の草花について質問が飛んだ。一つは、アカネ科の花なのだが、この科の種名は即答が難しく、ムニャムニャと口ごもってから「調べておきます」と逃げる。調べた結果、エゾノコッバムグラであった。もう一つは、最初の糸口で思考回路が切れ、科名さえもとんと分からなくなってしまった。結局、わが家に帰った後、突如として思考回路が繋がり、「そうだ！ゴマノハグサ科クワガタソウ属だ」とひらめいて、ヒメクワガタとした。こんなふうに一旦もつれた糸がパッとほぐれることもある。

鹿子谷から鬼岳のコルで、後方を歩いていたメンバーは、運よくライチョウの親子に出会った。鬼岳は、名の通り荒々しい岩塊の山で、東面を捲いていくのだが、雪渓を三つトラバースする。すぐに竜王岳の登りとなり、ほどなく富山大学立山研究室の建物の前を通って北に浄土山山頂を見ながら、ゆっくりと一の越乗越にくだった。

計画では室堂バスターミナルで解散の予定であったが、メンバーからさらに個人で雄山に登りたいなどの希望も出され、一ノ越乗越の人通りの少ない片隅で、パーティメンバー16人は、3泊4日の山旅を無事終えたことを握手で労い、晴れ晴れとして解散した。

（平成9年7月19日～21日歩く）

◇参考タイム◇

一日目　富山地方鉄道有峰口駅6・15（バス）折立7・25～45―1876ピーク材三角点9・30～45―2196ピーク11・15（昼食）12・15―太郎平小屋13・00（泊）

二日目　太郎平小屋6・00―薬師平7・00―薬師岳9・00～30―北薬師岳10・30（昼食）11・15―スゴ乗越小屋14・00（泊）

三日目　スゴ乗越小屋6・30―スゴ乗越7・00―スゴの頭8・00～10―越中沢岳9・40～10・00―越中沢乗越12・40（昼食）11・20―鷲山12・30―五色ヶ原山荘13・20（泊）

四日目　五色ヶ原山荘6・00―ザラ峠6・30―鹿子岳7・45～8・00―鬼岳東面8・40～9・00―立山一ノ越乗越10・30（解散）

◇地形図◇昭文社＝「4剣・立山」

連載

日本霊山紀行 35

守門岳

1538メートル

浅野孝一

守門岳は越後の名山である。南北に連なる山を見るには浅草岳からがよい。昭和二十年代の後半、私は奥只見の山々と越後三山・浅草岳・守門岳にはよく登った。

その頃の私は守門岳を霊山の対象として登ったのではなく、あまり登山者に登られていない地域の山の一つと認識して登った。

今回守門岳の山頂（別名袴岳）へは大岳・背宝岳を経て登ったが、登山道は起伏が多く長い行程となっているので、十分な体力と時間が欲しい。

山頂にスモン神をまつるので昔から霊山として山麓の人々にあがめられてきた。

『日本山岳志』は「守門嶽（別称袴門嶽・巣守嶽）越後国古志・北魚沼・南蒲原ノ三郡ニ跨ル、古志郡東谷村大字檜垰ヨリ五里北魚沼郡人間郷村字大白川ヨリ三里十八町、南蒲原郡森町字平ヨリ四里ニシテ其山頂ニ達ス、標高四千六百二十尺」と記している。

また『越後名寄』は「嶽巣嶽・嶽海嶽・守門山トモ云リ、古キ書ニ巣守ノ峰トモ有リ」と、『大日本地名辞書』は「守門は名義不詳、或人の詠に『新菊の巣守の山を見る毎に受けし恵みの高さ知らるる』とありて、高巣より出でしにやと云ふ。」と解説している。

6月下旬、山の親しい友人五名で守門岳へ登った。前日は山麓の守門温泉・SLランドに泊まった。

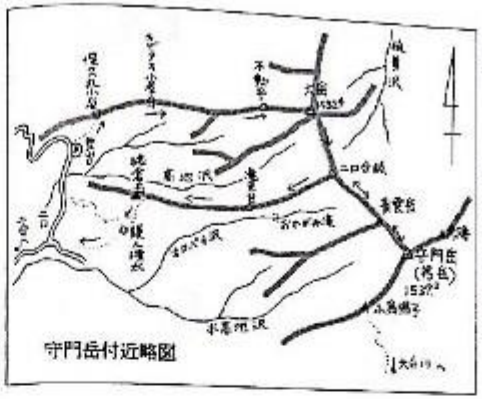
梅雨の最中であったが、空はきれいに晴れあがった。自家用車で保久礼登山口に達し、駐車場から30分ほど登って稜線上の保久礼小屋前に出た。小屋の前に清水が流れていた。

登山道は小屋前から階段となり歩きにくい。途中第一展望台で下方が眺められ

大岳より守門岳

る以外は樹林帯で、1000㍍地点にキビタキ小屋があった。階段の登山道が終わると今度は滑りやすい赤土で、中央は雨水でえぐられている。標高が1250㍍になると登山道はゆるやかになり不動平に達する。右手に不動明王の石像が安置されてあった。

登りつめた大岳には果守神社と彫られた大きな石碑と鐘があり、広い山頂から守門岳に連なる山稜が見えた。ここで昼食をとった。北面の硫黄沢上部のゆるい



斜面には点々とコブシの花が咲いていた。

守門岳へは大岳からいったん約150㍍くだり、そして登り返すが、その登りは急で大変であった。登り着いた地点から二口への登山道が分かれていた。ゆるい山稜を登りつめた地点は青雲岳で、山頂付近は草原となっていて木道の上を歩く。守門岳はすぐその先でひと登りした所であったが、山頂直下のガレ場の通過には若干の緊張が必要であった。

山頂一帯は霧が出てきて、浅草岳方面が見えたのみであった。ちょうど15時に山頂に着き、すぐ下山にかかった。山頂には十二山神社と守山神社の二つの小さな石祠と鐘があった。守門神社は山麓にあって、守門（果守）大明神・高皇産霊尊・神皇産霊尊をまつってあるという。

山頂付近ではオオバキスミレ・シラネアオイ・ヒメサユリの花を見ることができた。

下降路は二口コースを選んだ。上部は比較的ゆるい池木帯であったが、おかがみの滝の滝見台を過ぎ、登山道が細沢の吊橋を過ぎ、谷内平の手前で尾根筋を左手に外れると急坂となり二か所ロープが張られてあった。88㍍地点で日本海に沈む太陽をながめながらひたすらにくだった。猿倉山の肩を通過するあたりはよく滑った。そして日は沈み、灯火をたよりの下降となった。

一番若いU君は先に下山して登山口の車を移動させてから再び急坂を戻って来てくれた。ようやく渡人清水に着いたのは夜もおそい20時近くになっていた。車道におり立つ約150㍍は急斜面であった。私のザックは女性のEさんが持ってくれ、足元はもう一人の女性Sさんが照らしてくれた。それでも私は体力を極端に消耗して何度か転んだり滑ったりしたが、皆んなに助けられた。急斜面の上部に長い二本のザイルが、その下部には太いザイルが取り付けられ、ザイルにすがりついて下降を続けた。下方から川の響きが聞こえてきたが、なかなか近づいてこなかった。

守門岳山頂にて（左端が筆者）

草におおわれた車道の自動車を見た時は、ほんとうに助かったとの思いでいっぱいであった。

二口分岐から本高地沢の車道まで実に5時間を費やしてしまった。そしてパーティに迷惑をかけてしまった。

かつて守門岳へは大白川から登った。私がまだ四十代後半の2月に山の仲間が遭難して道院ヒュッテに救援のため登ったのだが、今回はみじめな姿をさらけ出してしまった。この原因は過四回のリンパ腺治療のための通院にあるようで、仲間の協力がなければ当日中の下山はできなかったのではないかと反省をしている次第、歳はとりたくないものである。

たびたびの引用で恐縮だが『新篇会津風土記』巻之百六　外編越後國魚沼郡之一には「守門岳　堀内村大白川新田村の北にあり、本郡に並び少き高山にして古志郡蒲原三郡に跨る、満山岩石重畳し、風烈く木立なし、東北は大白川新田村に属し西南は本郡公領高村に属す」とあった。

（平成9年6月22日歩く）

《参考タイム》
中高地沢駐車場8・25—保久礼小屋9・00～15—キビタキ小屋10・05～10—1240㍍・不動平11・45—大岳12・25～55—二口登山道分岐13・30～40—青雲岳14・35—守門岳15・05～10—二口分岐16・05—渡人清水17・45—渡人清水20・00～10—車道二口登山口21・15
《地形図》2万5千＝守門岳・穴沢

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604　京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5768
FAX〈075〉231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

〈この花・この草〉

サイコ（*Bupleurum falcatum*）

セリ科

三島地方で良質のものが産したことにその名が由来するミシマサイコは、本州・四国・九州の山地および丘陵の草地に自生、あるいは栽培されています。秋から冬にかけて根を掘り上げて水洗後、乾燥します。

サイコサポニン・フラボノイド配糖体等を含み、小柴胡湯・大柴胡湯等の漢方処方が有名で、肝障害・胃腸障害によく用いられます。サポニンは、中枢神経に対しての鎮静作用・抗炎症・抗潰瘍作用他があります。

ところで、サポニン（saponin）という言葉、皆様一度は耳にされたことがおありでしょう。このsaponはセッケン（ソープ）の意味で、サポニン（水に溶かすと泡を生ずる）を含有する生薬は、セッケンのなかった時代に洗剤料として用いられました。中でもサイカチのさやはアルカリ性のない良質のセッケンだったそうです。また、キラヤ皮・ムクロジの仮種皮などは、女性の洗髪に用いられたとか。

今度、山で見かけたら、試してみませんか？

御前洞から

飛騨御前山

多摩雪雄

飛騨

付知町の宿所

御前山・御前岳・御前ヶ岳・御前峰と数えると、九座が『コンサイス日本山名辞典』（三省堂）に記載され、「主峰の前山で、主峰に祀る神仏を拝むところの意。さらに山に登って神仏を拝しうるので、山自身を祀る場所としての名称がある。展望のよいところが多い」と註記されている。また、河合村と清見村の境、石英斑岩の御前岳（1817㍍）は加賀白山の遥拝所の一つで、小坂町と荻原町の境あり、山頂に磐座のある御前山（1646㍍）は木曽御嶽山の遥拝所と記されている。

冨田弘平さんが「新ハイキング」46 2号（平成6年4月刊）で、「下呂駅近くの下呂御前山も御嶽山の御前峰として昔は登られていた」と集録しておられるのは、同じ2万5千湯屋図中に記載の△1411・8㍍峰で、御前山（五善山）のほぼ真南4・4㌔にある。

さらに、飛騨金山駅西にも御前ヶ岳（664㍍）がある。その他各地にある御前山は、それぞれ主峰の遥拝所なのであろうか。

また、点名五善山についても冨田さんは、「通称御前山ト云ウ関係点ニ御前岳アリ故ニ同音ノ文字ニ換ウ」と、明治三十二年観測時の点ノ記を引用しておられる。

御前山の山頂と1等三角点

不知町役場に若いた時は19時40分。数人の職員がまだ執務していて、宿泊所の手配を依頼すると電話で問い合わせてくれ、役場前の「亀利屋」が近い到着にもかかわらず心よく引き受けてくれた。車は役場の広場に駐車OKとなった。

鮪刺身・鮭大切身・蓮・肉厚焼・菜、汁揚煮物・芋煮物・味噌田楽・茶碗蒸し・味噌汁。部屋は古いが造りがよく清潔。

枯山水の庭もよければ女将をはじめ、宿の人たちの人柄もよかった

このように遅く到着した理由は、付知温泉の某旅館に予約してあったので、留守だったが、客室の流れ縁で1時間余も長いこと待っていた。そのうち、自転車で帰って来た女将は、いきなり「何してる。出て行ってくれ」と、えらい剣幕なので「予約してあるのに留守したうえに何を言うか。無礼にも程がある」。「予約など受けていない。これからすぐ出かけなければならぬから、出て行ってくれ」何か、のっぴきならぬ急な寄り合いができたのであろうが、こんな宿に泊まらなくてよかった。

御前山付知登山道
和谷
大洞
ぶな林
ぶな林
ぶな林

身1時間20分で頂上に達している。

冨田さんは「御前洞の林道終点から中部電力の送電線巡視路で稜線まで登り、九合目の標識のある稜線からクマザサの多い草原状の尾根道で左右に眺望された」とのみ記しておられるが、登路の詳細は記録されていない。

我々は昼食後13時に御前洞へ出発する。図上右曲左曲、また右曲する林道は荒れ、いきなりジグザグに急登して上部の右曲林道に出る。草はボキているが平坦な林道を20分で終点に着く。ピーク1535㍍に突き上げる大石のガラ沢に赤ペンキの指標があり、頂稜上の鉄塔も草斜面も見えるが、その沢を渡り、新設の鉄梯子で御前山の南稜に取りつく。以後、稜の東側の杉林中の丈高ネマガリダケを刈った、狭いがよく踏まれたジグザグの急登は、送電線巡視路として利用されているイタドリ林道で、傾斜がゆるくなると左手に鉄塔の一連が見えてきて、唐松とネマガリダケの道となり、途中15分休んで14時25分、鉄塔88（1580㍍）に着く。

そこは見晴らしのいいササ原で、西尾根上に見えるピーク1535㍍の鉄塔90へ、林道終点から沢を登ってくるササ斜面も見えていて、東へはよく踏まれた腹捲き道もひびいている。おそらく東側から登るルートであろうと、ほぼ水平に鉄塔87のほう（東）へたどってみるが、わずかずつくだっているようなので、鉄塔86へ引き返したのが14時55分。今度は西への道を10分、約300㍍ほどたどると、右の草斜面に大岩があり、かすかな踏み跡をたどって樹林中の草むらを右に左に分け登ること25分、よく踏まれた西稜上に出て右へ、わずかくだって鎖の大岩を登ると15時35分、御前山頂上に着いた。

1等三角点標石は頭部を赤く塗られて規定通りに埋定され、覆盆のないきれいな化粧面に彫りの深い立派な文字面を見せ、粗体まで浮き出ていた。

山頂付近までも針葉樹に囲まれてはいるが、三角点の小丸と溝を刷てた巨岩に御前神社をまつり、その裏手から三角点より高い大岩上に登れば四囲の眺望が得られる。この岩の根から西の桜谷へもよい道がくだって行き、萩原町役場へ7・4㌔とあり、また上村白山神社コースは6・5㌔、3時間とも記されている。

高層雲10、高曇り。北西風5㍍、気温10℃。寒い。滞頂40分、町村界稜上のよく踏まれた道を西にくだると6～7分で猫の鼻観音の石像を左手に拝して、南腹捲き道に16時30分出る。鉄塔89と90の、ほぼ中間の浅い鞍部である。登ること15分で鉄塔88に着き、巡視路No90ゲートには18時20分に帰着する。

この日は久々野町の「三桝屋」に泊まる。新築で設備もよく清潔。人柄もよく、夕食は鯛・鮪・ハマテ・鳥賊の刺身。ハモの煮物。とろろそば・昔おろし。茶蒸むし。魚と茸のすまし汁。

（平成7年10月末歩く）

《コースタイム》文中を参照

《地形図》2万5千＝湯屋

《宿泊》

「亀利屋」（付知町）

一泊二食　7300円

TEL　0573（8）2151

「三桝屋」（久々野町）

一泊二食　7500円

TEL　0577（52）2039

冒険クラブの山歩き＆ハイキング

冒険クラブは日帰りハイキングから海外の登山まで様々な山歩きを楽しむ、特定の会に属さない自由参加の登山旅行です。お気軽にご参加ください。

★10/31(金夜)～11/2(日) 四国・四万十川縦断ハイキング 15,800円(昼1食付)
★11/1(土) 京都比叡山・藤村八丁 9,900円(お弁当付)
★11/1(土)～4(火) 屋久島・宮之浦岳～縄文杉 縦走 123,000円(朝2・昼1・夕2食付)
★①11/6(木) ②11/9(日) 若狭・青葉山 ①7,900円 ②8,900円/(お弁当付)
★11/14(金夜)～16(日) 東京都の最高峰・雲取山 39,800円(朝1・昼2・夕1食付)
★11/21(金)～24(月祝) 屋久島・宮之浦岳と縄文杉 123,000円(朝3・昼2・夕3食付)
★11/22(土)～23(日) 白馬岳と大雪渓岳 31,000円(朝1・昼2・夕1食付)
★①11/10(水) ②12/13(土) 軽井沢・浅間山～草津高原 ①8,900円 ②9,900円/(お弁当付)
★12/23(火祝) 播州・笠形山 9,900円(お弁当付)

他にも山行プラン多数ございます。資料・パンフレットご請求下さい(無料)。

やませみクラブの山行

やませみクラブは登山講習の行なわれる初心者中心の会で、基礎から山を学びながら山歩きを楽しみます。女性や中高年・初心者の参加を特に歓迎します。

★10/31(金夜)～11/3(月祝) 四国・石鎚山～面河渓 39,000円(朝1・昼2・夕1食付)
★11/1(土)～3(月祝) 大峰・大普賢岳～弥山～八経ガ岳 43,000円(朝2・昼3・夕2食付)
★11/8(土)～10(月) 小処温泉～大台ガ原 39,000円(朝2・昼2・夕2食付)
★11/22(土)～24(月祝) 奥高野・荒神岳～伯母子岳～護摩壇山 52,000円(朝2・昼3・夕2食付)
★12/6(土)～7(日) 小豆島・星ガ城山 38,000円(朝1・昼2・夕1食付)
★12/31(水)～1/2(金) 山梨・南駒山～大菩薩嶺 59,000円(朝2・昼2・夕2食付)
★12/31(水)～1/2(金) 九州・宗像連山～開聞岳～指宿温泉 79,000円(朝2・昼2・夕2食付)

他に日帰りプランも多数ございます。詳しくはお問合せ下さい。

海外の山旅お薦めプラン！！

★"地球最後の秘境 パプアニューギニア" 11/15出発(8日間)
最高峰ウィルヘルム山(標4508m)登頂 368,000円
☞熟練登山技術や道具は必要ありません。ポーターやコック同行で楽々に歩きます。

★"世界一美しい散歩道！ シンガポール航空で行く" 12/7出発(10日間)
ニュージーランド ミルフォード・トレッキング 458,000円
☞NZが世界に誇る美しい散歩道。1日40人までという入山規制に守られた生命感あふれる森。一歩一歩が感動の連続です。

★"高山植物が咲き乱れる最高の季節！ シンガポール航空で行く" 12/11出発(6日間)
ニュージーランド マウントクック・フラワーハイキング 208,000円
☞マウントクックを正面に見る絶好の立地、高級ロッジ「ハーミテージ」に2泊。南半球の澄んだ空気をいっぱいに吸いながらのハイキング。

★"アフリカ大陸最高峰" '98.1/11出発(15日間)
キリマンジャロ(標5896m)ゆったり登頂とサファリ 588,000円
☞高度順応日を設け、日本からツアーリーダー2名が同行する安心プラン。キボハットまではプライベートポーターも同行。

☞別途資料ございます。詳しくはお問合せ下さい。

アミューズトラベル株式会社 ☎06-265-3303

運輸大臣登録旅行業第1366号/(社)日本旅行業協会正会員　〒541大阪市中央区本町4-5-3本町三井ビル2号館

スマトラ島の最高峰

ケリンチ山

内田嘉弘

インドネシア

この山は、インドネシア・スマトラ島西部、南緯1度42分・東経101度15分に位置する赤道直下の山で、インドネシア第四位、スマトラ島の最高峰（3805㍍）である。

7月25日、シンガポールのチャンギ空港から飛び立ったシルク航空機からは、タンカーが行き来するマラッカ海峡を横断すると、眼下に緑一色のスマトラ島のジャングルが広がりだした。小1時間後、左窓に雲海から飛び出た富士山のような黒い山が見えた。「ケリンチ山だ！」周りには他の山は見えない。スマトラ島はケリンチ山が最高峰だけに抜きん出ているように見えた。やがてパダンのタビン空港に着陸。空港の建物は屋根の両端がバッファローの角のようにピンと尖ったミナンカバウ族様式の建物だ。

パダンはスマトラ島第二の都市、街の中心のマタハリマーケットを中心に周辺は店舗・出店がひしめき合い、駐車場は車がいっぱいで活気に満ちている。大通りはタクシー・乗合いタクシー（軽四の箱型）・バス・自家用車など往来が激しいが、その横を馬車が駆け、荷台を横に付けた自転車が悠々と動いている。

7月26日、ケリンチ山の登山基地ケリンクッオへ向かう。ミナンカバウ族のバッファローの角の屋根の家が目につく。山間の村々では日本と違って制服を着た小学生や中学生の子どもの数が多い。道端では果物の女王と言われているドリアンやランプタンなどが売られている。ジャングルの山間の道を約5時間かけて標高1500㍍の高地に紅茶畑が広がるケリンクッオに着く。

北にケリンチ山が望めるはずだが、雲の中で私たちには姿を見せてくれなかった。登山基地には「TAMAN NASIONAL KERINCI SEBLAT」と記された台座の上にタイガーの銅像が吠えており、その横にある案内図には近辺の洞窟や湖・滝・虎の絵が描かれている。

ケンリチ山の山頂にて（通訳のジャマリス君と）

きょうの泊まりはこの案内図近くのホームステイ・スパンディ氏（42）宅だ。氏はケリンチ山のガイドも兼ねておられる。氏の持っておられる5万分の1地形図―等高線が1500㍍、1750㍍と2500㍍間隔だけの部分とその間を細かく25㍍間隔で埋められている部分とに丹目で分かれているので未完成図―を見せていただく。それによると、ルートはタイガーの銅像から北西へ車道（農作業道）を5㌔でツィンボウリンボウの登山口へ、ここからジャングルの中を北東へベースキャンプ、そして北へ登りシェルターⅠ、Ⅱ、山頂（3800㍍）と記されてある。

7月27日、ポーター頭スパンディ氏とポーター七人と通訳のジャマリス（22）と私たち七人のメンバーは、登山基地（1470㍍）のタイガーの銅像前から車で登山口へ。紅茶畑が広がり、作業に出かける牛車の列が続いている。それらを追い越して農作業道の終点（1720㍍）に着く。見上げるとケリンチ山の山頂付近がわずかに望める。

登山前のお祈りをすませ、5分ほど歩いてツィンボウリンボウの登山口の門をくぐりジャングルのなかへ。ここは赤道直下で暑いのは覚悟のうえだったが、高地（約1750㍍）で、しかもジャングルのなかは日が遮られるから涼しい。東北東へ緩め上へと道は続く。約20分ほどの登りで八畳ほどの広さの平屋があるベースキャンプ（1880㍍）に着いた。床が落ちていてあまり利用されていないようだ。

ここから北へジグザグの登りが続く、前を行く仲間を撮ろうとするとフラッシュのサインが出る。背の高い熱帯南林のなかは、大きな葉、大きな木が絡み合うようにして上へ上へとのびていて、光が遮られるからだ。オランダ領時代にシェルターⅢ（3900㍍）まで電話線が引かれていた。見上げると電話線を引っ掛ける碍子が大木に残っている。今登っている道はそれを利用した登山道で、ケリンチ山へ登る唯一のルートだ。山道は支尾根上を行くようになり、太い木の根が大きく張り出している。スイス人のパーティ（三人）がくだってきた。「シェルターⅢに泊まり、今朝4時起きで山頂に登り、くだり

太陽の笑顔　風のささやき
お花の笑顔　山の自然のこえ
あなたに見えますか　聞こえますか
花ぽっけ
あなたと私、
みんなで
自然を愛しましょう
私たちにできること "お花つみ" の場合
河川の近くは避けましょう
使った紙は 各自持ち帰りましょう
山歩きのとき、ぜひ守ってほしい
マナーのためのポーチです。
お問い合せは下記電話・FAX番号まで
神戸ザック TEL 078-621-3861 FAX 078-621-3528
栗田 克子 宅・FAX 0774-44-6871

ほシェルターⅢを8時に出発した。山頂は、ビューティフルだった」と言う。

黄色の花が足元に目立ち始めた。喜登から左に回り込むように登り、尾根の末端のコブのような台地（二十人位は楽に座れる）に抜け出た。シェルターⅠ（2470㍍）だ。五、六人掛けのベンチと壊れかけたトタンの屋根がある。ここで大休止、朝食にする。リスが一匹現れた。ここにはトチの実を少し大きくしたような実がたくさん落ちている、それでも食べるのであろうか。この辺りから山道は荒れ始めた。山道が溝状に切れ込み、片足だけしか入らないような溝の続く所も出てきた。沢登りのゴルジュを登るように両足を突っ張って登る所や、木の根や幹、枝をつかんでの登りも出てきた。たぶん、雨季（9月から翌4月）の大雨の際にできた溝であろう。高度が上がるに従って溝の切れ込みが激しくなり、削り取られて落ち込んでいる所もしばしばある。登りづらい山道だ。

通訳のジャマリスは道端に敷物を広げて座りお祈りを始めた。彼はムスリムなのだ。時々樹林の切れ目から向かいの尾根が見える。日本の針葉樹林や温帯樹林を見慣れている目には、熱帯の自然の成り行きにまかせた樹林は隙間がなく暑苦しく見える。シェルターⅡ（3000㍍）は二か所ほどのテントが張れる台地がある。この辺りからラッパ状（二、三㍍の長さ）の赤い花が咲く蔓木帯になってきた。登山道の溝の切れ込みは片足だけしか入らない狭い所が多くなり、落ち込みが深くますます激しくなって、両足を広げ突っ張って登る所が多くなる。木の根を支点にして登る急坂もある。それが終わると稜頭の高さの植生の台地・シェルターⅢ（3240㍍）に飛び出た。見上げるとピークが見える。きょうのテント場はここだ。

「あすは間違いなくよい天気ですよ」と言うガイドのスパンディ氏の言葉に安心してテントに入る。隣のテントは地元ケリシクツオパーティだ。若い女性の歌声が聞こえてきた。素朴な歌声だ。

♪愛する夫よ　早く私の元へ
　帰ってきておくれ

という意味だとジャマリス君は言う。

夜空にオリオン座が輝き、少し上部の欠けた月が大きく見えた。

隣のテントでは男女掛け合いの歌声が賑のなかに響いていた。夜半過ぎに風が強くなり、隣のテントとポーター用の円型のパオのような形のテントは倒れてしまった。

7月28日、6時に出発。5分ほどの登りで稜線に出る。右側は一帯が山頂からガレ落ちている。1965年に大爆発を起こした跡のようだ（スパンディ氏談）。ここから草木はない。シェルターⅣ（3330㍍）まで登ると太陽が昇りだした。太陽の右に見える七つの山々が雲海に浮かんでいる。登山道は落んでいて小石が詰まっていて踏ん張れないから登りづらい。できるだけその横の固まった所を登る。この辺りが最後の急登のようだ。風はなく快晴でシェルターⅢのテントは点のように見える。頂上直下の、難難碑が三つあるシェルターⅤ（3580㍍）の台地に出た。

山頂はすぐそこだ。最後の登りはそんなにきつくない。シェルターⅢの隣のテントのパーティが登頂し終えて下山してくるのに会う。やがてゆるい登りになり、石踏みにインドネシアの旗がたなびく山頂であった。

火口が大きく広がり、一周1・5㌔ぐらいで火口壁は250㍍はあるだろう。

この火口を巡るのは「NOT POSSIBLE!」（不可能だ）とスパンディ氏は言う。ギザギザになった鋭い稜線が一周している。火口の底を覗き込むと赤い円の中には炎の色が見え、噴煙が上がり、時おり硫黄の臭いがした。北東には七つの山々が雲海の上に黒々と島のように浮かび、南にベリービス湖が霞んで見えていた。

山頂での儀式をすませてシェルターⅢのテント場までくだり、腹ごしらえをして下山した。途中でフランス・スイス・オーストリア人の三人組と地元の高校生パーティ二組と出会った。

なお、文中（　）内の標高は高度計によるもので、山頂では3700㍍と示していた。

メンバー　桑原信夫（65）　本多誠也（69）
　　辻川利三郎（68）　渕崎治一（68）
　　辻村哲夫（52）　広井昭子（53）
　　内田義弘（60）　（7名）

スマトラ島の3000㍍を超える山

3155㍍　デンポ山
3314㍍　クミリ山
3612㍍　パンダハラ山
3455㍍　ルセール最高峰
3404㍍　ルセール
3081㍍　ルセールの北にある無名峰
3408㍍　無名峰
3130㍍　〃
3077㍍　レンブ山
3805㍍　ケリンチ

資料『インドネシアの山登り』（のんぶる舎より）

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 霧島・桜島・高千穂
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御嶽山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・荒川・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 両神山・雁坂峠
27 奥秩父2 甲武信ヶ岳・千曲川
28 谷川岳 平標山・仙ノ倉山
29 越後三山 荷頭山・守門岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・奥日光
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 飯豯・会津駒・粟ヶ岳
38 奥鬼怒・尾瀬沼
39 八幡平・乳頭山・秋田駒
40 十和田湖・奥入瀬
41 ニセコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊山・伊吹・鈴鹿
45 御在所・鎌ヶ岳
46 紀伊山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北陸の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 高原高原・二上山
53 金剛山・岩湯山
54 紀泉高原 (紀州中)
55 奥高野 (紀州中)
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 奥吉野・伊那・神高原
59 氷ノ山・後山・那岐山
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 瀬戸の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾
66 屋久島・種子島

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご意見・ご感想がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお聞かせください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社
本社　東京都千代田区九段北4-2-11　電話03(5262)2141(代)　〒102
支社　大阪市北区西中島6-11-23　電話06(303)5721(代)　〒532
営業所　札幌・仙台・横浜・千葉・川越・立川・新潟・名古屋・京都・広島・福岡

カムチャッカの大自然

アバチャ山

生駒登峰

ロシア

近頃、海外登山は盛んで、いろいろなツアーが企画されている。しかしカムチャッカの登山ツアーは初めて耳にした。登山どころか観光にしてもカムチャッカを採用しているプランは初めてであった。

地図を広げて見ると、カムチャッカは北海道から連なる千島列島の先に位置していて、日本からは案外と近い位置にある。しかし日本から直行の運行便はないので、シベリアのハバロフスク経由で大回りしなければならず、行きにくい所である。

旅行社の案内を取り寄せて見ると、仙台空港からアエロフロートのチャーター便を利用し、直接カムチャッカ州の州都ペトロパブロフスクに飛ぶことになっていた。飛行時間はわずか3時間である。

このツアーは特に登山を主体にしたものではなく、カムチャッカの観光の一部として、登山というよりトレッキングとして組み入れられたもので、山以外に川下りやフィッシングなどもあり、温泉とカムチャッカの自然を楽しむプランになっていた。

京都の祇園祭の山鉾巡行も終わり、夏も真っ盛りの暑い7月の下旬に大阪から仙台へ向かう。

地方の小さな空港だと思っていた仙台空港は、立派な国際線ビルも建設中で、これからの地方の時代を思わせた。

アバチャ山

チャーター便の乗客は根室市の友好団体や交流使節の人たちと、私たち30数名の観光客の、総勢90人余りで、機内は空席が目立っていた。

チャーターのアエロフロート機は老朽化が目立ち、座席の一部がほころび、今のロシア経済を象徴しているかのようだった。

仙台からカムチャッカの州都ペトロパブロフスクまでわずか2時間50分。国内旅行と変わらない遠さで、いかに近いかを実感させられた。サマータイムの関係から現地時間との差は4時間。午後2時に仙台を飛び立ち、ペトロパブロフスク空港には午後9時到着となった。

しかし緯度の高い所とて太陽はまだ西の空に高く輝いていた。旧ソ連時代の名残りか入国の手続きは慎重で、長い時間がかかった。

日本ではとっくに廃車だと思われるボロバスで30分余り走って、町の高台にあるホテルに到着する。町でも高級なホテルらしいが、玄関ドアのガラスもなく、部屋にはガタピシのベッドに裸電球がぶら下がっていた。遠れた便座のトイレ。シャワーは水も出ない。とても観光客が泊まれるホテルではない。ロシア経済の貧困を実感させられた。

アバチャ山付近略図

町を走る車のなかには日本車も多く、トラックなどは日本での使用者ネームが入ったままで、日本語の商標や電話番号を見ると思わず日本にいるような錯覚をおこす。日本は新車ばかりでなく、中古車まで輸出しているようである。

北国の夏の朝は早い。どんよりと曇った空の下にいっぱい雪を残した山がそびえる。「コリアック山」（3456m）が鋭く天に突き上げ、その右には少し低いが、残雪の山がわずかに噴煙を上げていた。これが今回私たちが登る予定の「アバチャ山」（2741m）である。

どちらも火山独特の円錐形で、富士山のような山である。町の反対側にも同じような独立峰が望まれていて、富士山だらけといった所だ。地図を見るとカムチャッカ半島には火山脈が走っていて、多数の山が噴煙を上げている。カムチャッカは火山王国だ。

六輪駆動のバスが二台やって来る。アバチャ山の登山基地は「コリアック山」と「アバチャ山」の鞍部にあり、雪渓や川沿いの悪路を走るので、普通の車では登れないらしい。一台に我々一行の荷物と案内のスタッフが、もう一台には私たち25人が乗り込んだ。車輪は直径が1m以上もあり、バスに乗るにも階段が必要だ。

町を外れると舗装が切れ土道となり、猛烈な砂塵を上げながら走る。山の裾野は川が分流し、シラカバ林が点在する。所どころに町の人たちのセカンドハウスが点在する。道はやがて河原となり、左右上下に振り揺らされ、車内のあちこちから悲鳴が上がる。鞍部が近づくと道は雪に閉ざされ、雪渓の上を走ることになる。これでは普通車での運行にとうてい不可能だ。

登山基地に到着する。周囲は広々とした高原で、巨大な「コリアック山」が目の前に迫り、少し離れて「アバチャ山」が形よくおさまっている。沢筋にはまだ雪渓がたくさん残るが、草原は高山植物が今を盛りと花を咲かせ、どこからかキウナギの声が聞こえてくる、のどかな所であった。

小さな小屋が20棟余り建ち、1さばかり奥にも10数棟の村が見られた。山の雪線には10数人のスキーヤーの姿が見える。ここは夏スキー場にもなっていて、スキー

選手たちがトレーニングに励んでいるらしい。また地元の人たちのバカンス村にもなっていた。

下から電線がのびていたが、小屋には配線されていなかった。私たちは新しいプレハブ小屋に分宿する。内部には簡単な椅子とテーブルがあり、部屋の半分が二段のベッドになっていた。屋外に板で即席のテーブルと長椅子が作られ、ここが食堂になる。そばの石囲いの中ではお湯が沸かされていた。

トイレは少し離れた所に掘立て小屋があったが、入り口の扉もない。私はもっぱら青天井を利用した。水場は雪渓からしたたり落ちる水で、スタッフたちは少し離れた沢から運んでいた。

食事は黒パン・ポルシテ・缶詰の魚・鮭の燻製・チーズ・ビスケット・紅茶といったところで、韓国製の即席ラーメンもあった。猛烈に蚊が多くて、ひとときも手を休めることができない。私はモスキートネットを持参していたが、口や目に飛び込むし、Tシャツや薄手のジーパンの上からも刺された。屋外に座っていると、1秒に一匹くらいの割で蚊を叩いていた。現地のスタッフたちは裸のまま、蚊が留まっても気にもしていなかった。もっとも刺されても日本の蚊ほどかゆくならないので助かった。

翌朝6時30分、韓国製のカップラーメンを食べて出発する。現地スタッフの家族や通訳を交え、35人ばかりが一列になって雪渓を渡る。全員スキーストックを一本ずつ持って行く。アバチャ山は雲ひとつなく、山頂にはわずかな噴煙が見える。出発地点の峠は標高約900㍍。山頂まで1800㍍の登りである。

尾根上の道はハッキリしているが、富士山と同じ火山際混じりの砂で、滑りやすく歩きにくい。きょうは風もなく雲ひとつない登山日和である。登山道には雪はないが、山の斜面は一面雪でおおわれ一木一草もない。ひたすら山頂めざして登って行く。やがて二度ばかり休憩をはさみ、ジャングルムと呼ばれる岩峰の下の小さい避難小屋に到着した。少し早いが昼食をとる。皿にはボロボロの黒い食パン一切れに、チーズ・ソーセージの小片だけで、疲れた体では喉を通らなかった。

見上げる山頂から二つ三つ黒点が滑りおりてくる。みるみるその姿は大きくなってスキーヤーが現れる。尾根は雪渓が途切れているので彼らは私たちの所でスキーを履き変える。そうしてひと息つくとたちまち峠に滑りおりていった。7時間かかって登り、くだりは15分とのことであった。

ここからは急な雪渓を横断して行く。いちおう踏み跡がついている。やがて最後には火山灰の急斜面が待っていた。

山頂は硫黄ガスの噴煙が舞い、息苦しい。展望も得られず、火山熱で地面は暖かかった。

登りは約7時間。くだりは雪渓をおりて3時間余り、一日中天候に恵まれ最高の登山日であった。

夜はさぞ星空がきれいだろうと期待したが、白夜ぎみの空はいつまでも明るさが残り、星の数は多くは望めない。しかし北極星は頭上高く、下にはペトロパブロフスクの町の灯が美しく輝いていた。

東温泉の現地

翌日例の六輪バスが迎えにきて山を後にする。その後二か所の温泉に入る。火山脈の走るカムチャッカはいたる所に温泉が湧いていて、現地の人々のバカンス地にもなっている。何の設備もない河原の一隅に湯が湧いているだけで、現地の人々は草原の一隅にテントを張り、水着で温に浸かっていた。私たちも水着で温に入り、日本の温泉場とは全く違うアウト・ドア入浴を楽しんだ。

その後河原のテント村に泊まり、魚釣りをしたが、50～60㌢もの川鱒が泳いでいるのは見事であった。しかしここでも多数の蚊に悩まされ続けた。

翌日はゴムボートで川下りをする。透明な水の流れに身を任せ、カムチャッカの大自然を満喫した。

フリーの一日。オプションでゲーゼルの間歇泉ツアーに参加する。20人乗りくらいの大きなヘリコプターは、軍用機を転用したものなのか、荷物室に簡単な椅子を取り付けたようだ。飛行は安定しているが、騒音は凄まじく話もできない。町を飛び立つと後は横断地帯ばかり、全く人工物が見当たらない。高度が低いから地上は手に取るように見える。ある湖畔では数頭の巨大なヒグマが認められた。山の天候が不良なので回復を待ってヘリはとある草原におり立つ。周辺を散歩してみると、所どころにクマの糞が見られた。けっきょくこの日は目的のゲーゼルには行けず、野生のヒグマを見られたのが、せめてものなぐさめであった。

後日、日本の動物写真家がヒグマに襲われて亡くなったが、そのクリク湖もヘリ・ツアーの観光地の一つで、この日は天候不良で中止になっていた。

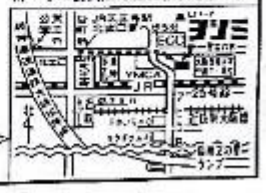
最終日に町でおみやげショッピングをする。今やルーブルの価値は大きく下落し、数年前のソ連時代の700分の1になっていた。もっとも日本人の欲しがるようなおみやげは何もない。生活用品は韓国製がたくさん見られ、車も外観がよく似ているので日本製かと思ったら韓国製であった。

それにしてもまだまだ大自然がいっぱいのカムチャツカであった。

（平成8年7月下旬歩く）

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。

新バイの会員証で更に割引します。



山とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231

連載

比良を歩く①

霊仙山から小女郎峠

秦　康夫

比良山系は金糞峠を中心にして大きく三つの山域に分かれる。琵琶湖岸沿いには南にのびる「南比良」と、北東に向かう「北比良」（リトル比良ともいわれる）の二つ、それと北比良の西側に安曇川に並行して最北端の蛇谷ヶ峰まで続く「奥比良」である。

Yの字状に連なった三つの主稜線と、その他の主な比良の登山ルートを何回かに分けて歩いてみようということで、第一回目は南の端の霊仙山から始めることにした。

比良の北からの縦走路は、権現山で急降下したあと、東寄りに向きを変えて主稜線をはずし、あとは谷沿いの道となって栗原経由JR和邇駅に到っている。このルートでは権現山が最後のピークになり、比良山系もここで終わるかにみえるが、いったん沈み込んだ主稜線はふたたび立ち上がり、小さいながらも端麗な三角錐となって姿を現す。これが南北20数㌔におよぶ比良山系の、最南端を締めくくる霊仙山である。

霊仙山への登山路はいくつかあるが、雪山で数回経験している妙道会聖地からのルートをとることにした。JR湖西線を堅田駅で降り、駐勢17名が四台のタクシーに分乗する。JR和邇駅からの江若バスで行っても20分弱だが（休日のみ運行、平日は栗原まで）、きょうは人数も多いので少しでも時間を稼ぎたい。

ホッケ山から霊仙山を望む

栗原を過ぎ、比良登山口の標識のある所で、縦走路への道と分かれて左に入ると、妙道会教団（大阪の天王寺に本部のある宗教団体で、昭和五十年にここに聖地を建設したとのこと）の緑の敷地が広がる。

妙道会聖地前というバス停が江若バスの終点だが、タクシーの利点で教団の西端をぐるっと回って数百㍍先に進んでもらい、舗装路の切れる手前、金網で囲まれた浄水場の横で降りる。標識も何もない道なりに進むと、いつのまにか尾根をはずれ、左の谷の方向に向かい出しているではないか。あわてて引き返し、もとの尾根道にもどる。ここはとにかく忠実に稜線をたどらねばならない。

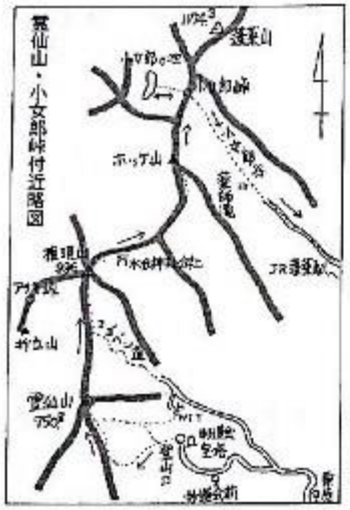
樹木のおかげで直射日光は避けられるが、なにしろ暑い。したたり落ちる汗が、足元の草を濡らし朝露のように光る。水分補給のため、何度か小憩を繰り返す。尾根が広くなり、土が露出して滑りやすい急坂になってきた。

「あった！　あった！」とH女史の大きな声。なにがあるのかと、のぞき込むと彼女が指さすのは、土から露出して登山道を横切る一本の太いツル。12年前この道をおりたとき、右足を引っかけて転倒し、脛骨を折った「根み骨髄」のツルで、さきほどから、目を皿のようにして探していたそうだ。なるほど、登りではそう気にならないが、くだりではつま先が引っかかりやすそうな形で地面から浮き上がっている。これは危ないとナイフで切り取り、彼女が記念品として持ち帰ることとなった。

無線中継所から来る道との合流点を過ぎ、急坂を登りきるとなだらかなササの

いが、ここが登山口である。すぐ東には、湖西線の車内からもよく見える高さ55㍍の立派な金色の宝塔が建っている。

8時55分スタート。西に向かって県営林の林道に入る。入り口に通行禁止の立て札があり鎖が渡してあるが、これはシキミなどを採取するのに車で入る業者を規制するためで、登山者の通行は問題ない、鎖もすぐ外せるようになっている、との妙道会教団事務所の話。簡易舗装の広い道が左に山がるところで、右の小道に入る。道端に置かれた丸太に、霊仙山登り口と書かれた小さなテープが張ってあるが、丸太が移動すればおしまいの頼りない標識である。



作業小屋の横を通り、水でえぐられたような山道を登って行くと、右にNTTの電波塔が見える開けた十字路になっている所に出た。右に登る砂地の道は、上のほうでNTT栗原無線中継所からの登山道と合し、やはり霊仙山に通じている。このほうが近道だが、急な登りが多い。きょうは、尾根の南の端から登ることにしているので、左に山腹を捨くなだらかな道をとる。

小さな谷に架けられた危なっかしい丸木橋を渡り、生い茂った草をかき分けて進むと、左方に琵琶湖の展望が開けてくる。支尾根を一つ越し、霊仙山の南東尾根に出た。あとは、この稜線をたどれば山頂に着くはずである。木陰を選んで小休止。だれかがコシアブラの木の葉を摘んできて、食べ方についての講釈が始まる。若葉をテンプラにするとおいしいそうだ。

小雨木の茂る尾根には、北に向かうしっかりした道がある。折った枝でクモの巣を払いながら、10分くら

なかの道となり、尾根は西に向かう。右数㍍隔てたところには、同じような登山道があり、狭い尾根の右と左に分かれて、つかず離れず頂上まで続いている。数年前この道をくだりに使ったことがあるが、すぐに踏み跡程度の不鮮明な道に変わり、間もなくそれもなくなる。あとはやぶこぎで、なんとか無線中継所に続く林道には出られたが、上のほうだけがしっかりしている、だましのような道だ。

霊仙山（750・8㍍）に着いた。スタート地点から1時間10分。測量のためか、3等三角点の周囲は切り開かれており展望は良い。西方向には、京都北山の諸峰が連なり、愛宕山も見慣れた姿をのぞかせている。すぐ北には、これから行く権現山への長い登り坂。その左に見える霊仙山より少し高い、形のよい小ピークは折立山か。

権現山を真正面に望みながら、雑木の間をぬって急な細道を一気にくだると、なだらかな尾根が北にのびている。樹林帯のなか、休日でもほとんど人を見かけない、静けさにおいては比良でも屈指の散歩道である。ここ4～5年、毎年雪のシーズンに、ワカンをつけて交代でラッセルを楽しむ（苦しむ？）おなじみのコースでもある。

数年前までは、ほとんどなかった目印のテープが、やたらと多いのは少し目障りではあるが、そのかわり道はずいぶん歩きやすくなっている。何回かの軽いアップダウンを繰り返し、ススキが現れるとまもなく栗原からの縦走路に出合った。西方向に折立山への標識があるが、道は悪そうだ。ここでゆっくり休憩。冷凍フルーツ・こんにゃくゼリー・ミネラルウォーターなどそれぞれ栄養補給にいそがしい。

本日最大の難関、権現山への登りが始まる。いままでのおしゃべりが消え、聞こえるのは「ケッキョ・ケッキョ」と鳴くウグイスの声と、時おり吹く風にゆすられる葉音のみ。全員黙々と歩く。何度かの小休止を入れ、やっと頂上直下の展望の開けたナナ原に出た。ここまで来ればひとまず安心とばかり、休憩をかねて後続を待ち、権現山（996㍍）の山頂に全員がそろったのは11時45分だった。

しばし琵琶湖側の展望を楽しんだあと、ここから10分ほど歩いたところにある祠の前で昼食をとることにして、縦走路を北に向かう。めずらしく道の両サイドのササがきれいに刈り込まれている。そういえば、途中の道もそうだった。登山者のために、ありがたいことだ、と話し合っていると、円型の回転式草刈機で作業している地元の栗原の人に出会った。山から流れ出る水の分配を司るという水分神をまつる水分神社の分社が、大切な水源地であるこの山にあり、毎年7月20日に代表10数人がお参りするとのこと。草刈りはその日のためのものだった。われわれはここで昼食をとる予定だ、と言うと快く了承してくれた。

縦走路を東に数㍍入った祠のところで、目の前に琵琶湖を眺めながら1時間ほどのランチタイムを過ごし、12時50分出発。薄雲が太陽光線をさえぎり、少し風も出てきて絶好の稜線歩きになってきた。セミの声がかしましいが、随所に見かける可憐なササユリとヤマアジサイが目を楽しませてくれる。

20分ほどでホッケ山に到着。三角点はないが、山頂はササにかこまれた小広場になっており、展望も四方に開け、絶好の休息場所である。昨年も今年も、冬に来たときは深雪のラッセルに時間をとられ、二度ともここで引き返している。きょうは予定通り行けそうだ。

はるか北の縦走路を、白い人影がかなりのスピードで動いている。よく見るとバイクのようだ。こんな山道をよくやるなあ、と驚いている間もなく、低い爆音が聞こえ始め、ほんの数分間で山頂に来てしまった。訊くと、木戸からキタダカ道を登り、蓬莱山をくだってきて、これから権現山まで往復するとのこと。250CC・重量80㎏の山岳用オートバイで、この道はよく走っているらしい。なんともはや、うらやましいといえば、うらやましいことではある。

小女郎峠の手前の小ピークで一服し、小女郎ヶ池に着いたのは14時10分。ミズバショウのシーズンは終わっているが、少々の騒ぎ声も吸い込んでしまいそうな、黒っぽい静謐そのものの池面が広がる。グループの女性二人は、一昨年の2月、硬い氷が張って雪の積もった池の上を歩き回ったり、対岸の斜面からシリセードで、泡めがけて滑りおりたりした思い出を語りながら、楽しそうだ。

小女郎峠に戻り、小瀬木のトンネルのような、ガタガタの細い谷道を注意しながらくだる。大きな二本杉のある所から道は少しましになるが、右の谷側は崩れそうな所が多く油断できない。小女郎谷を右岸に渡る水場まで来ればひと安心。冷たい谷水で喉をうるおし、顔を洗ってゆっくり休憩する。

下山路の途中、薬師滝における小道があり、ほんの数分で滝の直下に立てる。滝のしぶきを浴びて、周囲の冷気を吸収し、あとは眼下に琵琶湖を見下ろしながらのくだり道。次回の山行のことなど話し合いながら、ゆっくりしたペースで16時50分頃JR蓬莱駅に着いた。

（平成9年7月6日歩く）

Ⓐコースタイム▽

「妙道会聖地」西北端の浄水場横登山口（1時間）霊仙山（30分）縦走路出合（1時間）権現山（30分）ホッケ山（40分）小女郎峠（小女郎ヶ池往復10分）（1時間10分）薬師滝（1時間）JR蓬莱駅

△地形図▽2万5千＝堅田・比良山　昭文社＝「46比良山系」

△その他▽

① 妙道会聖地行き江若交通バス日・祝日のみ運行　JR和邇駅発9時10分　正月・お盆・春秋の彼岸　9時10分・10時18分・11時18分

② 堅田駅から妙道会聖地　タクシー約2500円

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負いやすいザックです。

イモックと呼んでください。

NEW
ウォーキングスナッグタイプ
・ベンチレーションサポートパットにより背中は常に快適。
・バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。
・新型マグネットを採用、アルミフレーム内蔵。
・日帰りから一泊山行まに最適、荷物良きで定番のアタックタイプです。

カラー　ジェードXレッド、ジェードXブルー、ジェードXワイン
容量 38ℓ　重量 1,400g
素材 エステルリップストップ
価格 ¥12,000

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
神戸ザック
神戸市長田区大橋町9丁目3-7
〒653 TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528

連載

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第4回）

「一等三角点研究会」を設立

坂井久光

今西博士は「頂上に登っても何もない山は淋しい。何か何かないと登頂した気分になれない。それで三角点のあるピークを一応頂上として登山にいそしんできた。広大な山ではどのピークが頂上か判り難いときがある」と言われたが、私も全く同感で、また連山など山脈でピークが連続している場合は、どこをもって一山とするかはなはだむつかしい問題である。

3等三角点は約4㌔間隔に一つの割で設置されている。さすが博士は学者で、同じ山域でも約4㌔離れておれば一山と認めることができると教えられて以後、ますます三角点のある山に没頭していった。

十二支会で知り合った元松阪山岳会会長の大西老から、奈良山岳連盟副会長の広瀬氏が1等三角点について研究されていると知らされた。さっそく奈良市の広瀬氏を尋ね、歓談の末、近畿の1等三角点一覧表をいただいて帰った。それをもとに大西老と柳田川南岸の△675㍍を登ってみたら2等三角点だった。50万分の1図に△印があるにもかかわらず。さっそく国土地理院に問い合わせたが、回答者は製図規定を知らないらしく、50万分の1図には主要な三角点のみを△で示しているので、必ずしも1等三角点ではないという返事であった。

その後の登山調査で、50万分の1図に全く表示されていない1等三角点の山（山粘ノ峰・多聞寺山）があることを知り、ますます1等三角点の所在に興味を持つようになった。

広瀬氏の研究をもとに私が登って確かめてくるといったことが多かった。自衛隊に申し込んで、当時の山本隊長と曙庭野基線東端・西端を調査したり、広瀬氏といっしょに百里ヶ岳へ登ったりした。

ダムのため廃村になった旧桂村から大笠山へ歩く

広瀬氏とは比較の1等三角点蓬莱山へ坊村から登ったのが最後の山行となったが、忘れがたい思い出である。

1等三角点は、現在全国で九七一座ある。これははなはだ少ない数で、5万分の1図に一つあるかないかくらいで、小笠原諸島にはない。それほどに希少価値のある三角点である。

私は「一等三角点研究会」現会長である三谷氏の意見を聞き、標高500㍍以上の三角点を登山対象の山と決め、それ以下は登頂しても数えないことにしている。

「三角点を登る会」創立後、1等三角点の山へは昭和四十年に10座、四十一年に22座、四十二年には33座を数えるようになり、器付も今西・伊藤両先輩に次いで、大関になったりした。

その頃の思い出と言えば、前夜発日帰りのつもりで、三城山、東床尾山、来日山と1等三角点三座を登ったが、日が暮れて城崎温泉に下山した時はすでに終便がなくなり、入浴後夜行列車で朝帰りしたことがあった。

昭和四十二年、今西博士が京大を定年退官後、岡山大学に勤められ、その後岐阜大学の学長になられていた。夏休み中、私に声をかけられいっしょに飯豊大のジープで飛騨加須長（廃村）へ行き、峠を越え、野猿の渡しで境川（県境）を越えて越中桂の山田善次氏宅（合掌造）で一泊した。夏なお涼しい家で、裏庭に運如上人の御香水なる泉が湧いており、家々の前庭の小池にはイワナが泳いでいたのが印象に残った。

翌日、前笈ヶ岳を越え大笠山の山頂直下の水場でテントを張り一泊した。その次の日は1等三角点の大笠山から笈ヶ岳3等三角点に登り、さらに奈良岳まで縦走した。湿地にはキンコウカやニッコウキスゲが咲き、高山蝶のキベリタテハや、ルリボシヤンマなる珍しいトンボが飛び交い、快晴で楽園のごとき風景はいまだ忘れられない思い出となっている。

三年前に山崎氏とダムのために廃村になった桂から大笠山へ。二年前にも五箇山の山崎富美雄保勝会長と山形氏と登頂したが、御香水だけが公園の一隅からおいしい水を湧出していた。

前年に今西博士が登られたという飛騨の秘峰・御前岳（1817㍍）へ、森茂氏の家に一泊して登った。ナメコを味噌汁や煮物に入れてたくさん食べた思い出もあったが、一昨年山形氏と再登した時は廃村になり、集落の存在を示すものは神社の跡のみで一面のススキヶ原となっていた。

昭和四十年頃は近畿一円や奥美濃の山々を主として登り続けていた。当時「辰州山岳会」の会長をしていた仲西政一郎氏と森木先生を介して知り合い、山と渓谷社つ近畿の山」に一部執筆し、それが縁で、早稲田大学や学習院大学のワンゲル部などから奥美濃や北山の問い合わせがあったりした。神戸女学院大学のワンゲル部員を案内して愛宕山に登ったこともあった。北山には精通していた（？）ので、今西博士から、翠峰（私のペンネーム）は北山コンサルタントだと言われたこともあり、三角点登頂数も毎年増え続けついには今西・伊藤両先輩とも肩を並べるくらいになった。

また果無山脈の主峰・冷水山（冷水山）も、当時交通の便が悪く、仲西氏に山麓の民宿を紹介していただき、一泊して安堵山から縦走して登ったことがあった。法師山（1120㍍）も同じく仲西氏の紹介で山麓の酒屋さんに泊めてもらい、

三谷氏や京交の牧氏と三人で登った。その時、初めて蜂の刺身を食べたのが、なつかしく思い出される。

この頃、鳥取・兵庫・岡山三県境の1等三角点・三国山（1252㍍）を牧さんと二人で前夜発日帰りの計画で、用瀬駅からタクシーに乗り佐治川林道を山王滝の奥まで行って、そこからネマガリタケのやぶをこいで北へ登ったが、猛烈なやぶに行く手をはばまれ、一つ手前のピークで午後4時頃となり、とても帰りの列車に間に合わないとあきらめて撤退した苦い思い出があった。

その後この山の情報を集めたところ、反対の北側の三朝温泉からバスで中津まで行き、そこからなら登路があることを知り、牧・松村両氏と三人でやぶをこいで簡単に登頂できたことがあった。このことが一人での知識・能力の限界を切実に感じることになり、人々の協力なくしてはとても全国の1等三角点は登れるものではないと悟った。これが「一等三角点研究会」創設のきっかけともなった。

また三国山へは現在南の佐治村から北へ林道ができ、山麓からよい登山路（道標あり）が造られており、数年前京交山岳部と京都山の会の合同山行で登頂した。たんぼり（岩魚）荘で宿泊したが、楽しいひとときであった。この南の佐治村からの登路はおすすめでき、山頂には展望台や六段雪が設置されていた。

全国の山の登頂の夢も生まれてきた。その頃は交通不便で、山小屋などの宿泊施設のほとんどない南アルプスの山々は若いうちに登らねばとの思いで、毎夏京交山岳部の坂田・台川両氏の協力のもと、南アルプスに入った。

赤石岳（3120㍍）を雨中、小渡川の日道を危険をおして登り、広河原の小屋で一泊。翌巨下から吹き上げる雨中をついて登頂したつらい山行もあった。続いて中岳・千枚岳と荒川三山も登り、翌々年は仙丈岳から甲斐駒ヶ岳（2966㍍）と登り、屏風小屋で珍しい樹ノ木から生えた松茸を坂田氏と二人で食べたり、樹子や鉛場の連続する難コースを無事下山したのも今や思い出すと回り燈籠の一コマのようである。その頃は近畿の1等三角点は全て終わり、中国の山や北陸地方の六谷山・金剛堂山や、副会長であった松浦勇次氏と白倉山に登ったのも忘れ得ぬ思い出のひとつとなった。

かくて昭和四十八年11月、京都山岳会元会長・松浦勇次氏と京交山岳部の長老伊藤福治氏の両人に、「全国の三角点マニアを結集して会を作り、お互いに自分の趣味した山々を紹介したり、登山に際しては便宜を計りあうといった主旨の組織を創立しようではないか」と何かの集会の席上提案したところ、それはグッドアイディアだと賛同してもらった。皆から提案者である私が会長とおされ、松浦・伊藤両氏には副会長として私を支持していただくことを前提として若輩ながら引き受けることになった。現会長の三谷忠男氏が理事長となり、顧問には今西博士や日本山岳会継後支部長の藤島玄氏になっていただいて、「一等三角点研究会」が発足した。「三角点を登る会」「十二支会」「京交山岳部」が当初の会員構成であった。

会報は年一回発行とし、会報名は「聳嶺」とし、表題は書道家の松浦氏が揮毫し、昭和四十九年に第1号が発行できた。会報には「エーデルワイス・クラブ」会長の坂倉登喜子さんや「京都山岳会」会長の角倉太郎氏も寄稿された。

エリア別徹底研究

特別寄稿

近江側から登る鈴鹿の山々

夏を楽しむ渓谷歩き

山本久雄

はじめに

岩野氏の連載「近江側から登る鈴鹿の山々」シリーズに私ごときが登場するのはいささか恥ずかしいのですが、ぜひとも「渓谷歩き」を案内したいので登場することになりました。信頼できるリーダーが同行すれば、初心者でも楽しめる滋賀県側から入渓する五つの谷を案内します。

その前に「釈迦に説法」だと笑われそうですが、渓谷歩きに必要な一般的な注意点を述べてみます。

装備は「地下タビとわらじ、または渓流シューズ」「乾きの早い生地でできたズボン」「保温性のよい乾きやすい長袖の上着」「ヘルメットの着用」「着替え一式」「少々のシュリンゲ（スリング）と数個のカラビナ」、その他一般的な登山装備が基本です。

杖をつきながら歩き、へつりや滝直登時も杖を持ったまま登る姿を見受けますが、危険を伴う徒渉以外は使用しないほうが安全です。なぜなら、渓谷歩きは基本的には水の中の岩登りであり、へつりや滝直登、高巻き時は邪魔になり、万一スリップして転倒、落下したときは体に当たってしなくてもよいケガをしたり、まわりの人に当たるなどの危険もあります。岩登りに杖を持って登る人はいないでしょう。また、軍手など手袋をつけて通行する人もよく見かけますが、水温が極端に低い場合以外は素手のほうがより岩の感触がつかめるのでつけないようにします。どうしても手袋をしたいのなら、ロープやシュリンゲ（スリング）、金属製の道具をさばくための指先の出る専用の皮手袋を着用すればよいでしょう。

仙香谷の右手くぐり抜けの滝

渓谷歩きは通常のハイキングより危険度ははるかに高く、ケガの程度も重くなりがちです。その場合、脱出するのに大きな努力と困難を伴います。渓谷は年毎にその表情が変わり、去年通行できた所が通行できなかったりでルートの選択に神経を使うことも多い。だからこそ楽しいのであり、しっかりしたリーダーが必要とされるところです。

さて、文中に出てくるあまり耳にしない用語の説明をしておきます。

＊右岸・左岸＝谷の下流に向かって右側が右岸、左側が左岸。したがって通常上流に向かって歩くので左右逆になる。
＊高巻き＝淵やトロに出合って水流近辺が通りにくい時、左右どちらかに水流を離れて高みを乗っ越すこと。
＊壁＝家の壁のように岸辺が岩でつっ立っている所。通過はかなり困難の伴うことが多い。場所によっては対岸が平凡で見た目ほどたいしたことなく通過できる。
＊ゴルジュ＝両岸が極端に狭くなっている場所。通常両岸とも大きい岩や壁となっていて通過に困難を伴うことが多い。
＊廊下＝建物の廊下のように両岸ともつっ立っている所。ゴルジュに対して距離がある場合が多く、滝壺の泳ぎ・へつり・滝直登・きわどい壁トラバースなど渓谷歩きの醍醐味を味わえる。
＊ゴーロ＝大きな岩が文字通りゴロゴロしている所。岩が動いたり手がかりがなくて通過に手間どる。
＊釜＝比較的大きい滝壺。通過は困難な所が多い。
＊トロ＝大きく淀んだ深そうな水溜まり。壁をへつったり、大きく高捲きしたりと通過には苦労させられる。
＊直瀑＝滝壺まで一気に落ちる豪快な滝。越えるのには苦労させられることが多い。
＊ナメ滝＝直瀑に対して傾斜した滝。わりあい登りやすく気持ちのよい場所が多い。

このガイドは通常の通行のコースガイドのように詳細な説明はしないで概念的な記述に留めます。文を読み目を閉じて渓谷の水音を想像してください。それではやさしい順番から渓谷にご案内しましょう。

「岩ノ洞門」をくぐる

① 須谷川

入渓口は紅葉尾。車はキャンプ場入り口にある酒屋に断って駐めさせてもらえばよい。

上流に向かって少し歩くと右から須谷川が流れている。道からおりやすい所を探し川にくだる。さっそく足元をわらじに履きかえ水の中を行く。谷沿いには踏み跡もあるが、少しずつ消えてゆくようだ。水の中をチャプチャプ歩いて行く。1時間も行くと小さな滝と大きな釜がある。この場所は踏み跡が左岸から右岸に渡っている。以前は右岸の水の中に足がかりがあってどうにか小さな滝の落下点に行けたのだが、今年は足がかりがなくて、取りつきは許が立たず泳ぐにはまだ早いのであっさりと踏み跡を高巻いてしまおう。

しばらくはさほど難しいところもなく、1時間ほどで少々立派な廊下に出合う。奥には滝がかかり、両岸はつるつるで深そうだ。泳いで行っても滝を登るには手間どりそうなので、ここも右岸を高巻く。踏み跡は廊下状の所を越えてまた谷へおりている。次第に両岸が立ってきて狭くなってくる。この谷の核心部である。

あちらこちらとルートを選びながら進んで行くと立派な滝に出合う。10㍍近いナメ滝だが右岸からクリア。ここで注意してよく見ると滝の右側にぽっかりと真っ暗な洞穴が空いている。中にもぐり込んで行くと奥のほうに出口が明るく見える。地元の人しか知らない「岩ノ洞門」である。仙道はこの核心部をさけてかなり上

についており、この場所をうかがい知ることはできない。谷を通行して来た者のみが知ることのできる場所だ。

さらに続く滝を直登すると谷は少し開けてくる。朝9時頃に紅葉尾を出発すれば、このあたりで11時30分から12時近くになっていて昼食どきだ。水音と大もれ日に包まれ至福の時をゆっくりと過ごそう。

さて、谷はかなり細くなって少々両岸のやぶがうるさくなってくる。水深も浅くなり、日差しに暑くなってくる頃、左へしっかりした踏み跡を見る。これをたどるとすぐ先で紅葉尾から銚子ヶ口へ通じるハイキング道へ出合う。しかし谷から離れないでもう少し上流をめざそう。

再び谷は深くなり、涼しさが増してくる。最後のナメ滝が約5㍍の高さで出迎えてくれる。ここは逃げないでシャワークライムと洒落こもう。これを越えればあとはやぶがうるさくなるだけなのでここで打ち切りとする。

帰路は谷の左手にあるハイキング道へ出て、一路紅葉尾をめざしてくだるのみ。途中の分岐で谷に戻り、谷沿いの仙道をたどり紅葉尾にも戻れるが、水の中を通行したり滑えかかっていたりとルートハンティングに苦労することになる。そのままハイキング道をたどるほうがよい。登山道では、こんなに暑かったのかとびっくりすること請け合いだ。約1時間少し、濡れていた服も乾く15時頃紅葉尾におり着く。

通行の楽しさ満点の

② 元越谷

この谷は大きく分けて、下流域・左俣・右俣、そして右俣の左俣と右俣の右俣（おそらく仏谷と呼ばれている谷）とがおもしろいのです。

車は猪足谷林道との分岐まで入れる。しばらく元越谷林道を歩いて行くと、右手に幅2㍍程の谷におりる道があるのでそれに入る。10分も歩けば飛石伝いになるので仙ヶ谷出合までは右岸をたどり、堰堤の見える場所で左岸へと渡る。二つの堰堤を越えた所から渓谷へ入る。

「すぐ右折した谷はけっこう暗くて凄みのあるゴルジュとなる。水中行進は胸近くまでつかり、へつるならおっこちそうになりながらの通過となり、いきなり緊張させられた」と、三年前までならこのように書けたのだが、二年前にこの場所にアーンと砂防ダムができてしまった。なんと無神経なことだ。おかげで砂防ダムの横をずり上がるのに苦労する。

ここから少しで大きなトロとなる。以前なら腰までの徒渉で右岸へ渡り、壁に取りついて右岸を高捲くことができたが、ここ数年で徒渉地点が異様に深くなり左岸から越えることになる。回りこむとトロに行く手をはばまれるが、水中に傾いたバンドがあるので滑り落ちないようにできるだけ落ち口まで水中を行く。早くに上にあがると危険なので要注意。砂防ダムから20～30分でごうごうと音を立てている大きな滝にぶつかる。

高さ18㍍の「元越大滝？」である。

左岸は切り立ったかぶさりぎみの壁となっている。ここには小さな水流があり、水量の多いときは一人前の滝となるのできぞかし豪流な景観となることだろう。ここは流蝕の浅い沢を選んで滝右手に取りつく。すこし右側にふるとなんなく登れるルートへと導かれ、さらに上部は木の根っこに助けられて落ち口へと到達できる。しかし、最後の部分ではスリップに十分注意すること。すっぱりと落ち込んでいてスリル満点だ。

ここからは浅めの廊下となる。20～30分で到着する二俣まではこのような廊下状が続く。このような場所はできるかぎり水流から離れないこと。上に上がりすぎるとけっこうシビアなへつりとなる。夏なら深みにはまり込んでもたいしたことはない。大胆にゆこう。ただし無理はいけない。

廊下は次第に大づくりとなって、大きなトロをへつると明るく開けた二俣で、ここが右俣と左俣との分岐点である。ここからの下山道はないので上部に向かうほかない。

左俣に入ってゆくとすぐ薄暗い廊下となるが底が浅いのでなんなく通過できる。さらに行くとずっと上部を通っていた林道が近づいてくる。左側のガケが崩れていて、あたり一面に倒木や枯れ木・崩れた土・岩などが散乱している。気をとりなおして行くととどめにデーンとまたまた砂防ダムのお出ましとなる。左右岸ともに簡単に越えられる。

広い河原となり、左上からしっかりとした踏み跡がおりてくるが、これは林道から水沢峠への道で、水沢峠からの帰路は、この谷から林道への登りがけっこうつらい。正面の小さな尾根によって水流は左右に分かれる。右は中俣であるが、わざわざ入るほどの価値はなく、左へと右岸を登攀してたどる。林の中でかすかな踏み跡が右に分かれる。先ほどの水沢峠への旧道であるが、かなりの部分が消えていて下から登るのは容易ではない。下山に使うのをおすすめする。

やがておまちかねの廊下となるが、連続する滝はすべて手がかりが多く直登できる。約30分もすれば水流が分かれるが左をとる。次第に水流も細くなり、途中に現れる小さな滝は各自の技量に応じて直登、高巻きいずれでもよい。

やがて大きなナメ滝となり、直登は初心者には難しいところもあるので途中から高巻きすればよい。やがて頂瀑の見える広場に到着する。あたりはすばらしい二次林で人気がなくゆっくりしたいところだ。この直瀑は登れそうにないので左岸から高巻く。この先もまだまだチョコチョコと滝を越えてゆく。谷底は岩盤で水は涸れない。このあたりだと谷というより傾斜のゆるいルンゼだ。スリップに注意すれば快適な登行となる。

水が無くなり少しササを分けると縦走路で、目の前に鍋ヶ岳がアルペン的な南面を見せている。ここまで最初の砂防ダムから約4時間、長時間浸かっていたせいで足がだるくなっているだろう。

下山は縦走路を北（左）にとるとすぐ白滝尾根との分岐のピークとなる。左折して白滝尾根をたどる。ここから元越谷林道までは不確かな踏み跡しかなく、しっかりした読図力とルートハンティングができなければ車には帰り着けない。やがてまるで檜を見ているような所に出る。ここが仙ヶ谷の源頭である。しばし休みたくなるほどの桃源郷で雰囲気を楽おう。先は長いから……。

この先の大洞の頭で左にとる。どんどんくだると白滝山手前のコルにつく。ここで左下の仙ヶ谷へおりる。仙ヶ谷は一部高巻きもあるが水流から離れずひたすら下をめざす。白滝尾根分岐から約2時間のがんばりでようやく元越谷林道である。あとは暗い林道を30分も歩けば車を駐めていた河原まで帰り着く。

元越谷の大滝にて

右俣の左俣

先述の二俣から右俣をたどるとゴーロが続くが、すぐにナメ滝が出てくる。難しい所はなく適当に歩けばよい。小さな釜があり左岸からおもしろそうなルンゼ状の谷が合流する。どんどん登ってゆくと二俣から30分で再び二俣となる。

左に入るとゴルジュとなるが、滝を越えるのがやっかいなので出合から右に分かれる谷の小さな滝を越えると右手に仙道があるのでこれを利用して高巻く。赤い古びたテープがあり、仙道はとって返すように先ほどの右側の谷に向かっている。たぶん仏谷峠へ向かうものと思われる。

両岸が崩れた廊下を抜けると少しスリルある滝直登となる。ここは高巻きはできない。がんばってトライしよう。やっと越えると空が開け、次は25㍍の大滝となる。自信があれば水流に沿って直登も可能。ただし落ち口付近はけっこうシビア、普通の人は左岸をスリップしないように落ち口を越える。あとは両手の届くU字谷となり、ジャブジャブ……。これで滝は終わる。

この上流で左岸から流れ込む小谷に入り、約5分で出合う尾根の末端でわらじを脱ぐ。尾根を上部に向かって30分程がんばると縦走路に合流。右手に大岩が見えるのでそこまでがんばろう。

下山は縦走路を南にたどり、猪足谷林道へ向かうのが一番楽だ。約2時間で車まで帰れる。でも猪足谷林道は直射日光を浴びながら歩くのでかなり暑い……。

右俣の右俣

上部の二俣を右に入るとすぐゴルジュとなり、ちょっと苦労する滝が連続するが、まもなく終了となり、二次林の林の中をゆったりと蛇行するようになる。全く人気のない別世界で夢幻郷のようだ。木もれ日のみで静けさと涼しさが漂う。コーヒー等を飲みながら時の流れを少しだけ自分のために止めてみてください。

私はこの場所が鈴鹿のなかでは屈指の優良静寂非鳴場所と思っている。もっともここへたどり着くのはかなりの努力を必要とする。あとは適当に上に向かえば縦走路に飛び出し、猪足谷林道をたどって下山する。

涼味満点の

③ 神崎川本流（白滝谷出合まで）

神崎川林道を進み仙香谷出合を過ぎるあたりで左手に川におりて行く道がある。適当な所に車を置き川におり立つ。少し上流に取水川ダムがあり、右岸から高捲き、西行原から本流に入る。

夏は子供たちのにぎやかな声が聞こえる。すぐにツメカリ谷まで続く長い廊下が始まり、入り口は度肝を抜くゴルジュとなる。まず左岸への徒渉となるが、服

までありと、背の低い人ならいささかとまどうだろう。左岸からこのゴルジュを越えるとあとは難しい所はなく大きな岩を縫いながら通りやすい所をゆけばよい。あたりは開けていて圧迫感は感じられない。カラト谷を左に見送る。

ここまでは右岸に高捲き道があるが、これがけっこうハードで徒渉さえいとわなければ水流を行くほうがずっと安全だと思われる。

まもなく行く手は、連続する大きなトロ、水道の蛇口のような小さいが激しい水流の滝、両岸がつるつるで手がかりの全くない強烈なゴルジュ、トユのようなナメ滝などにはばまれる。左岸に突き出ている岩尾根に取りつき、できるだけ小さく高捲く。このあたりにもゴムぞうりをはいた子供たちがたくさん来ていて驚くことがある。高捲きの終わるあたり早くに水流に近づくとトユのようなナメ滝の落ち口部分の水中をトラバースするはめとなる。流されればあまりうれしいことにはならないので水量の多いときは無理をしないでもう少し捲き続ける。でも流れに足元をとられながらスリルいっぱいの、この場所を越えるのも渓流歩きの醍醐味か！。

ここから川は少し開けて空を見る余裕が出てくる。ゴーロ地帯を行くと右手から小さな谷が入る。まわりは次第にあやしげな雰囲気となってくる。またまた両岸の切り立ったゴルジュとなる。このゴルジュ内は通過する気持ちも起きないほどつるつるで、下は深いトロである。

ゴルジュ入り口から左岸をゆけば越えられるが、以前は水中にある中州を利用して徒渉していた。しかし、今年は非常に絶望的な青色の深いトロになっている。目の前の対岸に見える手がかりまで泳ごうかとも考えるが、この青色のトロを泳ぎ渡るのはずいぶん勇気がいりそうだ。またまた腰までつかり左岸の岩尾根にとりつく。ずいぶん手前から高捲くがあまり高く上がらないようにすること。尾根はいくら上がってもガケ状でなおさら危険である。よく探すとケモノ道のように踏み跡が続いているはずだ。

ここを越えると長かった廊下もいったん終了し、ツメカリ谷の出合となり白滝谷を過ぎるまでは一大ゴーロ地帯となる。子供たちはこのあたりでも見かけるが、通常なら三重県側からも滋賀県側からも

このあたりが日帰りの限界地点だ。

すこし歩けば右手からこの廊下を避けていた瀬戸峠からの林道に出合う。この少し上流が白滝谷となる。ここまでで約2時間はかかるだろう。

ここから本流は天狗の流をふくむ大きな険しい廊下となり、取りつくには時間的にきびしい。また神崎川の核心部ともなるので水流突破はかなりの覚悟が必要となる。本流にそって高捲き道もあるが、はるか高いガケをトラバースすることになる。危険でもあり時間もかかるので、無理をする必要はない。

帰路は来た道を適当にドボンとつかって流れにしたがっていけばよい。

神崎川二番目のゴルジュ

スダレ滝のある

④ ツメカリ谷

神崎川の長い廊下を終えるとツメカリ谷出合になるが、本流を飛石で渡る。石の間は強い流れでけっこうスリルある飛石ごっことなる。くれぐれもおっこちないように。ツメカリ谷に入ると樹木がおいかぶさり涼しい。しばらくゆくと右手から支流が流れ込んでくる。

ここからけっこう迫力のある廊下となる。通常左岸からへつりで抜けられる。ちょっと緊張する場所もあるが、廊下の中はほどほどに大きな岩が転がっていて、上手にそれらをひろって越えてゆく。はまっても水流は本流ほどでもないので流されることもない。ゆっくりとへつりの

醍醐味を味わおう。

この廊下を抜けるとまもなく正面がルンゼとなり、谷は直角に右手に折れ約5分の喜瀑となっている。直登は難しいが、よく見ると左岸に流に絡むように捲き道が上がっている。木の根っこに助けられてほとんど直登でこの流を越える。さらにチョロチョロと滝が続くが、神崎川本流の先ほどの廊下や滝を越えてきたことを思えばたいしたことはない。やがて谷が開けスダレのような流に出合う。

ここまで本流から約1時間。本流の取水ダムを9時頃出発すればここで昼食となる。滝壺で泳ぎ疲れたら帰路は同じ流をたどり本流へ戻る。

ツメカリ谷のスダレ滝

ここから上流は語るのも無謀なほど両岸の山肌が崩れているので登行しても意味がない。

ゴルジュが連続する

⑤ 仙香谷・赤坂谷

神崎川と同じ場所で本流におり立ち下流へ向かう。約20分で右手から大きくゴーロを押し出した谷が出合う。これが仙香谷である。ここまで本流の徒渉が何度かあり増水時にはたどれない。そんなときは仙香谷を詰めたほうがよい。車に戻るには往復とも本流を徒渉しなければならない。以前本流まで戻ったとき上流で夕立でもあったのかすごい流れとなっていて唖然としたことがあった。

さて仙香谷へ入る。さっそく長い廊下の始まりで、プールのような釜あり小さな滝あり、おっかなびっくりのへつりあり。ここを越えると約5㍍の直瀑が行く手をふさぐ。高捲きは右岸からできるが、滝の右手に窪みがあるのでそこをくぐり抜ければ上部へと出られる。

すこしホッとするといよいよ核心部に入り、大きくて深い釜をもったナメ滝と10㍍近い直瀑とおまけの小さな滝をもったゴルジュ帯となってくる。ナメ滝は手がかりが多いので泳いでから滝に取りつくか、あるいは釜の左手をへつり滝の横を直上するかどちらかで越えられる。ここはぜひともロープの欲しいところだ。

ナメ滝からゴルジュ内のバンドをたどり次の10㍍滝はいったんバンドから谷底へおり、右岸からシャワークライムで越える。おまけの小滝はついでに越えてしまう。ここの廊下の高捲は危険なのであまりおすすめできない。この荒続くゴルジュはけっこう凄みがあるが通過にはさほど困難はない。

大きな釜を越えたり、ややこしい壁をへつったり、そうこうしているうちに左手にガラガラの鬼女谷が注ぎこむ。落石以外は見た目ほど危険ではなくここを登ると仙道があり本流に戻れる。ここを過ぎてもまだまだ廊下は続くが核心部を越えているせいかさほど難しくは感じないはず。谷は大きく開けゴーロとなり、右手の赤坂谷へ向かう。

ここまでで約2時間で到着する。この先の赤坂谷の魅力は中流にある大きなナメ滝と上流部の二次林のなかを苔もなく蛇行する流れの美しさである。迫力ある仙香谷を越えてきたので次々と現れる滝はもはや楽しくもある。源流までたどれば美しい二次林を越えて歓迎岳まで到達できるが時間的には苦しくなる。赤坂谷に入って1時間半で左手にわらじの目印があり、仙道が川を横切っている。場所は元造林公社の小屋跡の少し手前となる。

あとは仙道をたどりカシラコ谷へと越える。道はけっこうしっかりしており、20～30分もがんばればカシラコ谷の仙道に出合う。あとは下流に向かってひたすら仙道をたどればよい。

神崎川本流まで1時間30分もあればよいだろう。さらに本流を約20分も遡れば朝の出発点に戻る。

小栗街道を歩く
熊野街道探索（和泉砂川駅～紀伊駅）

コースタイム　JR天王寺駅（電車50分）北和泉砂川駅（30分）～①信達一ノ瀬王子跡（30分）～②林昌寺（30分）～③日下田宿場（30分）～④中山王子跡（30分）～⑤山口王子跡（30分）～⑥山口神社（30分）～⑦山口宿本陣跡（30分）～紀伊駅（電車1時間1時間30分）天王寺駅（徒歩約15分）

中村敏文

「近畿古道探索会」の熊野街道探索は熊野路に詳しい武藤善一郎氏が企画し、歩きやすくするため、地図を含めた探索資料も作成し、先達を務めていただいた。熊野九十九王子の第一王子、淀川筋八町家の窪津王子から始め、日帰りのできる田辺市までは14回で踏破できた。

大阪府下のように市街化の著しい地域は、古道が変貌し、ハイキングに不適なので、熊野の古道・小栗街道の呼称にふさわしいコースを選択して要約した。

① 信達一ノ瀬王子跡（阪南市信達牧野）

和泉砂川駅より西へ駅前通りを数分歩き牧野交差点で左折すると熊野街道で、南へとのびる小栗街道（府道243号線）とも呼ばれる街道筋を行くと、大鳥居の交差点の手前に、創建当時の奈良時代には五丁四方の寺域を占めたという往生院がある。寺伝によると創建は、興福寺に住し法相宗を同いた道昭、土木造船など大陸文化に長じた船氏の出身で、広範囲に活動をした行基の師である。

織田信長の根来攻めで堂塔を全焼し、明治以降は寺域も三百坪に縮小する。

現在は仁和寺末寺の往生院から15分も歩くと信達一ノ瀬王子に到達する。明治中期までは信達王子社の小祠が存在したが、現在は地蔵菩薩と馬頭観音が安置してある。信達王子社は小栗判官を恋慕った照手姫のお旅所の位置にあったという説もある。

② 林昌寺（阪南市信達岡中）

一ノ瀬王子跡から国道筋を東にそれて阪和線を横切り、岡中の集落に入ると行基創建という仁和寺末寺の林昌寺がある。阿弥陀如来を本尊とし弘法大師像を安置する真言宗寺院で、境内の斜面にはツツジ山というほどに手入れの行き届いたツツジがある。

ツツジ山林昌寺境内

裏山の愛宕山山頂には林昌寺鎮守の愛宕社がまつられ、南山麓には岡村と中村が合併した岡中の鎮守社が鎮座する。大阪府大然記念物の「福の大木」のあるあたりが長岡王子の跡だともいわれる。

林昌寺から南西へ阪和線沿いに2㌔ほど行くと和泉鳥取駅の東で、熊野街道の人々が波多神社を遥拝した伏拝鳥居がある。

鳥居前でくの字型に左へ曲がり1㌔近く南進すると地蔵堂王子跡へ着く。お堂は消失し、地蔵は地福寺に移され、王子

跡の標示板が立ててある。

山中宿手前の山中渓沿いの琵琶懸という熊野古道の名勝は、熊野詣での有数の難所とうたわれたが、迂回路ができて廃道となる。

地蔵堂王子跡から南南東へ1㌔も行くと馬目王子跡へ着くが標示板のみで、是神さんとして信仰を集めていた天忍穂耳尊をまつる社は石田の鳥取神社へ合祀された。

③　山中旧宿場（阪南市山中渓）

馬目王子跡から南南東へ国道の下をくぐり旧道を伝うと山中宿へ入るが、旅籠も姿を消し、本陣も建て替えられ、宿場の面影はない。大正時代までは近世町村の家並みも存在していた。昭和六年に旧国鉄阪和線の山中渓駅が設置されると、山中渓温泉が開かれ旅館や会社の寮などが建ち並んだが、現在山中渓温泉宿は消滅している。

平安から鎌倉時代に栄えたこの地の豪族鳥取氏は、南朝方に組みして貝塚の戦いに破れ、山名氏勢に侵攻されて祖先をまつる波多神社も焼かれた。山中渓所も廃止となった。

集落の二手にある地蔵院地福寺にはもと地蔵堂王子の本尊子安地蔵が安置され、山中渓駅の近くには道祖神の地蔵尊が残されている。駅の南方に山中関跡の碑が立っている。

④　山中王子跡（和歌山市滝畑）

山中渓駅から府道24号線に拡張された熊野街道は、山中川の渓流に沿ってJR阪和線・阪和高速自動車道と並行して南へと続く。駅から2㌔の境橋が大阪府と和歌山県の境で、橋の左側に「日本最後の仇討場」の看板がある。土佐藩士広井磯之助が父の仇である同藩の堀幽三郎を討った場所で、三千人近い見物人があったという。

境橋を渡ると滝畑の集落で、最初の滝畑第一踏切を渡ったすぐの田の前に、中山三子の看板が立っているが、この付近は阪和線敷設時に大きく変貌したようである。

中山王子跡から阪和線の西側の細い道を数分たどり、左折して阪和線の東側に出て県道に合流すると1㌔南の難所、海抜181㍍の堀ノ山峠へと舗装路に拡張された熊野古道が延々と続く。

⑤　山口王子跡（和歌山市畦谷）

雄ノ山峠は垣武天皇が玉津嶋行幸の帰路に通過したという古い歴史の道で、峠から山口地区畦谷の集落へは2㌔のゆるいくだりである。中山王子跡からの雄ノ山峠越えは登りくだり4㌔の行程である。

峠から30分くだると道は二分するが左へ続くのが熊野街道で、分岐点の手前に山口王子跡の看板が立っている。山口王子社は白鳥神社として明治末までであったが、山口地区谷の山口神社へ移された。

左へ分岐するとすぐの小川に架かるナツメ橋の手前に万葉歌碑がある。「わが背子が跡ふみ求め追いゆかば　紀伊の関守留めてむかも」（聖武天皇の紀伊行幸等に同行した笠朝臣金村が詠んだ歌である。

山口庄は鎌倉時代に存在し、室町時代には山口氏が守護昂山氏の被官であった。山口王子跡付近は紀ノ関・白鳥関という関所が設置されていた。

近世には谷・中筋・里・藤臣などの十村が成立し、山口宿は中筋から里への街道筋が中心で旅籠は山口などにもあった。

⑤　山口神社（山口地区谷）

熊野街道は南下して川辺王子・中村王子を経て紀ノ川を渡ったが、垣王子の位置が不確かである。湯屋谷の南外れで熊野街道は根来街道と交差するが、山口神社へ行くために池の川バス停付近から川を渡り谷の集落へ向かう。集落の北端の法竜寺からさらに山垣をめざし坂道を上がると山口神社へ着く。

山口庄の産土神として成立し、中世の山口氏、近世の淺野家、紀州徳川家と領主の保護を受けていた社は、中殿に山王七社権現、左側に伊久津比売神、右側に垣武天皇の別称の弥照天皇が祭祀してある。

⑦　山口宿本陣跡と遍照寺（山口）

熊野街道を離れた山口神社参詣は往復4㌔の回り道となったが、紀伊藩主が利用した御殿のあった山口宿本陣跡を見る。現在は山口小学校の敷地になっているが御殿跡は残されている。小学校横の遍照寺には小野寺より移した小町像と元禄時代に建てた小町供養碑がある。

遍照寺から西北へ道をたどり妙見宮を経て根来街道の松尾加太線に戻り、阪和線の時間を考慮して上野遍寺跡探索を割愛し、JR紀伊駅へ急ぐ。

山と自然の本

北良の父・角倉太郎　北良登山今昔ものがたり		2200円
関西　山越の古道(3)神戸	中庄谷　直	1942・2000円
京都丹波の山(下)	内田　嘉弘	1942・2000円
兵庫丹波の山(下)	慶佐次盛一	2000・1942円
近畿の山　日帰り沢歩き	中庄谷直・吉岡卒	1942円
京都　東山百山	北山クラブ	3800円
京都　北山を歩く①～③	澤　潔	各1845円
京都滋賀朝日の山	内田　嘉弘	1942円
近江　湖北の山	山本　武人	2000円
近江　朽木の山	山本　武人	1942円

鈴鹿の山と谷①～⑤	西尾　寿一	3107・3800円
美濃の山①②	大垣山岳協会	各2200円
奥美濃　ヤブ山登山のすすめ	富木　泰夫	1942円
飛騨の山山(ヤブ山編)(国境編)	酒井　昭市	2427・2718円
堀井の山100	増永　迪男	2913円
鎌の峰／鷲の山(さいのじりざ)	増永　迪男	各1942円
山城三十山	日本山岳会京都支部	1845円
初級山　全書録司初級山岳巻作集	奥藤清明編	2718円
初級頂　花崗の峰から天狗の峰へ	平井　一正	2816円
京都府の三角点峰	横田　和雄	2816円

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町15
TEL 075-751-1211　〒606

文学歴史探訪ハイク ㊲

聖徳太子の奥津城を訪ねて

松永恵一

磯長の地

大和と河内を境する山の一つに二上山がある。雄岳（517・2㍍）・雌岳（474・2㍍）の二つの峰にわかれて、ラクダの瘤のように、中空高く、くっきりと並んでそびえている。「にじょうざん」と呼ばれるが、古くは「ふたがみやま」「天の二上」とも呼ばれていた。三輪山を朝日の山、二上山を夕日の山として拝んできた信仰の山である。その二上山の西麓に聖徳太子廟があり、それに接して叡福寺がある。叡福寺は太子廟護持と太子信仰によって建てられた寺である。

聖徳太子二十七歳の時、神馬甲斐の黒駒を得て、これに騎乗して遠国の民情視察に出かけられた。天上を翔けて東に去り、東海道から富士山頂に達して、さらに信濃から三越（越前・越中・越後）を経て、三日にして帰られた。その時、太子は雲上よりこの地を望んで、陵墓を造るに適した地であることを知り、馬をこの地にとどめて磯長の墓地を選定されたという。「駒谷」の地名は、その時に黒駒をとめられた所であるという。

磯長の地は王陵の谷ともいわれ、太子廟の周囲には、敏達天皇陵・用明天皇陵・推古天皇陵・孝徳天皇陵がある。五つの陵墓の配置が梅鉢の紋に似ることから、世に梅鉢の五陵（御墓）と呼ばれる。また付近には、小野妹子の墓、蘇我馬子の墓、蘇我石川麻呂の墓、蘇我銀夷の塚などの伝承を持つ古墳や、松井塚・太平塚・二子塚などの伝承の絶えた古墳や、風土記の丘として整備された、小規模な古墳が群集している一須賀古墳群などがある。

叡福寺『河内名所図会』

蘇我氏の本貫は、二上山の東麓を流れる大和の蘇我川の中流域にあったらしい。一方、二上山を越えて河内の磯長にも勢力をのばしていた。蘇我の血を濃厚に受け継いだ天皇や聖徳太子の御廟、馬子塚や銀夷塚と呼ばれる供養塔が、蘇我氏の所領であったことをものがたる。

太子の薨去と葬送

推古天皇二十年（622）2月22日。聖徳太子が斑鳩宮に薨ぜられたことを聞いて、諸王・諸臣および天下の百姓は、老いたるものは愛児を失ったように、若きものは慈愛の父母を亡くしたように悲しんで、号泣の声は巷に満ちた。田を耕す農夫は鍬を止め、米搗く女は杵音を立てず、みんな口をそろえて「月日は輝を失い、天地は崩れ去った。いまより以後、誰を恃みとして生きていけばよいのであろう」と言った。（『日本書紀』）

太子と妃との二つの棺を輿にのせ、墓処までお送りした。斑鳩から磯長までの沿道、百姓は垣のごとく道の両側に並び、あるいは香花をささげ、仏歌をうたい、泣きながら見送った。太子の愛馬黒駒は、太子の棺をのせて葬送の列に従っていたが、太子の棺が墓処に納まって、羨道の扉が閉ざされるや、一声高くいなないて、とびあがって地に斃れ、そのまま息絶えた。また、形は鵠のようで、色の白い鳥がどこからともなく現れて、墓の上にとまって三年の間去らず、鳶や烏がくれば追い払った。時の人は「墓鳥」と呼んだ。（『聖太子伝暦』）

聖徳太子廟

聖徳太子を葬った太子廟には、太子の薨去の前日に亡くなった妃の膳部大郎女、二ヶ月前に薨じられた太子の母穴穂部間人の三人の遺骸が葬られているという。

九条兼実の日記『玉葉』には、

消えにしをうしとばかりは御墓山
先だつ雲の行くへしらせよ　花山院入道

これを三骨一廟と号す。廟前に碑ありて次第に昇る。金銅の獅子、常明灯あり。廟中諸人拝殿を許さず。寺僧廟中へ入るときは、申の刻より潔を転じ、礼堂の廊に入る事六間ばかり、これより廟窟を拝す。僅かに一灯の光なれば、廟中鮮やかに見ること能はず。

南面する横穴式石室は切石を用いて築造され、三棺を安置している。羨道は長さ7・2㍍、幅1・8㍍、高さ1・92㍍、玄室は長さ5・4㍍、幅3㍍、高さ3㍍。玄室の奥に間人皇后の遺骸を収めた石棺が置かれ、その前方に東西に相対し側面に格狭間を彫り込んだ二つの石造の棺台が設けられている。右に太子の棺を左に膳部大郎女の棺を安置したものと思われる。布張黒漆の木棺であったらしい。

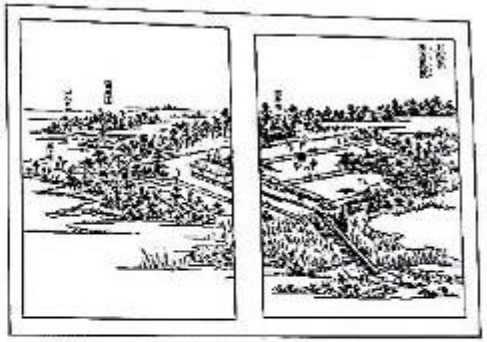
弘法大師と太子廟

嵯峨天皇の弘仁元年（810）、御廟に参籠した弘法大師は、聖徳太子から夢告を受けられた。『弘法大師御記』に残る。

太子の御廟所に参籠すること一百余日、九十六日目の夜半、御廟から『大般若経』の唄唱分が聞こえ、廟内が光り輝いた。一体どなたであろうかと尋ねた。「われは救世大悲の垂迹である。衆生を済度せんがために、この国に生まれてきた。母は阿弥陀如来の化身、妃は勢至菩薩である。この三尊が契りを結んで日本国に生まれ、人びとを教化すること久しくなったので、浄土に帰依し、彼の三尊位に擬して三骨をこの一廟にとどめたのである」といわれた。突如として阿弥陀三尊が現れ、法華経や勝鬘経の要文を唱えられた。その見仏開法の力によって、善薩十地の位の第三発光地を証することができた。思うに、西方浄土の三尊が東方の娑婆世界に垂迹をたれて、安楽国に往生する道を示されたのであるから、霊廟に詣でる者は、思いを九品の浄土にかけ、安楽国に往生せんと願うがよい。

時に、弘仁元年八月十五日夜半

沙門遍照金剛記注之



西方院『河内名所図会』

コース概観

今回のコースは、聖徳太子の御廟の地を訪ねる。国民から慕われた聖徳太子を葬った磯長の太子廟。推古天皇は墓を守るための坊舎を建てられ、聖武天皇は法隆寺にならって、東西の大伽藍を建立された。東を転法輪寺、西を叡福寺と称した。日本の仏教が宗派を超えてここに帰結し、また再出発していった廟前に額ずき、太子に思いをはせてみたい。

近鉄富志駅で下車。河内長野行きの準急に乗って約30分。駅前には「聖徳太子御廟」の大きな石柱が建つ。駅前の乗り場①②のどのバスに乗っても10分ほどで叡福寺の門前に着く。

バスを降りると、「聖徳太子磯長御廟」の石柱が出迎えてくれる。高い石段の上に叡福寺の南大門がそびえる。岸信介氏の書になる「太子廟」の扁額が掛かる。門をくぐるとはるか向こうが一段高くなっていて、石段を上がると二天門、その向こうが御廟。南大門を入ると一直線上に御廟が目に飛び込んでくる。境内の諸堂はみな御廟を避けて建てられている。御廟中心の叡福寺らしいたたずまいである。

南大門を入った所に中門があったらしい。礎石が社務所前に置かれている。左手に美しい多宝塔（重要文化財）がそびえる。承応元年（1652）再建。東面に釈迦・文殊・普賢の三尊像、西面に大日如来を安置し、四本の柱には四天王の姿を描いている。

塔中の聖光明院は聖徳太子に仕えていた調子麻呂が蘇迷終わってのち、剃まって菩提を弔った所と伝える。中世には八寺の塔中があったが、今残っているのはこの聖光明院だけである。

金堂は享保十七年（1732）再建。本尊は如意輪観音の座像。脇侍は弘法大師の作と伝える不動明王と愛染明王。

聖霊殿は本堂とも太子堂とも呼ばれ、伽藍中最も重要なお堂である。後鳥羽天皇が文治三年（1187）12月8日ご臨幸のとき、禁中にあった太子十六歳植髪等身（1・54㍍）の像を下賜されまつられている。赤衣の上に袈裟をかけて、柄香炉を持つ姿は苦行の像と呼ばれる。ふくよかな顔、高貴な姿が人の心を打つ。

天正二年（1574）10月22日、この寺は織田信長の兵火によって灰燼に帰したが、豊臣秀頼は後陽成天皇の勅を奉じて慶長八年（1603）本殿聖霊殿を再興した。探宝珠に刻まれた銘文。

御太子堂御再興
内大臣豊臣朝臣
秀頼卿奉
鈞命　御奉行
伊藤左馬頭則長
慶長八歴癸卯
十一月吉祥日
河内国石川郡
叡福寺

境内上段の石の階段を登りつめると二天門。東西に通廊があり、東端に鐘楼がある。正面が御廟。銅の大香炉に香煙が絶えない。幕巨が美しい前庭。扉に菊の御紋章がついている。御廟の入り口は堅く閉ざされている。二重の屋根でおおわれた御霊屋には弥陀三尊を浮彫にした円額が掛かり、三骨一廟を表徴する。

御廟は円墳。高さ7・2㍍、径54・3㍍。お墓山とも呼ばれる墳丘は、うっそうたる樹木におおわれ、周囲には結界石が二重に張りめぐらされている。内側の結界石は弘法大師が百箇日参籠された時に彫かれたものと言い伝え、観音の梵字が刻まれている。外側の結界石は、享保年間に多くの人々の浄財を集めて作られたもので、浄土の三部経が彫られている。結界石で囲まれたお墓山のまわりは、玉石を敷き並べた回廊になっていて、常夜灯が立っている。その昔、参籠した人たちが右遶三匝（右回りに三回まわる）し、廟前で長跪合掌して祈りをささげたであろうと思われる。御廟前に静かに額ずけば、ここに参籠して奇瑞を感得した高僧方や名もなき庶民の純一な信仰がしのばれる。

墳丘の西裾、御廟正面左手に一本の梅が茂っている。大乗木と呼ばれる。太子が母后葬送の時、自ら棺を担いで磯長の廟前に到着され、棺を担いだ梶の杖を押して「もし、わが説く大乗の法が末代までも流布し、衆生を利益するならば、その証拠として、この木が根付き生い茂るであろう」といわれたところ、不思議に芽をふいて、生い茂ったという。

叡山の磯長山は五字峰と呼ばれる。この山の峰から五色の瑞光が輝き出でていたので、その麓に御廟所を定められたという。頂上に宝篋印塔が建っている。

南大門前に隔夜堂と呼ばれる小さな堂がある。本尊は阿弥陀如来。すっぽりと着物を着せられた太子二歳の南無仏像が安置してある。堂の横の石段を上がると西方院、浄土宗の尼寺がある。本尊は阿弥陀如来像。聖徳太子作と伝える。月益・日益・玉照姫の聖像が安置されていて、墓地に三基の石塔がある。三姫は聖徳太子の乳母で、太子が亡くなられたあと剃髪してこの寺を開いたという。月照姫は蘇我馬子の、日照姫は小野妹子の、玉照姫は物部守屋の娘であったという。

＊コースタイム＊

近鉄阿倍野橋駅（長野線約30分）富志駅（バス10分）叡福寺・西方院（バス10分）富志駅

＜費用＞

近鉄阿倍野橋駅～富志駅	380円
富志駅～太子前	200円

＜地形図＞2万5千＝大和高田

＜問い合わせ先＞

叡福寺　0721 9（8）0059

特選コースガイド①

鈴鹿

2等三角点のある山

竜ヶ岳・野登山

初級コース（★　）

山形　歳之

竜ヶ岳（1099・6m）点名　竜ヶ岳

鈴鹿山系の竜ヶ岳は名山で、ガイドブックにも多く記載され、すでに登られた人も多いことと思う。いまさらコースガイドでもないだろうが、最近私の登った最短距離の石榑峠からの道を紹介する。

名神高速道路を八日市インターで降りて、国道421号線を永源寺町に向かう。

ダムからさらに上流に向かって車を走らせる。「日本コバ」の登山口を過ぎ、杠葉尻の村に到ると国道は大型車の通行は禁止となる。

幅も狭く曲がりくねった道を対向車に注意しながら高度を上げて行く。緊張もされて車も少ないので走りよい。

八風峠への道（ゲートと釈迦ヶ岳登山口の標示あり）を見送り山ひだを回り込むと、前方に竜ヶ岳が大きな山容を現してくる。

石榑峠は明るく開けた峠で、展望はすでにここでもすばらしい。南の縦走路には大きなパラボラアンテナが峠を見下ろしている。峠には駐車場はないが、道端に十数台の駐車は可能である。またコンクリートで壁をつくり、大型車の通行を制限していて通り抜けられないようになっていた。

竜ヶ岳は北方目の前に一望でき、登山道は滑りやすい砂岩状の登りから始まる。すぐ雨量計の前を通り、滑りやすい道が続く。一部のガイドブックに、クサリ場などと記載されているが何の問題もなく、ひと登りで亀ね岩に着く。なかなかおもしろい形をした岩で、展望も良くひと休みにはよい場所である。

リリ原の竜ヶ岳

さらに急な登りが続き、稜線に出ると一面のササ原となる。このササ原をたどって行くと切り開きの中に三角点のある竜ヶ岳山頂に到着する。ピーク状になっていないので、ササ原の一隅といったような山頂である。

展望は360度。北には藤原岳から御池岳と大きな山容が連なり、静ヶ岳への縦走路がササの中にくだっていた。

石榑峠からなら日帰りで静ヶ岳までピストンできるだろう。

《コースタイム》

石榑峠（30分）亀ね岩（30分）竜ヶ岳

《地形図》2万5千＝竜ヶ岳

5万＝御在所山

20万＝名古屋

野登山（851・6m）点名　野登山

鈴鹿南部の仙ヶ岳から東に派生した野登山は、山頂に野登寺やアンテナが立ち、地区には車道もある人気い山である。車道はアンテナの専用道で、一般車は通れないと思っていた。

登山口の坂本の村に車を走らせる。村

はずれに登山口の道標を見つけて、さてどこに車が駐められるかと、かたわらで農作業中の人に声をかけると、「山には車で登れますよ」と言う。山中に人家があり、数年前から車道が開放されているそうだ。登山地図やガイドブックでは一般車通行禁止と記載されているが、今は山頂まで自由に通行できる。

道はほとんど舗装されていて、山頂近くでお寺の参道へ地道の林道が分岐する。

鈴足山の鳥居の立つ参道入り口は、広場に数十台の駐車が可能である。

参道は杉の大木や大きな古株があって、深山のたたずまい。境内には無人だが大きな建物もあって、静かなひとときがもてる。お寺の裏山にはアンテナが立ち、ここまで車道が入っていた。

さて野登山山頂はこのお寺とアンテナの立つピークの一つ東の山で、縦走路を伝って行く。車道のカーブの所からササの中をくだるのだが、目印もなくちょっと不明瞭。歩程のお寺の参道を少し入った所に右へ良い道が分岐していて、これを伝って行くとそのまま道は右手に曲り縦走路になる。やがて三角点と道標があり山頂に出る。雑木に囲まれて展望はなく地元の人が立てた三角点の説明板がある。

北からも道が登って来ていた。この縦走路の先は小岐須の集落を示していた。

《コースタイム》

野登寺参道前駐車場（10分）野登山

《地形図》2万5千＝伊船

5万＝亀山　20万＝名古屋

（平成9年6月歩く）

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!
・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（46人乗り）
・大型（55人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで
スキーバスもあります
〒678　東大阪市鴻池本町1－20　オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
（夜間・電話 06(946) 0810・FAX 06(945) 9044）

特選コースガイド 2　京都北山

若丹国境尾根の最高峰

頭巾山（ときんさん）

中級コース（★★）

村田　智俊

晩秋の落ち葉を踏んで歩く山を紹介しよう。

東西に長く続く若丹国境尾根稜線にあってこの山のピークがこんもりと盛り上がっている。修験者が頭巾をかぶると頭部が盛り上がって高く見えた。これに見立てて頭巾山と名付けられたのだろう。呼び名は「ずきん山」でも「とうきん山」でもなく「ときん山」で通っている。なかなか興味深いめずらしい山の名である。

頭巾山への登路は南の京都府側には、綾部市の吉和木からと、美山町の山森からの二つのコースがあり、ともによく踏まれている。大阪・京都方面からマイカーでの入山を考え、ここでは美山町山森からの往復コースを紹介する。

国道162号線（美山街道）を北上し京北町から美山町に入り、安掛で左折して鶴ヶ岡を過ぎると山森は近い。京都市内から約2時間30分はみておこう。堀越トンネル手前の吉田バス停前の橋を左折して山森に入って行く。ひなびた村でカヤぶきの民家が残る。最興の福居のバス停付近に駐車スペースが確保できる。

バス停に頭巾山のりっぱな登山案内板があるのでよく見ておこう。昨年の4月、新ハイの例会ではここまで大型バスを乗り入れて大勢で登った。

左に見能谷への道を見送り、右の上谷林道に入る。マイカーは上谷林道にも入れるが、林道の駐車地は地元の山仕事用に使われるのでバス停付近に駐めておきたい。すぐに民家が切れ、上谷沿いを15分も歩くと右に橋があって林道は分岐する。頭巾山への道標がありコースは右の下小屋ヶ谷林道に入る。

以前はまっすぐ上谷林道をつめ、上谷沿いのコースを登っていたが、下小屋ヶ谷林道からの登山道が整備されてからのちは通る人もまれで、やぶにおおわれ、倒木が道を塞いだままになっている。大きい岩を越えたり、何回も渡渉する所があるのであまりおすすめできない。

頭巾山の山頂

二年前、『関西周辺　山と地酒の旅』（新潮社）の取材で、坂倉登喜子さんを案内してこの上谷コースをくだってみたが、とても登山道とは言いがたいほどに荒れていた。登りよりも下山に時間をくったという苦い経験をした。

さて、下小屋ヶ谷林道は橋から約10分で終わる。林道終点に「頭巾山山頂まで

1キロ」の道標があり、ここが登り口である。広場になっているので休憩によい。これより山道に入るのでザックや足元を点検しておこう。

下草におおわれた杉植林の中を行き、谷を渡って支尾根の斜面に取りつく。ジグザグをくり返すと支尾根にのり、右折して支尾根上を若丹稜線までまっすぐに登る。はっきりとした道で勾配もそれほどきつくなく、少し汗ばんでくるくらいの登りだ。この支尾根の上空に送電線が通っていて途中に鉄塔が現れる。

頭巾山付近略図

鉄塔を過ぎ、登りが少し急になると左右は自然林に変わり、ブナが多くなってくる。さすが北山の奥深い山に来たという実感がわいてくる。右前方に若丹尾根が見えてくると稜線は近い。林道終点の登り口から小憩をはさんでも1時間30分で国境稜線の縦走路に登り着く。

稜上の尾根は幅も広く落葉樹におおわれ、あたり一面に落ち葉が積もっている。ディータイムにして汗ばんだ体をしばらく休めたいところである。

右（東）からは、福井県側の納田終からのコースが横尾峠を通って合流している。頭巾山へは、左に折れて国境稜線を西へ行くことになる。広い尾根に一筋の道がくっきりとついている。所どころササが出てくるが、深くなく快適な尾根道である。また多少のアップダウンはあるもののおおむね平坦な道で、途中の広い所では展望が開け、はるか前方に頭巾山が見え隠れする。樹林帯の中は落ち葉が積もり、晩秋の山歩きの醍醐味が味わえるだろう。

1時間30分ものんびり歩くと上谷コースとの分岐に着き、それを左に見送ると山頂は近い。約10分の急登でススキの原となり、やがて頭巾山（877メートル・2等三角点）の山頂に到着する。

山頂の岩の上からは、遠るもののない360度の大展望が満喫できる。眺現さまをまつる小さな社があり、その後ろに三角点がある。遭難小屋もある。

ゆっくりとくつろぎながら大展望を楽しみ、往路を引き返す。元気な人なら3時間もあれば、登山口の福居の駐車地におり立てるだろう。

一方、綾部市側の吉和木からのコースも参道になっていて歩きやすい道である。山と渓谷社の分県登山ガイド25『京都府の山』では、頭巾山はこの吉和木コースが紹介されているのでそれを参考にされるとよい。　（平成8年4月29日歩く）

△コースタイム▽

京都市内（車2時間30分）山森の福居バス停（30分）下小屋ヶ谷林道終点（1時間30分）若丹国境稜線（1時間40分）頭巾山（3時間）福居バス停

△地形図▽5万＝小浜

昭文社＝「48京都北山2」

特選コースガイド③

吉野

多武峰街道

矢立峠越

中級コース（★★）

柴田　昭彦

本居宣長は『菅笠日記』の旅で、明和九年（1772）3月7日、多武峰から冬野を経て、竜在峠を越えて滝畑へくだって、また山一つを越えて、千股の旅宿に泊まっている。この多武峰と吉野をつなぐ街道は、江戸期と明治前期の主要な交通路であり、多武峰参り、吉野詣、大峰山上参りの人々がたくさん往来してにぎわっていた。

この街道のうち、滝畑から千股へ出る山越えの坂道の呼称は一定していない。安永三年（1774）の『西国順礼道志るべ』（柔田雅博訳文、パイオニア四十八号、関西地理学研究会、平成六年）には「ちまたごへ」とある。天明六年（1786）の『西国道中記』（川瀬雅男編、昭和四十七年）や寛政八年（1796）の『大和巡りひとり案内図』（県立奈良図書館蔵）には「ゆみた坂」とあり、津久井駿々子（宝塚編著）『袖珍大和路便覧』（嘉永二年、1849）では「ソトハ峠」と記されている。一方、『奈良県総合文化調査報告書、吉野川流域、龍門地区』（1963年）の中で、交通史の権威として知られた堀井甚一郎氏は、この峠を、矢立峠（弓立峠、弓山峠）と記している。ここでは、矢立峠と呼ぶことにする。

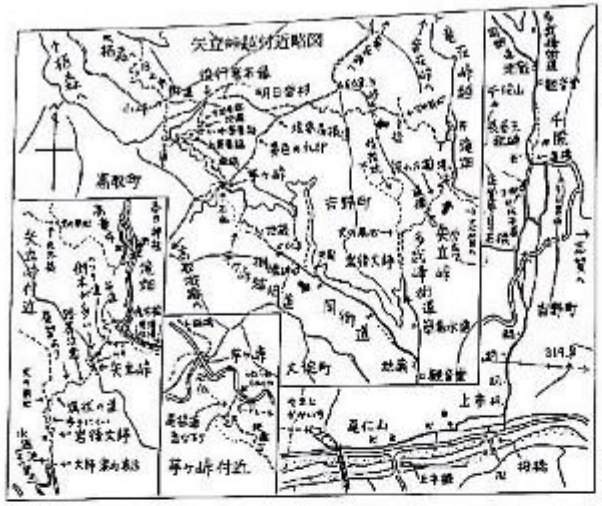
滝畑から千股へ出る矢立峠越の山道は、江戸期から、明治前期にかけて、大道として用いられ、『西国道中記』によると、峠に辻堂があったという。明治前期には、峠に一、二軒の茶屋が出張していたという（総合文化調査）。一方、滝畑から志賀へ出る道は細い人道で、一部の旅人に利用されていたが、明治二十七、八年頃に改修されてからは利用が増大した。そのため、矢立峠越はすたれてしまった。

今回、上市から矢立峠を越えて滝畑へ出る古道をたどり、滝畑から役行者石像までは、在所道（里道）を利用し、学ヶ峠越の古道で上市へ戻るコースを紹介する。

北側から見た矢立峠

近鉄大和上市駅から、上市の古い家並を通り抜けて、郵便局の先で左折して、伊勢街道の旧道を進むと、角屋のところで多武峰街道に出合う。ここには以前、文政四年（1821）の道標が立っていたという。左折して千股方面へ向かう。静かな里の中だが、道路の改修が進められていて、中増方面との分岐点に立つ石標はコンクリートの壁を背にしていて、

もの悲しい。「右たうのみね、おかてら道、左ざいしょ道」と刻んでいて、そのまま直進してもよいが、明治の中頃まで営業していた旅館、坂本屋の古い家屋も今はなく、拡張された道路をさけて、途中で右折して田舎道をとるほうが歩いていて楽しい。



万葉集（巻一―七五）で、長屋王が「宇治間山　朝風寒し　旅にして　衣貸すべき　妹もあらなくに」と詠んだ宇治間山は、千股の東側の小丘とも、千股の北西にある千股山ともいわれるが異説もあって、定かではない。

右手に観音堂を見て少し歩くと左手に地蔵が二体まってあり、多武峰街道と岡街道の分岐点となっている。ここには、昭和二十七年の綜合文化調査の際、「右たふのみねみち、左おかでらみち」と刻んだ自然石の道標があったが、その後の道路改修によって行方不明になっている。

分岐で右をとり、多武峰街道を進む。直道が左へ大きくカーブするあたりで右側に「千股岩後大師」を示す案内板があり、山道へ入る。割木で道が整えてあって、ほどなく岩後大師に着く。左手の滝の音が耳に快い。昭和十年の献灯がある。中の祠を見れば、名称の由来も納得できるだろう。

さらに奥へ150㍍ほど入ると、火の用心の表示があって、右へ入り、すぐの分岐で、左へ急坂を登っていく。道はイバラが少しあり、板木が払ったままになっていたりするが、山仕事の人が利用しているようでさほど困難な所もない。溝状になっている所もあって、古道らしい雰囲気が残っている。途中で左手に展望が開けている。ほどなく矢立峠に着く。

峠には道標があり、上市と滝畑を示している。青垣峠とあるが、由来は不明である。江戸時代には辻堂が立ち、明治前期には茶店があったというが、右手あたりのことであろうか。本居宣長一行は駕籠に乗って、この峠を越えている。明治初期の夏場で、山上参りの盛んな頃には、ここを一日三百人位が通ったというが今では想像しがたい（吉野町史）。

峠から滝畑へくだる道は廃道になって久しい。山仕事の人も利用していないようで、ササが茂り、倒木が道をふさいだり、雑木におおわれていたりして歩きにくい。それでも江戸期の道は痕跡を残していて、右側に谷を見ながら斜面の中腹をへって進んでいくと、やがて谷底へおりる。

右へくだると橋があり、その下の小滝も心地よい気分にさせてくれる。橋を渡って平らな道をたどると丸木橋があって、対岸は滝畑の舗装道路になっている。このあたりの小滝も快い。逆コースをとった場合、滝畑から矢立峠へ入る道は、草に隠れていて分かりにくい。

さて、舗装道路に出て、北へ300㍍ほど進んで橋を渡ると、すぐ右手に春日神社がある。左手にある民家の北側に細い舗装道があり、北西へたどると広い道に出合う。左折して右手に高滝寺を見て進むと行き止まりになるが、よく見ると樹林の中へ上がっていく踏み跡があり、入ってすぐの分岐で右をとって登るとよい。やがて火の用心の表示のある分岐に出る。左をとって丸太の橋を渡る。右手の谷にはかつて水田であったことを示す石垣が見られる。

急坂を上がり、小さい峠を越えて進む。左側が急斜面となっていて、足元に注意して歩く。やがて尾根に出て、童在峠からの山道と合流する。100㍍ほど歩くと分岐があり、芋ヶ峠への尾根道と別れて右へくだる。溝状の古道が続き、気持ちよく歩ける。谷と出合い、左をとると役行者石像の所に出る。石象には「右よしの山上、左ぎいみち」とあり、滝畑からたどってきた道が在所道（里道）であり、古くから利用されてきたことが分かる。

栢森から続く旧上市街道は石像の右側の林道の右手から芋ヶ峠へ向かっている。ロープで急坂をよじ登り、細い道をたどると、やがて道の右側に「馬子しるべ」と呼ばれる小さな地蔵がまつってある所に出る（『吉野郡史』『万葉の道』巻の三）。

地蔵の背後に中ン茶屋の石垣が残り、道の左手下方の平坦地が下ン茶屋の跡のようだ。ここからもう少し先へ進むと、左手に上ン茶屋の跡がある。茶屋の最後の一戸は大正末頃まで残っていたという（『吉野町史』）。大正元年、吉野口・六田間に吉野軽便鉄道が開通してからは、峠越えの徒歩道は、急速に衰えていったのである。

板橋を過ぎると童在峠からの尾根道が左手からおりてきて、分岐で右へくだると直進に出る。南へ少し上がると現在の芋ヶ峠である。旧道の峠は標高500㍍の地点であったが、昭和四十二年頃には開通していた新道の切り通し工事で削り取られて消えてしまった。

『明日香村史』（昭和四十九年）によれば、高市郡側では芋峠、吉野郡側では今峠と呼ばれることが多かったという。イモとは病気のことで、疫病の侵入を防ごうとしたという説はよく知られている。芋ヶ峠越の古道は、天武・持統天皇が吉野離宮（宮滝）へ行幸した際に利用されたのではないかと考えられ、中世以降、飛鳥地方と吉野・大峰を結ぶ道としても盛んに用いられ、明治初期には、盆地から上市への米の運搬路として利用された。

現在の芋ヶ峠には石地蔵がまつられているが、『明日香村史』によると、道路工事の人夫が刻んだり、外から運んできたものだという。車道が開通する以前の旧峠の頂上には、地蔵はなかったということである。

峠からくだる旧道は車道工事によって寸断されたため、消えてしまっている。そこで、車道を300㍍ほどくだると、右側のガードレールに「うねうねくねくね」と書いた案内板があって、口道へ入るための近道となっている。始めは尾根道で、まもなく急なくだりとなり、中腹

で左へ向かう。地蔵を見たあと、旧道に出合う。少しで林道に変わり、水が道をふさいでいるが、流れに沿ってくぐり抜ける。やがて右側に三世地蔵尊がまつってある所に出て、上のほうには慰魂碑がある。そのままくだると街道の合流点に出て、千股を経て、大和上市駅へ帰り着く。

なお、上市から千股までは、同じ道を往復することになるので、上市駅前からタクシーで吉水大師入口まで入っておくと便利である。

また、矢立峠から滝畑までの道はあまり利用されていないので、やぶ歩きに慣れていない場合、岩淵大師から矢立峠までを往復し、街道分岐から国街道へ入り、芋ヶ峠に出て、滝畑へ向かう。志賀へくだればバス停があるが、便がなければ、西へ小さい峠を越えて千股に出て上市駅へ戻ればよいだろう。この場合、うねうねくねくね道の登り口は分かりにくいので、樹魂碑への入り口の少し手前の分岐で右へ入れば、芋ヶ峠へは歩きやすい。車の通行が気にならなければ車道をたどってもよいだろう。滝畑から志賀へくだる途中の二つの滝は男滝、女滝と呼ばれ、注目に値する立派なものである。

矢立峠越の古道は、失われつつある道の一つだが、歴史を刻んできた道でもあり、整備されて復活することを願っている。（平成9年3月28日・4月13日歩く）

⚠コースタイム⚠

近鉄大和上市駅（1時間10分）岩淵大師入口（30分）矢立峠（25分）滝畑（45分）尾根道分岐（25分）役行者石像（25分）芋ヶ峠（45分）街道分岐（1時間）近鉄大和上市駅

△地形図▽2万5千＝政岡山・吉野山

1日教室&宿泊プラン

歩くスキー教室

～クロスカントリー～

初めての人も気軽に楽しめるコースと内容です。スキーセットのレンタルもご用意しています。

●開催地／乗鞍高原、森吉山和田高原、白馬、菅ケ原名原、上高地

●開催期間／12月初旬～4月初旬 毎日実施

日本300名山登頂ツアー

野伏ヶ岳と大日岳

●3月10日(火)～11日(水) ●3月14日(土)～16日(日)
●3月21日(土)～22日(日) 33,000円

位山と川上岳

●4月4日(土)～5日(日) 33,000円

猿ヶ馬場山と鷲ヶ岳

●4月10日(金)～12日(日)
●4月17日(金)～19日(日) 47,000円

笈ヶ岳

●4月24日(金)～26日(日)
●4月27日(月)～29日(祝) 48,000円

●参加費に含まれるもの／1泊につき2食付宿泊代、現地交通費、ガイド料 ほか

●上記ツアーをはじめ乗鞍山、毛勝山、佐武流山など年間を通して300名山登頂を中心としたツアーを開催しています

詳しくは、専用パンフレットをご請求ください。

お問い合わせ・お申し込み

クラブオーディー

0120-55-1520

〒500 岐阜市月丘町6-13
株式会社アウトドアサポートシステム内

錦秋の尾瀬紀行②

尾瀬沼と燧ヶ岳

田中　誠

昭10月11日、6時45分、燧ヶ岳への登山希望者が弥四郎小屋前に集合。前日の至仏山よりやや減り13名が参加。5分後出発する。

下田代（1時間）十字路の両側に立ち並ぶ山小屋の間からゆるやかな登山道に入り、尾瀬ヶ原からなお続く木道を静かにゆっくりと進み行く。薄いもやが周り一面に漂うなか、ブナの黄葉や真っ赤な紅葉っぱが山道いっぱいに広がっている。

15分も歩けば木道は終わり、見晴新道が分岐する。そこから谷沿いの見晴新道に入ると登りは徐々にきつくなった。また山肌より染み出す水が小さな水溜まりとなって、歩きづらくなってきた。ズボンの裾や靴を気にしながらササをつかんで慎重に歩く。

登り始めた頃は、私らのパーティのみであったが、どこから集まってくるのか、先行のパーティに追いつき、また、後ろから来る人に追いつかれ、列が長くなってきた。元気のよい埼玉の高校生の一団、若いカップル、老年の夫婦連れなどが休憩するたびに、前にいったり後ろを歩いたり、団体も多く後先を譲り合いながら頂上をめざす。

40～50分ほど登った所で、先を登っていく仲間が後ろをふり向きながら歓声を上げる。つられて私も後ろをふり返れば、太い木々の間に時おり見えていた尾瀬ヶ原が朝日に照らされキラキラと光り始めていた。黄金に色づく草紅葉が尾瀬ヶ原一面に洋々と広がっているのがいきなり見えてきた。少々バテぎみであった玄蔵も、あたりが明るくなり、ようやく尾瀬ヶ原が一望できることにすっかり気をよくしたのか元気を取り戻した。こうなれば現金なもので足どりも軽やかになってきた。もうだれもバテる心配はない。所どころで休憩をとりながらのにぎやかな燧ヶ岳登山となった。

燧ヶ岳山頂より尾瀬沼

五合目から登山道は一変し、いきなりの急登となった。足元には大きな岩がゴロゴロし、「浮き石」が目立ってきた。こんな山道では注意が肝要だ。察の定、先を登る人が浮き石を踏みはずしゴロゴロと転がってきた。「ラク！」と大声をあげ注意をうながし、持っていたピッケルを地面に突き立て転がってきた石をようやく止めることができた。直径20㎝はあろうかという石で、もう少しスピードを増しながら転がってくれば、他の石を動かし大惨事になるところであった。石が動いたら「ラク！」と大声を発し後続者に注意を与えてくれるよう先行者に依頼する。

だんだんに傾斜がきつくなり、右手に赤ナゲレ岳、正面に大きな岩稜が見えてきた。三点確保を自分に言い聞かせながらゆっくりとあとに続く。

ほどなく温泉小屋道との合流地点にたどり着く。九合目で足場を確保し全員小休止。眼下には緩に長くのびる尾瀬ヶ原の全貌が見渡せ、そのはるかかなたには蒸霞とした至仏山。突き出た岩場から見渡せば遠るものは何もない。見上げれば柴安嵓は指呼の間である。

ハイマツと岩稜の間をゆっくり登り、小休止している他のパーティを追い越し、ようやく東北地方最高峰（2356㍍）の燧ヶ岳・柴安嵓に9時50分到着した。

私は「百名山」を三年間で12峰登ったが、どの山でも雨にたたられ、ガスにまかれ、強風に吹かれたりで、山頂の標識を証拠写真に撮るのみであった。しかし今回は全く違った。青い空には太陽が、前方には尾瀬ヶ原の大湿原が広がり、はるか向こうにはきのう登った至仏山が悠然と横たわっている。

至仏山から見ると燧ヶ岳の頂上は天に向かって突き刺しているように、また、尾瀬ヶ原からは単独峰のように見えていたが、登ってみれば柴安嵓と俎嵓と、二峰に分かれている。案内書をそこまでじっくり読まなかった自分を恥じる。もっとも燧ヶ岳からくだって、尾瀬沼畔から見れば二つの独峰が鞍部をはさんで大きくそびえているのがよく分かったのだが。

深田久弥氏の『日本百名山』によれば三角点のある方を俎嵓、一方を柴安嵓と呼ぶ、後者が20㍍あまり高いとある。燧という名前は東北面に鍛冶峡の形をした残雪が現れるからだという。鍛冶すなわち火打ちとある。絵筑波対の七人様を渡れば見えるとある。そこから燧岳を望むと俎嵓のみさっそうと立ち、柴安嵓は見えぬとある。その「マナイタグラ」の由来は俎のような岩の形によるとあり、柴安の名の由来は分からぬとあった。

ここで早めの昼食をリーダーに指示される。聞けば次の山頂、俎嵓では大勢が弁当を広げてゆっくりくつろげる場所がないとのこと。おまけにきょうは晴天なので、頂上は多くの登山者が集い、いつもよりさらに狭くなるとのこと。私らのほとんどが、初めて登る山のことと、何も分からずリーダーに従ったが、やはりこれが正解であった。そのあと登った柴嵓は頂上も狭く大勢の登山者でもふれ返り、弁当やコンロが広げられるような場所は少しもなかった。

記念写真を撮っているうちに、いつの間に登ってきたのかと思うほどの登山者で、広い柴安嵓頂上もまたたく間にいっぱいになってきた。しかし、山の中間の気安さ、見知らぬ者同士が気軽に声をかけ合い場所を譲り合う。弁当を広げてどこから来たのかとか、どのコースを登って来たかなど、話はつきない。

10時30分、俎嵓に向かって出発。すぐに急下降となる。登って来る人に道を譲りながら慎重におりること約10分で鞍部に着き、再び頂上をめざす。当たり前の話だが今度は急登となる。

10時50分、狭い頂上の燧岳・燧ヶ岳三角点（2346㍍）に到着、記念写真を交代で撮る。低いほうの燧岳になぜ三角点があるのか、とんと分からないが登った喜びが大きくてむずかしいことは何も考えず、持ってきたビールでまずは一人乾杯する。私にとってめざす百名山はこれで28座目。同行の山友にもわずかながらの缶ビールを注き、燧ヶ岳登頂に乾杯した。

東には周囲約6㌔の尾瀬沼、西には東西約6㌔・南北1㌔の大湿原尾瀬ヶ原が広がる。また目を移し、北方の会津駒ヶ岳を眺めていると10分はあっという間に過ぎる。狭い頂上は、次から次へと登り着く登山者に押され、足の踏み場もないほどに満員になってきた。ゆっくりと景色を楽しむ余裕もなくなり、早々に長英新道をくだることになった。先ほど登った以上の急下降となる。およそ15分ほど慎重におりると赤ナグレ岳横の展望台に出た。ここからは、柴安岳と俎嶽の岩峰が対峙してよく見える。燧ヶ岳の盟主は私だと言わんばかりにおたがいが張り合っているようにも見え、なかなかおもしろい。

展望台に立つと日光連山も一望できた。同行者全員で記念写真を撮り、再びくだり始める。あたりはきのうの至仏山登山道のように紅葉真っ盛り、赤や黄色の混在するプロムナードの再現となった。少しずつ高度を下げると小さな落葉樹やツナ・唐松の大木が山道の両側一帯をおおうようになり、道もぬかるんできた。13時55分、浅湯湿原橋のT字路におり立った。

ここから長蔵小屋まで約30分とのこと。10分も歩き、ブナ林のトンネルを抜けると、いきなり紅葉の大舞台が出現した。大江湿原である。向かい側のなだらかな丘陵地帯には、ダケカンバやさまざまな木の赤色と黄色の葉っぱが豪然と並び、左から右に吹く風に大きく揺すられながら山小屋近くまでゆっくりと波打つさまは、まるでワイド写真で撮ってくれと言わんばかりの風景であった。プロやアマのカメラマンが狭い木道の端に三脚を立てて並び、長い望遠レンズで紅葉の舞台の美しい瞬間を撮ろうと待ち構えている。時おり流れゆく大きな雲が陽光をさえぎり、その舞台の色が変わっていく。光と陰がスポットライトを当てたように微妙に変化する。そして、その瞬間、カメラのシャッターがいっせいに音をたてる。

燧ヶ岳登山は天気に恵まれ、予定よりかなり早くおりられた。それで、この尾瀬長英新道を開拓した平野家代々の墓におまいりすることになった。沼畔の大江湿原に眠りにつく平野家一族の墓所におまいりして山紀行の無事を祈る。墓所から20分で尾瀬沼畔ビジターセンターに14時50分到着した。

今夜泊まる予定の長蔵小屋などの山小屋が建ち並び、沼を隔てて燧ヶ岳が目の前に大きくそびえている。沼岸に生える草すすきも岸辺に向かって穂先が少しずつ濃く色を変えていて、ゆっくりと尾瀬の秋が通り過ぎていくのが感じられた。

缶ビールを飲みながら東北地方最高峰の山をあらためて見上げる。先ほど登ったばかりの岩峰が目の前に大きくそびえている。登ってきた者にしか分からない大きな爽快感に充たされた。

待つこと1時間、燧裏林道に向かった別動隊がようやく到着した。山小屋の受付で宿泊の手続きをすませ、長蔵小屋別棟に全員落ち着く。ありがたいことには今夜も「風呂あり」とのこと。三々五々

風呂場に向かい汗を流す。ごったがえす本館の食堂で山小屋独特の早い夕食をすませ、別棟休憩室で有志が集まり宴会が始まる。酒は持ち寄り、不足分は売店で仕入れ、小屋前の湧水にて氷割りをつくり、昨夜以上の賑やかな宴会となった。

「尾瀬の玉三郎」こと、松下会長に尾瀬の歴史について講義を受ける。

昔、火山であったこと。爆発によって池の水の流れが変わったこと。年平均一㍍の堆積物がたまり、それが何千年の間たまりにたまって、今や五、六層にも達しているとのこと。地元の小・中学校に協力してもらい三年に一度尾瀬ヶ原の清掃を行っていること。清掃を行う時は、あわせて植物の調査も行い、そのため前もって植物について勉強会があること。最近は、心ないハイカーのため、三年に一度の清掃では一日で運び出せないくらいのゴミが集まり、運び出するのに大変な苦労を強いられていることなど、案内書にも載っていないことをいろいろと教えていただいた。

大江湿原より燧ヶ岳を望む

また、きょうの燧裏林道でのハイキングの道中、上田代では同行者全員が間近に見つめるなか、クマがブナの木の枝を折りながら木のてっぺんまで登っていき、枝を折り下に落とし、木の根元でゆっくりとその実を食べ悠然と去って行った。現場に木の実がなければ、まず一番に会長が襲われたのではないかとの冗談が飛び交ったとか。聞いている我々もみな一様にうなずく。今晩の酒盛りはいちだんと弾みがつく。また「おこじょ」にも会ったとのこと。見た場所、見た時間を尾瀬沼ビジターセンターに届けたとのこと、届ければ記念に尾瀬のテレカがもらえるそうだ。私は残念ながら、若い青年ハイカーのシューズの上にしがみついて離れないハッカネズミほどの小物物にしかお目にかからなかった。尾瀬の話をいろいろとお聞きするうち夜も更け、お開きとなった。

明けて10月12日、朝食をすませた後、尾瀬沼一周ハイキングに向かった。重いリュックも小屋に残して、カメラ片手の気楽な散歩となった。きょうも楽しみは多く、そのうえ沼尻では尾瀬名物のおいしいそばがたっぷりと食べられるとのこと。

長蔵小屋を出て沼畔の道を歩けば、かすみがたなびき、水面も静かにまどろんでいる。まだ朝も早くハイカーも少ない。右手上空にはきのう登った燧ヶ岳を望み、左側岸辺には蒼穹の映える尾瀬沼の大自然をゆっくり鑑賞しながら、ぜいたくな尾瀬散歩となった。

1時間も散策すれば沼尻そば屋に到着。会長知人の店とか、頑固な店主が「尾瀬の会」一同が訪れるまでは店も開けぬとの約束をかたくなに守り、のれんも出さず店は閉めたまま。私たちの到着を待ってすぐに開店となった。おかげでゆっくりと好み好みに注文ができ、尾瀬名物のそばをおいしくいただいた。開店と同時に他の客も入り、狭い店はすぐに満席となったのは言うまでもない。

朝も10時頃になれば稚ヶ岳山頂で会った人数以上のハイカーがどこからともなく湧いてくる。尾瀬沼西畔に向かうも、対向するハイカーがだんだんと増えてくる。きのうの山の秘境、おとといの夕暮れ迫る尾瀬ヶ原は、すれ違うハイカーも少なく、木道もここに比べればこころなしか広かった。しかし、こちらは様子が少々違っていた。木道はいたる所で腐り、また崩れて狭くなっていた。ハイカーも昨日までとは比べものにならないくらいの人数で、団体も増えてきた。交互通行とはいえ待つのも面倒で、木道横の笹堆を何度となく歩き、対向する大勢のハイカーとすれ違う。

尾瀬沼一周とはいえ、場所によっては、アップダウンの箇所も多く、すれ違うことのできない狭い坂道に何度も出くわした。そこでは、だれかの提案により（当然、私も提案したが）10名から12名ずつの交代歩行となった。このことは、〝じゃんけんぽんの尾瀬街道〟とどこかの案内書に書いてあった。登り優先とはいえ、登ってくる相手を待っていては、日暮れまで待っても途切れぬハイカーが三平峠下からやってくる。大勢のハイカーとすれ違い、ようやく三平峠下を通り抜け、木道も新しくなり、尾瀬沼湖畔の長蔵小屋に帰り着いた。

全員、リュックを軽え長蔵小屋前に集合、三平峠（尾瀬峠）をめざし再び歩き始める。

「尾瀬よ、さらば、またくる日まで」。

三平峠を一気に登り、小1時間くだれば三平峠・一ノ瀬橋の休憩所にたどり着く。いよいよすばらしかった尾瀬の紅葉ともお別れである。そこから早足で歩くこと1時間で大清水の駐車場に14時30分到着した。

戸倉村のホテル玉城屋温泉にて汗を流し、三日間のひげをきれいにそってさっぱりとする。湯あがりの同行の山友だちと大広間に集まり、いくつもの円座をつくりビールで乾杯。賑やかで楽しい感想会となった。

名残り惜しいが、夜行バスにて帰途につく山友とここで別れ、ホテルで紹介された近くの民宿に一人移る。あすは近くに鎮座する名峰、百名山のひとつ『武尊山』に登るつもりである。しかし巨算違いが二つも生じた。

一つは武尊山麓の村営宿泊所がこの10月10日に今年度の営業を終了したとのこと。今晩中にそこまで行くつもりであったが、それが一つめの誤算。もう一つ、天気予報と交通アクセス。翌日は大雨の予想となった。雨男の面目躍如。タクシー予約もままならず就寝となった。起きてみれば小雨、天気予報は良いほうに向かうという。あわてて登る準備をしてバス停でタクシー待つも予約のタクシーだけが通りすぎていくのみ。1時間も経ってもはや登山口に取りつく時間となった。くだりの時間を考えると6時に登山口を出発できない場合は、登るのを諦めざるを得ない。深い山だけに帰りのバスの運行もなく、また民宿のシーズン中でもあり、タクシーの予約もままならない。武尊山に登るのを諦め、7時50分の始発バスに乗り込んだ。

吹き荒れの流で途中下車し、朝食を摂のためもとでとって写真も何枚か撮った。再び路線バスでロマンテック街道を通り、上州赤城山を左に見て、右側には登るつもりであった悠然と鎮座する武尊山を羨ましげに眺めながら、JRを乗り継ぎ東京駅を経て京都に帰った。

（平成8年10月11日～13日歩く）

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽島城商屋すきまつり「遠流高原秋の山野草観察ハイキング」11月1日(日)小雨決行（集合）蔵城山コーブウェイ山上駅11時（コース）蔵城山上駅—蔵城山頂—カブト岩—自然研究路—国見展望台—山上駅（約4㌔）、参加自由・無料、天王寺車乗06（624）0382～3

▽紅葉の吉野山キャンペーン「桜闘寺から西行庵を経て吉野山へ」11月1日(日)雨天中止（集合）下市口駅9時15分（コース）下市口駅（バス）地蔵峠—蔵王堂—金峰神社—吉野水分神社—花矢倉—勝手神社—蔵王堂—吉野駅（約12㌔）、参加自由・無料（拝観・バス代は別途）、天王寺車乗06（624）0382～3

▽ミステリーロマン飛鳥07「第12回飛鳥ミステリーウォーク」11月3日(祝)雨天中止（集合）国登録飛鳥歴史公園館前広場10時（飛鳥駅から徒歩10分）（コース）公園館前広場—高松塚古墳—文武天皇陵—於美阿志神社—猿石—鬼の雄・雄岡—鳥石—橘寺—石舞台—生石広場（ステージ）（バス）樫原神宮前駅（約8㌔）参加自由・無料（拝観・入館料は別途）、＊ステージではラジオ大阪の番組企画があります。天王寺車乗06（622）0382～3

▽ウィークデーハイク歴史街道花の道を行く（すすき）「銀色の大草原墓巡落（墓巡）高原」11月6日(水)雨天中止（集合）名張駅東改札前9時30分（コース）名張駅（バス）中太郎生—青蓮寺跡—太良路（バス）名張駅（約6㌔）、参加自由・無料（バス代別途）、＊カメラを持ってご参加ください。上本町車乗06（775）3566

▽万歩ハイキング「30周年記念ウワナベコース」11月9日(月)雨天中止（集合）西大寺駅南改札前3時30分～10時（コース）西大寺駅—西大寺—秋篠寺—平城宮跡—ウワナベ池—木津寺—鴻ノ池—般若寺—手向山八幡宮—春日大社—近鉄奈良駅（約15㌔）、参加自由・無料、上本町車乗06（775）3566

▽近鉄・南海合同企画、金剛生駒紀泉120㌔縦走「第7回葛城山」11月23日(祝)雨天は12月14日(日)または12月21日(日)に延期（集合）葛城駅前9時～10時（コース）葛城駅—天王の森—葛城神社—信貴山のどか村—信貴山朝護孫子寺—泉の滝—竜田川駅（約14㌔）、参加自由・無料、上本町車乗06（775）3566

▽株売ファミリーハイキング「正暦寺」11月23日(土)雨天中止（集合）近鉄奈良駅東改札前10時（コース）近鉄奈良駅（バス）田原新陵前—正暦寺—円堂寺—白毫寺—近鉄奈良駅（約13㌔）、参加自由・無料（バス代別途）、上本町車乗06（775）3566

▽文学散歩・歴史街道を行く「語り継がれた里道を歩く「キトラ古墳から高松塚へ、松風の生」11月30日(日)雨天中止（集合）壺坂山駅前10時10分（コース）壺坂山駅—キトラ古墳—檜隈寺跡・於美阿志神社—文武天皇陵—高松塚古墳—中尾山古墳—天武・持統天皇陵—芋峠山古墳—橘寺—飛鳥資料館（約9㌔）、参加自由・会費300円、講師入谷哲彦女子短期大学名誉教授岡田保造氏、天王寺車乗06（624）0382～3

▽近鉄登山・森水の花風、大台ヶ原へ「三出ヶ岳から牛石ヶ原へ」

11月30日(日)雨天中止（集合）大和上市駅(9時15分（コース）大和上市駅—大多ヶ原駐車場—日出ヶ岳—北木ヶ原—生石ヶ原—シオカラ谷—大谷ヶ原駐車場（バス）大和上市駅（約9㎞）参加定員200名（電話申し込み制）・無料（バス代別途）、天王寺事業03（6224）0382～3

▽近鉄ウィークデーハイク「宇治敵策」 12月4日(水)雨天中止（集合）小倉駅西改札前10時（コース）小倉駅—宇治神社—子持上神社—仏巻山—興聖寺—宝蔵院（解散・バス）大久保駅（約10㎞）、参加自由・無料（バス代別途）、上本町事業06（775）3566

▽近鉄・南海合同企画、金剛生駒紀泉120㎞縦走「最終回信貴山から生駒山」 12月7日(日)雨天に12月14日(日)または12月21日(日)に延期（集合）信貴山門遠橋8時～9時10分（コース）別当橋—信貴山本堂—五智堂—十三峠—鳴川峠—ぼくらの広場—生駒山上駅（約15㎞）、参加自由・無料、上本町事業06（775）3566

▽文学散歩・万葉の心を求めて、万葉の丘に立つ③「かぎろひの丘・阿騎野」 12月14日(日)雨天中止（集合）榛原駅前10時10分（コース）榛原駅（バス）大宇陀高校前—阿紀神社—かぎろひの丘—八咫烏神社—迷界寺（池上芳雄碑）—独鈷の池—芳雄歌碑—思坂神社—榛原駅（約11㎞）、参加自由・会費300円（バス代別途）、講師武田川女子大学教授大森亮尚氏、上本町事業06（775）3566

▽元旦御来光ハイキング「伊勢神宮山コース」 1月1日(水)（集合）五十鈴川駅前午前0時30分（コース）五十鈴川駅—神宮神山—朝熊山（御来光展望・バス）内宮（約3㎞）、参加定員2000名（電話申し込み制）・無料、名古屋事業0593（54）7007

阪急

▽（じゅうしん）ゆっくり歩こうシリーズ④「みのお・五月山コース」 11月2日(日)雨天中止（集合）箕面駅下車海道徒歩15分の滝安寺境内出発10時30分（コース）滝安寺—落合谷分岐—ようらく台展望—箕面ゴルフ場—池田ゴルフ場—五月山遊園—都市緑化植物園—阪急池田駅（約8㎞一般向）、参加自由・無料、阪急観光開発部06（373）5326

▽かんさい遍路、97五私鉄歴史ウォーク歴史的人物編「秀吉ゆかりの天王山」 11月9日(日)または11月16日(日)に延期（集合）阪急大山崎駅下車北西へ徒歩15分の宝寺境内9時30分～10時30分（コース）宝寺—酒解神社—天王山—浄土谷—興谷観音—慶福寺—長岡天満宮（解散）—長岡天神駅（約11㎞一般向）、参加自由・無料、阪急観光開発部06（373）5326

▽デイリースポーツウンケルシリーズ、第19回豊塚自然休養林クリーンハイキング「中山寺奥の院・米谷高原コース」 11月23日(祝)雨天中止（集合）中山駅下車すぐ宝塚自然休養林シンボル広場—大師岩展望—中山寺奥の院—やすらぎ広場（解散）—勝尾寺駅—清澄神参道—清荒神駅（約7㎞家族向）、参加自由・無料、阪急観光開発部06（373）5326

▽キャラバンスペシャル・六甲全山縦走チャレンジシリーズ5「天狗道・摩耶山上コース」 12月7日(日)雨天中止（集合）有馬温泉駅前—9㎞の鉄ヶ滝公園10時40分（コース）公園—大谷—百間滝—紅葉谷道—射場山—鬼手仏谷—有馬温泉駅（約8㎞家族向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（522）0321

▽神鉄ハイキング「駒宇佐八幡宮百名師り品物ハイク」 11月23日(祝)雨天中止（集合）JR篠山駅10時30分（コース）篠本駅—日出坂—大谷—駒宇佐八幡宮（百名師）—岩倉—篠田—篠本駅（約12㎞一般向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（522）0321

▽神鉄ハイキング「北摂の秋満喫風景谷ハイク」 12月7日(日)雨天中止（集合）五社駅北西中民神社9時20分（コース）五社駅—八多—五辻谷—民俗谷出谷—五辻—大池駅（約10㎞一般向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（521）03

○新ハイ関西サービスチェーン

名称・二度温泉　小白倉—大白倉—甲子・茅負への駅土湯場　1名でも結宿可・茅負超可（要予約）　問茅負温泉内線
福島・二岐温泉
日観連　大和館
〒963—06
福島県西郡天栄村二岐温泉
電話　0248—84—3021
7　2215—8—2222

四阿山・縄ノ山・浅間山・黒斑山・根子岳・金峰山・瑞牆山・甲武信岳・三宝山・日本百名山の5～約40㎞
指定で33㎞三宝山の大パノラマへ
新潟県湯沢　真田屋
〒367—10
群馬県吾妻郡嬬恋村新鹿沢温泉
電話　0279—98—0111

富士登山・第十五湖
東海道自然歩道
（石割山・ハリモミ樹林）
三国山の館
ペンション　コットンテール
〒401—05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話　0555—65—1815

太宰治・井伏鱒二の山荘
駅室・谷川岳ロープウェイ
JR中央線・谷川岳駅下車タクシー10分
バス20分谷川岳上車徒歩2時間
山小屋　栃ちゃん荘
〒464　山梨県南巨摩郡白根町
電話（自宅）0553—33—4339
（山小屋）0552—55—2222

日(日)雨天中止（集合）山陽神戸線新神戸駅北側の八幡山展望台9時（コース）新神戸駅—布引貯水池—桜茶屋—茶茶坂—大龍辻—摩耶山—アゴニー坂—相谷峠—市立自然の家—三国池—六甲山ホテル—六甲山記念碑台—六甲ケーブル山上駅（約14㎞一般向）、参加自由・無料、阪急観光開発部06（373）5326

▽阪急・神鉄土曜ハイキング「油コブシ・アイスロードコース」 12月20日(日)雨天中止（集合）六甲ケーブル下出発10時（コース）六甲ケーブル下—油コブシ—六甲山ゴルフ場—六甲山記念碑台—前ヶ辻—アイスロード—六甲ケーブル下（約3㎞中級向）、参加自由・無料、阪急観光開発部06（373）5326

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「菖花のしおりハイク」 11月2日(日)雨天中止（集合）大塩駅大塩公園10時（コース）大塩駅—大塩公園—長谷鉢—的形八家庭園—小茶屋歩道—木庭山—八家駅（10㎞一般向）、参加自由・無料、姫路市観光課ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「菊水山・七三峠ハイク」 11月16日(日)雨天中止（集合）西代駅前山陽電車本社前10時（コース）本社前—高取山—菊水山—鈴蘭山—七三峠—大師道—花隈駅（約14㎞健脚向）、参加自由・無料、姫路市観光課ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「座禅神社・生石神社ハイク」 12月7日(日)雨天中止（集合）山陽西飾駅下車曽根天満宮境内10時（コース）曽根天満宮—長松川河畔—池崎神社—生石神社—伊保駅（約11㎞家族向）、参加自由・無料、姫路観光課ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「須磨浦・転法輪寺ハイク」 12月21日(日)雨天中止（集合）須磨浦公園駅下車鉄炭山上（須磨離宮前）10時（コース）須磨浦公園駅下車鉄炭山—おらが山—奥須磨公園—名井畑—転法輪寺（バス）山陽垂水駅（約3㎞家族向）、参加自由・無料、姫路観光課ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「須磨浦・転法輪寺ハイク」 11月9日(日)雨天中止（集合）有馬温泉駅前—9㎞の鉄ヶ滝公園10時40分（コース）公園—大谷—百間滝—紅葉谷道—射場山—鬼手仏谷—有馬温泉駅（約8㎞家族向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（522）0321

▽神鉄ハイキング「駒宇佐八幡宮百名師り品物ハイク」 11月23日(祝)雨天中止（集合）JR篠山駅10時30分（コース）篠本駅—日出坂—大谷—駒宇佐八幡宮（百名師）—岩倉—篠田—篠本駅（約12㎞一般向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（522）0321

▽神鉄ハイキング「北摂の秋満喫風景谷ハイク」 12月7日(日)雨天中止（集合）五社駅北西中民神社9時20分（コース）五社駅—八多—五辻谷—民俗谷出谷—五辻—大池駅（約10㎞一般向）、参加自由・無料、神鉄観光事業078（521）03

□これ以外にも多数の紙しがあります。各社の広場も見て下さい。

民宿・平ケ岳登山口約6の山小屋
秘湯三国峠国定公園内
清四郎小屋
はんものの手打そばと茶店は
樹　海
〒946
新潟県北魚沼郡
湯之谷村大字蓬平
電話　0257—80—2028（表銀山）
0257—87—2—5026
（冬期）

汗をたっぷり流せる温泉と
雄々峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949—21　新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電話　0255—86—2261

高山の花、高原の花
妙高山と火打山
百名山を二つ望める山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949—21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉　ナガサキロッジ
電話　0255—86—2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺める、山と海の両方が楽しめる、大佐渡連峰の絶景！温と夜景に酔いながら語らいはほずむ
国民宿舎　大佐渡ロッジ
1泊2食付き　6800円
〒952　新潟県両津市椎
電話　0259—27—4570

せせらぎ

題字・小林玻璃三

「牛の山」三題

毎年「青春18きっぷ」が発売されるとこれを利用して遠方へ出かける。1月、静岡県の高天神山、浜石岳と牛ヶ峰へ。静岡駅から美和線のバスで敷地へ入り、牛ヶ峰（717㍍）に登る。広いカヤトの原からは富士山が一望できる。

4月、但馬の牛ヶ峰山へ。JRを乗り継いで浜坂駅まで来ると昼前。タクシーで越坂まで入る。頂上には立派な神社がある。少しの登りで三角点（713㍍）に着く。雲の切れ間から周の山が見えた。

7月、岡山県の高梁の臥牛山へ。今に残る松山城から屏風状続きで臥牛山の三角点（478㍍）に出る。展望なし。

（阪上　義次）

さる7月上旬、長い山歩きの中で、今回始めて花を愛でる目的の山行を計画した。それも平日である。同行の仲間はIさん・Aさん・Kさん、そして私と計四名。

私は花の名を何度教えられてもすぐ忘れてしまうのだが、出会う野草にはやはり感激する。

目的地は南アルプス東麓の櫛形山で、花はアヤメ。梅雨期なので雨を心配していたが降らず、時おり霧が流れてロマンチックな気分にしてくれる。同行の三人は足元に咲く花の名を確かめながら楽しそうに歩く。

アヤメの群落は、山頂近くの日の当たる緩斜面に紫のジュウタンを拡げていた。Aさん・Kさんは感嘆がかなったと感激。Iさんはよくもまあこの悪条件の下でこれだけの花が……と一言。

お花畑に行くまでに会った人は数名だったのに、群落の周回コースはハイカーが列をなしている。これがシーズンの休日だったらと思うと―。

すでに道が荒れて赤土が群落に流れ込み、花が消えている所もある。今後の保護のあり方を問われる時期のように思える。

（木道になるのでしょうか？）

（須磨岡　緑）

「雲の峰幾つ崩れて月の山」、松尾芭蕉翁が出羽の月山頂上で詠んだ名句である。

行く先々で芭蕉の足跡に触れることが多く、昨年の古典文学鑑賞講座に「奥の細道」を選んだ私は、いずれ出羽三山を訪ね、月山登山を果たしたいと願っていたが、この夏それを実現することができた。

登山コースは「日本霊山紀行」の浅野孝一氏が推奨される行程（本誌25号）を選択した。八合目（標高1390㍍）から登り始めたのは午前8時頃分。登山道は大小の岩石が埋まり歩き難かったが、岩崎元郎さんの静荷重静移動法を念頭において歩を進めた。

11時45分、頂上（1980㍍）に到着し、さっそくお祓いを受けて月山神社への参拝をすませた。神社裏手にある1等三角点にも登ってあいさつをしておく。頂上は霧のなかで、朝日連峰や鳥海山等のすばらしい展望は望むべくもなく残念だった。

12時45分、下山開始。湯殿山へのくだりで最大の難所は月光坂である。金月光という垂直に近い鉄梯子を登設が装置にくだった後も、水月光といわれる沢沿いの荒い石段を急下降しなければならない。やっと裏参道に辿り立った時は本当にほっとした。

現代人にとっては、芭蕉のように月山頂上から湯殿山へくだり、その日のうちに再び月山を経由して羽黒山に戻るなど不可能ではないかと思われるほどに厳しい登山が続く難所であった。

疲れきって湯殿山神社に到着したのは16時過ぎ。バスの時間の都合でお祓いを受ける余裕はなく、「語られぬ湯殿にぬらす袖かな」で啓示されている御神体に参拝できなかったのは心残りであった。

なお、羽黒山にある出羽三山神社には、前日、2446段ある石段を登り下りして参詣をすませておいた。その際に芭蕉が滞在しそこから湯殿山へ往復したという座谷へ入り、参道のにぎわいとは打ってかわった静寂の中に行んだ。修験跡の古びた池や巨石に往昔をしのんだ。

帰阪後、実感をもって「奥の細道」を再読したのはもちろんである。深田久弥氏の「日本百名山」や月山に関するNHKビデオも良き鑑賞した。また、島貫陽夫妻の「出羽三山―芭蕉さんはどこを通ったのでしょう」（『ゆっくり山歩』より）も楽しく読み直すことができた。

あとは、串田孫一・今井通子・今福龍太三氏の編集による（日本の名山図会月山）（淡交社）の発年発売を待っている。

（東谷　宏）

幾多の山、私にとって忘れられない山となった。

平成四年12月29日の武奈ヶ岳から始め、足かけ四年九ヶ月で目標であった近畿百名山に20代で完登することができた。

7月15日、晴れ。週末の天気予報はくだり坂になっていたが、いきなり太平洋高気圧が勢いを増し、天が味方したのか快晴となった。

この山行には、妻、昨年10月3日（登山の日）に誕生した長男の蓬萬、私の両親、そして山の仲間14人が同行してくれた。山頂ではセレモニーをして完登を祝ってくれた。

いろいろな人の協力で完登できたが、特に妻には心から感謝したい。これからも、二百～三百名山と続くのでよろしくお願いする。

（下山　勝）

8月4日、木曽御嶽山に登りました。

3日、21時頃の大阪発の急行に乗りましたが、山行では初めての夜行です。若者から中高年まで多くの人が乗っていました。

休憩・宴会・入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
新穂高温泉
福島館
〒250-06 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下139
電 0460-4-9041

「宮の原りそ」の眺望、レトロな雰囲気に満腹川の渓流
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
ご温泉の方に近道（天城山）ハイキングコース案内書をたしかめます
〒410-3105 静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野93
電 0558-35-7225

四季織りなす高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日帰温泉
温泉旅館 けやき山荘
〒390-15 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 03593-93-2555

さわやかな信州
蓼科高原 山次の湯
湯田中温泉（穂波）
日野屋旅館
〒381-04 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉郷穂波
電 02691-33-3578

標高2000㍍雲海上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒386-4 長野県小諸市高峰高原
電 0267-25-2000

日本最高位の温泉（2400㍍）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先〒930-14 富山県中新川郡大山町芦峅寺字一47
電 076-482-1633／4／97-11／25は現地へ
電 0764-65-4525

ハイキングに／スキーに／
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯終点下車
電 0269-34-2424
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-15（新光第2ビル）
㈱スポーツサービス
電 03-3341-0211

塩の道 千国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-93 長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261-72-4452

4日、2時45分頃に木曽福島駅に着き、約1時間待って、3時50分発の田の原行きのバスに乗りました。約1時間半かかって田の原に着きました。ここから王滝口を通り、山頂を往復しました。登り一辺倒のため大変疲れました。また登りもくだりも曇っていたため、景色がほとんど見えません。しかし、無心な信仰を持った人たちがかなり登っておられたので心は温かくなりました。晴れていれば北アルプスや中央アルプスが見えるはずでしたが、残念です。

いつになるか分かりませんが、次回の山行を楽しみにしたいと思います。（豊岡　孝一）

この春から、地元の自然観察会にボランティア解説員として参加し、月一回程度活動しています。平地の田園地帯や森、あるいは河原などがフィールドになるため、ふだん山しか歩いていない私には見慣れない草が多く、近年の帰化植物や園芸品種（私ははとんど名前を知りません）の野生化などに遭遇すると、名前が判明するまで悪戦苦闘するような始末です。

植物の名前を教えることが観察会というわけではないのですが、花を付けている草木は、やはりだれもが名前を知りたいと思うものです。

名前の判然としないものは、「わかりません」と率直に解説（?）するようにしているのですが、時として間違った解説をしてしまうこともあり、そんなときは、解説した直後から「待てよ、少し変だな……」と気になります。

観察会の終了までに綻びがはっきりし、「○○法の樣に咲いていた白い花を××と言いました」が、△△の間違いでした。どうもすみません」などと弁明すると、皆さんもおもしろそうに笑っています。

観察会を主催する仲間の中には、自らの誤りを認めようとしない人もいるそうで、無心の知れた仲間内では、「誤りを素直に認めるという姿勢を大切にしよう」と話し合っています。

観察会には、少数でも植物に詳しい方が必ず参加しているものです。そんな人から一枚の葉っぱを見せられ「これ何ですか」と訊ねられると、訊ねられた私は、内心穏やかではありません。頭の中の植物ファイルをひっくり返し、「どう見ても○○なんだけれど、この人がわざわざ訊ねるというのは、○○ではないのだろうか？」などとオロオロするのです。

意を決して「○○ではないでしょうか」と告げると、「ああ、やっぱり○○ですか」と晴れ晴れとした笑顔を返され、私もホッとします。

自然から学び、当然に親しむ楽しさを多くの人たちに伝えたい、そんな思いは人一倍なのですが、その実力となると「なお道遠し」と言わなければなりません。

新ハイの例会においても、6月から数回、自然観察山行を実施して、植物の名前などを皆さんに伝えたり、終了後は、植物等のリストを作成し、希望される方に郵送したりしてきました。お送りしたリストに疑問点などありましたら、どしどしご指摘いただきたいと存じます。（鷲見　守勝）

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村八方和田野
電　0261-72-5551

登山歴20年のオーナーが宿泊～計の木曽、雨飾山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付5,500円から
〒399-93　長野県北安曇郡白馬村和田野
電　0261-72-3151

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新築増築元祐企画室
木の香りう新浴室露生木温泉
オーレン小屋
1泊2食付き　6,000円
4月末～11月末開設
〒391-02　長野市豊野27220　小平の男天
電　0266-72-1279

北八ヶ岳の登山基地　冬にはスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
資料は別途
プチホテル　カナール
〒391-03　長野市北山資料館往復五平
13の1
電　0266-67-2258

岳の歌

霧深く岩踏見失ひビバーグの
登標をせしがそこに山小屋
ピッケルの柄に亜麻仁油塗りて
おり氷峰すでに踏めぬと悟り
つも
何平もないと知りつつ傍らに
鉈置いて眠る深山ひとり
渓流の音に異言の混ざり来て
こころざわめく深黒の山
夜の暗闇の死びら踏んでゆく
樹林抜ければ満天の星
台風の直下の深き暗川の
濁流の辺に夜を怯えおり
荷をまとめ急るものも来て風去
るを祈るがごとくテントにて
時す
台風の去りたるあとの山稜を
妻と歩めり他に人なし
カラカラと落石つづく音のして
青年ひとり人生終わる
「山頂ハ……快晴デース……」
と無線入る息絶え絶えのザイ
テングラード
喘ぎあえぎ登りいたれば雲海に
名だたる峰の島のごと眺ゆ
登り来るハイカーの彩点々と
槍も奥穂も一望にして
見放さればわが来し方の遥かな
りはるかなりしがまだ遥かな
り
これより上天よりほかに何も無
し自らを褒めビールを開けぬ
嶺々と朝日に輝く明神を
背景にして最後の写真
冬山はもう登らぬと誓ひしに
雪に神々指げくるもの
（堀内　錦治）

八月山行報告

3日　「やまと埴形区の会」例会Ⅲ△大天井、25名案内。夕立5～6日　伏見公民館親子キャンプ指導、大塔尾のくに、25名。乗鞍登山は大辻峠で雨に遮い引き返す。

7日　伏見公民館「大和の峠を歩く」小南峠（川戸～洞川）案内、36名。洞川温泉に入り戻る。

15日　「大和漫歩会」例会。赤目四十八滝～楢井峠～曽爾横輪案内。36名。

20日　「生駒さくら会」洞川散策案内、亜不動鍾乳洞地、9名。

21日　伏見公民館「平城京への道、政策」（奈良市田原～錦伏峠～護国神社）案内、41名。暑し。

24日　「点のつどい」例会、Ⅲ△東川（「新子」）案内。31名。

25日　「峠一番」（永谷～天辻峠～星のくに）28名案内。峠は涼しい。（上田　倖弘）

8月31日、鈴鹿・永源寺町の甲津畑の美、埃地蔵の近くでコダックのケースに入ったフィルムを拾いました。ソフASA400の24枚撮りで、樋向山の遠景・三井寺・豊満神社が写っており、杉峠での男性一人一人の記念撮影が最後でした。永源寺町の交番に届けておきましたので心あたりの人はお尋ねください。（山田　明男）

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」（百名山）の登山口
桜村ゲ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋荘八
1泊2食付　7,000円から
〒638-04
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07476-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-6-3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
相知渓谷　あさけ茶屋
〒510-12
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-2489

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・20行程度にお書きください。
新ハイキング図書編集室

山行計画

（11・12月）

新ハイキングクラブ理事

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者代表その他の資料代実費をいただくことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。

体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料（日額50円と救援対策費日額50円合計100円（複行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額	日額	1000万円
入院保険金	日額	5000円
通院保険金	日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6センチ以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号

（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL

（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

比良・奥ノ深谷から南比良峠（一般向き）

期日 11月2日(日) 日帰り

集合 京阪山町柳駅京都バスのりば8時

コース 山町柳駅（バス）坊村—牛コバ—大橡小屋—南比良峠—荒川峠—中谷出合—JR志賀駅（解散）

費用 約5000円（大阪から）

地図 昭文社＝「46比良山系」

係 ◎村田智俊

申込み 〒610—01城陽市寺田大畔10の10 村田まで

比良の紅葉を愛でながら人の少ない峠越えの道を歩きます。小雨決行

鈴鹿を歩く37

雨乞岳・清水ノ頭（健脚向き）

期日 11月2日(日) 日帰り

集合 477号線白倉谷林道入口8時30分

コース 白倉谷林道入口（車）大統三谷入口—西尾根—P966m—南海乞岳—南海乞岳—清水ノ頭—白倉谷林道—477号線林道入口（解散）

費用 交通費各自

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は締切が決まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向）やさしいコース

（初級向）どなたでも歩けます

（一般向）ハイキングの標準コース

（中級向）かなり経験者のコース

（やや健脚向）（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

地図 昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

係 ◎宮野 明 ○山本久雄

申込み 〒610—01城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

＊マイカー山行

ブナ林の奥尾根から雨乞岳に登る

奥三河・鳳来寺山（一般向き）

期日 11月2日(日) 日帰り

集合 JR名古屋駅中央改札口7時10分（7時22分発に乗車）

コース 名古屋駅（電車）豊橋駅（電車）本長篠駅（バス）鳳来寺バス停—本堂—鳳来寺山—大嶽岩—東照宮—三河大野駅（電車）豊橋駅（17時10分頃解散）

費用 約5000円（名古屋駅から交通費）

地図 2万5千＝三河大野

係 ◎小山良春

申込み 〒448刈谷市一里山町一里山59の3 小出まで

杉木立の中、1425段の石の参道から山岳仏教の修験道をめぐり、東海自然歩道を三河大野駅まで歩く。雨天中止

自然観察山行6

越天・冠山（一般向き）

期日 11月3日(祝) 日帰り

集合 播磨総合庁舎駐車場（国道303号線沿播磨町）9時

コース 播磨総合庁舎（車）冠山峠—冠山（往復コース）

費用 交通費各自（マイカー分乗はガソリン代頭割り）

地図 2万5千＝冠山

係 ◎鷲見孝康

申込み 〒504岐阜県各務原市蘇原杜南町1の19の5 鷲見まで

＊マイカー山行

奥美濃のジャンダルムと称される名峰の紅葉を探訪します。山頂は360度の展望台。マイカーでなくても8時30分までにJR大垣駅に集合できる方や前日泊で参加希望の方は係（☎0583—83—3978）まで相談ください。雨天中止

若狭・野坂岳（一般向き）

期日 11月3日(日) 日帰り

集合 JR京都駅南西線近江今津行き7時06分発に乗車

コース 京都駅（電車）近江今津駅（電車）敦賀駅（電車）粟野駅—野坂いこいの森—野坂岳—美保の浦—粟野駅（電車）敦賀駅（電車）長浜駅（電車）京都大阪へ（19時頃）

費用 約5000円（交通費）

地図 2万5千＝敦賀

係 ◎峯崎弘子

申込み 〒610—01城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

定員30名（会員に限る）

敦賀富士と呼ばれる若狭の名山に登ります。小雨決行

京都北山歩き56

電王岳・笠置ヶ岳（一般向き）

期日 11月11日(日) 日帰り

集合 叡電出町柳駅9時

コース 出町柳駅（電車）貴船口駅—電王岳—笠置ヶ岳—笠置駅—原—笠置ヶ岳—笠置駅—叡電岩倉駅（解散15時30分頃）

費用 約1000円（京都から）

地図 昭文社＝「47京都北山1」

係 ◎今西光男

申込み 〒610—01城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

紅葉の美しい北山の里山をのんびり歩きます。雨天中止

平日木曜ハイク36

廣河八丁から品谷山（中級向き）

期日 11月10日(木) 日帰り

集合 京都地下鉄北大路駅③出入口東（堀内薬局の前）

コース 京都バスのりば7時40分北大路駅（バス）菅原町—ダンノ峠—荒谷山—南面の谷を経て四郎五郎峠—菅原橋（バス）北大路駅（解散）

費用 約3000円（バス代）

地図 昭文社＝「48京都北山2」

係 ◎前中 毅 ○藤田光彦

申込み 〒610—01城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

秘境めぐり荒谷から旧八丁村、さらに北山の奥深く品谷山まで歩をのばします。回下山ルートの南

面無名谷は急坂です。雨天中止

鈴鹿を歩く38
南尾根のブナの太平から綿向山
（健脚向き）
期　日　11月16日(日)　日帰り
集　合　477号線白倉谷林道入口3時30分
コース　白倉谷林道（車）大菊ヶ谷林道―綿向山南尾根―P992.4―ブナの太平―綿向山―P992.4―P815.4―大菊ヶ谷林道（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社「45御在所・鈴ヶ岳」
係　◎名野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
全然知られていない秘境のブナの太平から綿向山に登る（27号・51ページ参照）。雨天中止

京都北山歩き59
八ヶ峰　（一般向き）
期　日　11月16日(日)　日帰り
集　合　京都駅八条西口近鉄改札前7時30分
コース　京都駅（バス）八瀬―知井坂峠―八ヶ峰―五波谷林道―五波谷峠―田歌（バス）京都駅（解散時頃）
費　用　約3000円（バス代）
地　図　昭文社「48京都北山2」
係　◎中西信行
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
若丹国境尾根の八ヶ峰周辺を歩きます。稜線は歩きやすく展望も良い。小雨決行

伊勢・牛草山　（一般向き）
期　日　11月16日(日)　日帰り
集　合　近鉄名古屋駅北口7時（7時11分発に乗車）または近鉄伊勢市駅9時
コース　名古屋駅（電車）伊勢市駅（バス）日馬バス停―水谷―ただ洞峠―日向浅間山―牛草山―牛草辻―五里山猪バス停（バス）伊勢市駅（解散）
費　用　約5000円（名古屋駅から交通費）
地　図　2万5千＝五ヶ所浦・鵜山
係　◎小出良春
申込み　〒448刈谷市一里山町一里山59の3　小出まで
牛草山と名はやさしいが意外と登山道は整備されていません。2等三角点のある山頂からは五ヶ所湾が眺められます。申し込みハガキに集合駅を明記のこと。雨天中止

地図読み山行25
東海自然歩道を歩く（3回）
ポンポン山から金蔵寺
（一般向き）
（新ハイク関西支部合同）
期　日　11月16日(日)　日帰り
集　合　JR高槻駅北口バスのりば7時45分
コース　JR高槻駅北口（バス）上ノ口―神峰山寺―本山寺―ポンポン山―杉谷―金蔵寺―南春日町（バス）阪急茨木市駅（解散）
費　用　約1500円（大阪から）2万5千＝高槻・茨木
地　図　2万5千＝高槻・茨木
係　◎塚本一彦　○中村　登
申込み　〒536大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元まで
定員30名（10月31日まで）

地図読み東海自然歩道シリーズパート3はポンポン山コースを歩いて地形図の読み方とコンパスの使い方を学習します。シルバーⅢ型コンパスと指定の地形図を持参すること。雨天中止

ハイキング入門10
北摂・天台山　（初心者のための）
期　日　11月16日(日)　日帰り
集　合　阪急宝塚線池田駅阪急バスのりば（牧・金野・妙見山上行き）8時50分
コース　池田駅（バス）中止々呂美―天台山―能勢電鉄妙見口駅（解散）
費　用　資料代実費（交通費含む）
地　図　不要（資料に含まれています）
係　◎西沢広二　○湯浅次男
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）
これから山歩きを始める人のための野外講座です。山歩きの基礎をお教えします。筆記用具・磁石持参のこと。雨天中止

平日ふれあいハイク5
北山・二ノ瀬ユリから魚谷山
（一般向き）
期　日　11月18日(水)　日帰り
集　合　阪急出町柳駅7時45分出町柳駅（電車）二ノ瀬駅―二ノ瀬ユリ―滝谷峠―柳谷峠―魚谷山―魚谷峠―鞍谷林道―岩屋橋（バス）出町柳駅（解散18時頃）
費　用　約2000円（交通費）
地　図　昭文社「47京都北山1」
係　◎川上太堅
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
北山では古くから知られていた道で、峠を越えて歩きます。雨天中止

一足早い忘年会
福知渓谷と碁峰高原・暁晴山
（一般向き）
期　日　11月23日(祝)～24日(振休)
集　合　〈23日〉神姫バス福知駅バスターミナル（JR姫路駅中央出口北側）9時40分
コース　〈23日〉福知駅（バス）伊和神社―一ッ山―（バス）福知渓谷休憩センター（泊）
〈24日〉休憩センター―碁峰高原―峰山高原―暁晴山―峰山観探センター（バス）JR寺前駅（解散）
費　用　約12000円（バス代・宿泊代等）
地　図　5万＝山崎・生野
係　◎須磨陸　哲
申込み　〒887―11―15姫路市余部区上余部50の2の11　須磨岡まで
定員40名
紅葉の渓谷の紅葉とススキの高原を歩き、今年の想い出をにぎやかに語り合いませんか。雨天決行

兵庫の名峰・笠形山（中級向き）
期　日　11月30日(日)　日帰り
集　合　JR西明石駅新幹線出口8時25分（大阪駅7時21分発快速が便利）
コース　西明石駅（バス）大蔵―尊・滝―笠形山―秘名の滝―グリーンエコー笠形（バス）西明石駅
費　用　約4500円（大阪から）
地　図　2万5千＝藤賀町
係　◎井上　保
申込み　〒674明石市大久保町高丘3の1・20の104　井上まで
定員28名
別名「播州富士」ともいわれ、山頂からの眺めは北は氷ノ山から南は瀬ヶ城山、神鍋羽山まで望めます。雨天の場合はフラワーセンターと西国三十三番札所一乗寺となります。雨天決行

平日水曜ハイク12
京都西山・金蔵寺から
ポンポン山・神峰山寺
（一般向き）
期　日　12月3日(水)　日帰り
集　合　阪急京都線京阪日町駅8時（8時11分発南春日町行きバスに乗車）
コース　東向日町駅（バス）南春日町―大字塚道―金蔵寺―杉谷―パノラマコース―ポンポン山―本山寺―旧本山寺跡―神峰山寺―初恋山口（バス）JR高槻駅北口（解散）
費　用　約1200円（大阪から）
地　図　昭文社「49京都西山」
係　◎湯浅次男　○岡田　昇
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
京都西山から眺望にかけて三寺を訪ねます。尼根に紅葉が美しい。杉谷からは展望のよいパノラマコースです。下山後懇親会（会費約4000円）を企画しています。参加は自由。申し込みハガキに「忘年会参加」とご記入ください。小雨決行

平日木曜ハイク37
夜泣峠から貴船山
（一般向き）
期　日　12月4日(木)　日帰り
集　合　阪急出町柳駅8時30分出町柳駅（電車）二ノ瀬駅―夜泣峠―二ノ瀬ユリ―樹ノ水峠（貴船山北麓）―真谷林道―滝谷峠―二ノ瀬ユリ屋敷跡―貴船口駅（電車）出町柳駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社「47京都北山1」
係　◎須田　敏　○藤田光彦
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

伝説の地夜泣峠から滋賀県穴太の二ノ瀬ユリを散策し、貴船山を訪ねます。雨天中止

週末ハイク4
北山・高雄から愛宕山
（一般向き）

期　日　12月6日(土)　日帰り
集　合　JR京都駅中央改札口8時15分
コース　京都駅（バス）山城常雄—神護寺—高雄地蔵—愛宕神社—愛宕ヶ岳—月輪寺—油滝（解散）
費　用　約1000円（京都駅から）
地　図　昭文社＝「47都道府県北山1」
係　◎谷野東彦
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
観光客の喧騒も静まった初冬の洛北の山をゆっくり歩きます。小雨決行

鈴鹿・旗山　（一般向き）

期　日　12月7日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口7時10分（7時29分発に乗車）、またはJR関西線柘植駅9時30分
コース　柘植駅—登山口—鉄塔—耶山山頂—ソロ峠—林道—柘植駅（15時頃解散）
費　用　約3000円（名古屋駅から交通費）
地　図　2万5千＝鈴鹿峠・甲賀
係　◎小出豊春
申込み　〒448 刈谷市一里山町一里山59の3　小出まで
南鈴鹿の尻っぽにあたるこの山の良さは旗山からソロ峠間のササの海を泳ぐところです。申し込み小雨決行

湖北・山本山歩道縦走
余呉湖・賤ヶ岳から山本山
（一般向き）

期　日　12月7日(日)　日帰り
集　合　JR北陸本線余呉駅9時（大阪駅発5時35分・京都駅発7時12分長浜行きが便利）
コース　余呉湖—大岩山—賤ヶ岳—山本山—山本（バス）長浜駅（解散）
費　用　約3000円（大阪から）
地　図　2万5千＝木之本・竹生島
係　◎村田智俊
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで
余呉湖や琵琶湖を見下ろしながらの自然歩道を歩きます（約13キロ・5時間）。小雨決行

三重の山35
鈴鹿・三池岳　（一般向き）

期　日　12月7日(日)　日帰り
集　合　近鉄湯の山温泉駅前8時
コース　湯の山温泉駅（車）田光—池岳—切畑—八風峠—三池岳—お初池—切畑（車）湯の山温泉駅（解散）
費　用　1500円（交通費各自）
地　図　昭文社—「45御在所・鎌ヶ岳」
係　◎尾崎英五　○稲垣進夫
申込み　〒519—03 鈴鹿市大久保町2065　稲垣まで
八風峠から三池岳へ。くだりにお初池を見ます。雨天決行

鈴鹿を歩く39
イブキ・イワス・比婆山
（やや健脚向き）

期　日　12月7日(日)　日帰り
集　合　河内線終点広場9時
コース　河内線終点広場—後谷—イブキ—イワス—比婆山—比婆神社（往復コース）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「44養山・伊吹・鷹原」
係　◎谷野　明　○山本久雄
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
イワス（京石山）からのすばらしい眺望。そして古代のロマンが漂う比婆山と比婆神社をのんびり歩きます（36号・42ページ参照）雨天中止

自然観察山行7
巨椋・山星山と物見山
（初級向き）

期　日　12月13日(土)～14日(日)　1泊2日
集　合　（13日）JR中央線定光寺駅11時
コース　（13日）定光寺駅—山星山—愛知県労働者研修センター（泊）（14日）研修センター（車）定光寺駅（電車）高蔵寺駅（徒歩）山口駅

—物見山—山口駅（電車）高蔵寺駅（解散）
＊13日夜は花と山のスライド映写会を行います。
費　用　約10000円（現地までの交通費は各自）
地　図　2万5千＝高蔵寺・瀬戸
係　◎鷲見守康
申込み　〒504 岐阜県各務原市蘇原村前町1の19の5　鷲見まで（11月末日まで）
原始林の原生的な定光寺自然休養林の山岳山を歩き、翌日は愛知万博会場予定地のすぐれた雑木林「海上（かいしょ）の森」の中の物見山を歩きます。雨天決行

忘年会山行
湖南アルプス
矢筈ヶ岳と太神山（一般向き）

期　日　12月14日(日)　日帰り
集　合　JR石山駅8時30分
コース　石山駅（バス）アルプス登山口—御仏河原分岐—御仏河原—矢筈ヶ岳—太神山—太神山木鶏—大石川キャンプ場（忘年会）—アルプス登山口（バス）石山駅（解散）
費　用　約5000円（交通費・忘年会費）
地　図　2万5千＝瀬田・初瀬
係　◎村田智俊　○中吉信行　○西出　宣　○吳比佐美
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで
恒例の河原キャンプ場でのやき肉パーティで忘年会をします。歩行3時間。小雨決行

ハイキング入門1
奈良・龍王山と初瀬山
（初心者のための）

期　日　12月14日(日)　日帰り
集　合　近鉄桜井駅奈良交通バスのりば（天理行き）8時30分
コース　桜井駅（バス）柳本—龍王山—初瀬山—初瀬—近鉄長谷寺駅（解散）
費　用　資料代実費（交通費各自）
地　図　不要（資料に含まれています）
係　◎西沢広二　○湯浅次男
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）
これから山歩きを始める人のための野外講座です。山歩きの基礎をお教えします。筆記用具・磁石持参のこと。雨天中止

京都北山歩き60
横川中堂・日吉神社
（一般向き）

期　日　12月16日(火)　日帰り
集　合　叡電出町柳駅9時
コース　出町柳（電車）八瀬—釈迦堂—玉体形—横川中堂—三千院—八王子神社—日吉神社—京阪坂本駅（解散16時頃）
費　用　約1000円（交通費）
地　図　昭文社＝「47京都北山1」
係　◎今西光男
申込み　〒610—01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
比叡山を八瀬から歩いて登り、横川から坂本まで歩きます。雨天中止

紀泉・ボンデン山から三峰山
（一般向き）

期　日　12月21日(日)　日帰り
集　合　南海本線樽井駅バスのり場8時40分（難波駅発7時50分急行で、泉佐野駅にて各停にのりかえ）
コース　樽井駅（バス）つづら畑—高畑—ババタワー—ボンデン山—ササ峠分岐—城ヶ峰—三峰山—神通バス停（解散・バス）JR熊取駅
費　用　約2500円（南海難波駅起点交通費）
地　図　昭文社＝「54紀泉高原」
係　◎関村誠治
申込み　〒648 橋本市城山台2丁目39の7　関村まで
定員25名（会員に限る）
府県境の主稜線で、落ち葉が敷き敷くプロムナードを歩きます。小雨決行

鈴鹿を歩く40
八ツ尾山・高取山（一般向き）

期　日　12月21日(日)　日帰り
集　合　大上川登山線・大流神社広場8時30分
コース　大流神社広場（車）高取山林道—高取山—八ツ尾山—林道—観音寺坂—林道—高取山ふれあい公園（昼食・解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「44養山・伊吹・鷹原」

係　◎吉野　明　○山本久雄
申込み　〒610－01城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
パノラマコースの高取山から八ツ尾山の尾根を歩き「高取山ふれあい公園」で昼食年会をします（34号・48ページ参照）。雨天中止

期日　12月21日(日)　日帰り
集合　JR学研都市線倉谷川駅10時20分
コース　倉谷川駅―飯道寺―飯道山―飯道神社―宮町―業香宮跡―信楽高原鉄道雲井駅（電車）倉谷川駅（解散）
費用　約3000円（京都から）
地図　2万5千＝水口・三雲・信楽
係　◎村田智俊　○吉井裕美
申込み　〒610－01城陽市寺田大峠10の10　村田まで
昔の山岳信仰をしのびながら飯道寺より登ります。飯道神社の行場コースは今回パスします。
小雨決行

初冬の風にふかれて忘年山行
鈴鹿・入道雲根から入道ヶ岳（中級向き）

期日　12月23日(祝)　日帰り
集合　桜大社駐車場9時（近鉄四日市駅前8時10分発バスが便利）
コース　桜大社―小岐須山の家―中尾根―入道ヶ岳―北尾根―桜大社（解散見時）
費用　交通費各自
地図　5万＝鈴山
係　◎内井克治　○木村言弥
申込み　〒610－01城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで
例年この時期になると鈴鹿にも雪が降る。初雪山行になるとよいですね。申し込みハガキに集合地までの交通手段を明記のこと。
雨天中止

○「文学歴史散歩」は係・松永さんの都合が悪く、11・12月の例会はお休みします。

新ハイ特別企画

オーストラリア
トレッキングツアー
（一般向き）

期日　2月14日(土)～20日(日)
6泊7日
コース　成田（機内泊）シドニー＝クーマ＝スレドボ（2泊）＝クーマ＝ローンセスト＝グレイドマウンテン（2泊）＝ローンセスト＝シドニー（機内泊）成田
費用　約39万8千円（予価）
申込み　〒330大宮市宮原町4の87の1
（係）高柳生雄まで
＊11月30日までに
クスマニアのフェイストラック・オーバーランドトラックは世界各国の人に人気のあるコースで、グレイトマウンテンロッジはなかなか宿泊できない宿です。オーストラリアの最高峰コジオスクとブルーマウンテンに登ります（全員事付き）。

山行報告
（7・8月）
新ハイキングクラブ関西

大峰・弥山と八経ヶ岳

7月5日(土)～6日(日)　1泊2日
（5日　晴れ）近鉄大和上市駅9・30（タクシー）行者道トンネル西口10・45～11・15―玻璃維走路出合12・20（昼食）13・10―聖宝宿13・50～14・00―弥山15・00～15―八経ヶ岳15・45～16・00―弥山16・20（弥山小屋泊）
（6日　晴れ）弥山6・30―聖宝宿7・00～10―行者道トンネル西口下山道分岐7・50～8・00―ノタクワ8・20―行者道小屋9・30―七曜岳10・55―国見岳11・25―稚児宿11・30（昼食）12・15―岩茸岳13・20～30―小普賢岳14・10―石の鼻14・30―笙ノ窟14・50―和佐又ヒュッテ15・40～16・15（タクシー）大和上市駅17・30（解散）
さわやかな風と大展望の大峰を楽しんだ。お目当てのオオヤマレンゲも咲いていた。大普賢岳から

のくたびれは疲労だった。
（参加者）今西光男　近藤　恭　奥井宰生　明神成行　佐古田文子　芙村三枝　眞田久子　熊木美恵子　溪板　豊　深阪昌子　加藤元彦　佐賀栄一　熊木秀雄　安田六兵衛　熊木秀雄　呉比裕美　瀬里静香　古部信義　谷　久雄　三木英子　上田政子　石武信子　寺井恒夫　近江秀子　木村利忠　北野幹士　大隈和洋　三野　旭　○村野東蔭　◎村田智俊　（計30名）

金剛山・坊領岳報

（ハイキング入門5）

7月6日(日)　晴れ
河内長野駅9・00（バス）登山口9・25―タカハタ谷―金剛山社務所12・10―セト13・00―坊領山―上荒滝深谷跡―上荒阪15・28～38（バス）富田林駅15・58（解散）
理想の日であったが、林間コースのため過ごしやすかった。ただリーダーのミスによりコースどりを誤り、目標とした上荒阪滝跡に行けず上東滝におりた。リーダーはその事実を厳粛に受けとめ富田林での反省会にて陳謝した。
（参加者）堅田幹夫　大森渉子　田中直美　山本　知　鳥羽吉合子　佐藤恭子　北方清重　石丸雪太郎　石丸宏子　藤岡美喜子　○渡辺洋男　◎西沢広一（計12名）

比良・堂満岳から奥の深谷

（平日ふれあいハイク3）

7月8日(水)　◎川上友堅
雨天のため中止しました。

生駒山から高安山

（文学歴史散歩37）

7月13日(水)　◎松永恵一
雨天のため中止しました。

中央アルプス・木曽駒ヶ岳

7月19日(土)～20日(日)　1泊2日
（19日　晴れ）JR大津駅8・30（バス）しらび平13・00（ロープウェイ）千畳敷15・30―天狗山荘16・40（夕食後）宝剣山頂往復―天狗山荘18・00（泊）
（20日　晴れ）天狗山荘6・10―中岳―木曽駒ヶ岳7・00～15―濃ヶ池8・30～50―西駒山荘9・40～55―大樺小屋11・40―桂木場13・00―小黒キャンプ場13・20（バス）羽広荘（入浴・昼食）16・40（バス）大津駅20・00（解散）
2日共上天気で、黄昏の宝剣山頂よりの雲海とブロッケン現象。八ヶ岳からの御来光。右に富士山・南アルプス・八ヶ岳・武尊山。左に北アルプス・御嶽を望む岩上ハイク。足元に咲き乱れる高山植物。何ひとつとして不足のないすばらしい山行だった。
（参加者）近藤　恭　横井　徹　横井英子　岡　倍弘　岡　菊江　吉越　清　平藤英子　眞田久子　荻野東彦　堀見瑞子　野口　修　芙村三枝　森繁勇吾子　今村　貞　高松粧子　安田六兵衛　斎藤　隆　斎藤妙子　安田文夫江　中田茂子　布施清美　御田行子　細井智子　熊木秀雄　飯島稔子　向田　豊　前田孝一　草野智雅子　日高史緒　山高雅治　山高多恵子　近藤英夫　下村啓子　田中まや子　坂谷益司　桑名和子　○安倉正藤　◎桑原弘子　（計39名）

北アルプス
薬師岳から五色ヶ原

（自然観察山行2）

7月19日(土)～22日(水)　3泊4日
（19日　晴れのち時々曇り）富山地方鉄道有峰口駅6・15（バス）折立7・25～45―1,576・6m―三角点9・30～45―2,156m ピーク11・15（昼食）12・15―太郎平小屋13・00（泊）
（20日　晴れのち時々曇り）太郎平小屋6・00―薬師平7・00―薬師岳9・00～30―北薬師岳10・30（昼食）11・15―スゴ乗越小屋14・00（泊）
（21日　晴れのち時々曇り）スゴ乗越小屋6・30―スゴ乗越7・00―スゴノ頭8・00～10―越中沢岳9・40～10・00―越中沢乗越10・40（昼食）11・20―高山12・30―五色ヶ原山荘13・20（泊）
（22日　晴れのち時々曇り）五色ヶ原山荘6・00―ザラ峠6・30―鞍ヶ岳7・45～8・00―鬼岳東面8・40～9・00―立山一ノ越乗越10・20（解散）
北アルプス一の巨峰薬師岳を一日がかりで越え、立山へのロングコースを頑張って歩き通しました。開花していた草木は92種でした。
（参加者）石田哲二　尾上大輔　恩田吉雄　加藤元彦　金森勢子　吉岐孝次　田中博子　谷　久雄　永田博夫　夏山春子　豊田吉理子　三浦弘幸　三井益一　森川信之　○奥井宰生　◎鷲見守東（計16名）

修験業山・栗ノ木岳

（三重の山34）

小黒13・00（泊）
（20日　晴れのち時々曇り）太郎平小屋6・00―薬師平7・00―薬師岳9・00～30―北薬師岳10・30（昼食）11・15―スゴ乗越小屋14・00（泊）
（21日　晴れのち時々曇り）太郎平小屋6・00―薬師平7・00―薬師岳9・00～30―北薬師岳10・30（昼食）11・15―スゴ乗越小屋14・00（泊）
（22日　晴れのち時々曇り）スゴ乗越小屋6・30―スゴノ頭8・00～10―越中沢岳9・40～10・00―越中沢乗越10・40（昼食）11・20―高山12・30―五色ヶ原山荘13・20（泊）
（23日　晴れのち時々曇り）五色ヶ原山荘6・00―ザラ峠6・30―鞍ヶ岳7・45～8・00―鬼岳東面8・40～9・00―立山一ノ越乗越10・20（解散）
北アルプス一の巨峰薬師岳を一日がかりで越え、立山へのロングコースを頑張って歩き通しました。開花していた草木は92種でした。
（参加者）石田哲二　尾上大輔　恩田吉雄　加藤元彦　金森勢子　吉岐孝次　田中博子　谷　久雄　永田博夫　夏山春子　豊田吉理子　三浦弘幸　三井益一　森川信之　○奥井宰生　◎鷲見守東（計16名）

7月20日(日) 晴れ
JR伊勢奥津駅9・45(集合・出)
川上村宮ノ脇10・00—不動社10・15—小尾根—志賀線・栗ノ木岳へ
の分岐11・55—栗ノ木岳への分岐12・45
25〜25—栗ノ木岳への分岐12・45
(昼食) 13・30—栗ノ木岳14・00
〜10—若宮峰14・40〜45—若宮八
幡15・15(解散)
暑い日。急登、急峰のきつい道。
でも水量豊かな谷がかなり上まで
あり、なかなかのコース。登りの
シャクナゲの群落は見事。栗ノ木
岳頂上は展望良。また栗ノ木岳か
ら矢宮峰へのくだり道から望む冠
ヶ岳の姿もすばらしかった。
(参加者)平 敏一 平 幸子
山口敏明 橋本和彦 増田和洋
伊藤則男 前川久枝 藤井みつゑ
宮崎正人 北川 明 ○福田逸夫
◎尾崎英生 (計12名)

須谷川 (鈴鹿を歩く32)
7月20日(日) 晴れ
ひろせ酒店前9・10—須谷川入口
9・20—岩ノ洞門11・30(昼食)
13・00—須谷川源流登山道14・30
—銚子ヶ口登山口15・55—ひろせ
酒店前16・10(解散)
深山渓谷の渓流はヒグラシの大
合唱、ほとばしる流のシャワーを
浴びて薄暗い「岩ノ洞門」を登る。
ちょっとしていると寒いくらいで、
たき火で暖をとりながら昼食。30
度以上の下界の暑さをしばし忘れ
て涼しい沢歩きを堪能した。
(参加者)多賀岡二 多賀久子
山田辰三 鈴木 誠 鳳凰宏美
○山本久雄 ◎宮野 明 (計7名)

白滝出合から広沢出合 (鈴鹿の渓流に遊ぶ1)
7月21日(振休) 晴れ
朝明駐車場8・00—ハト峰峠8・
45—白滝谷出合10・00〜30—天狗
庵下11・30(昼食) 12・40—天狗
の瀬壺13・20—滝ノ洞13・40—七
丈ノ釜14・00〜20—広沢出合14・
40〜15・50—ハト峠峠16・30—朝
明駐車場17・10(解散)
ちょっと暑さが足りないかな。
神崎渓谷は多少多めの水量だった
が、泳ぎへつり、飛び込み遊び、
食べて飲んで、昼寝して、水に遊
んでもらった一日でした。
(参加者)中村正吾 小田妙子
中村健次 金原時男 神原計国
今岡民代 ○木村吉秀
◎岡井克治 (計8名)

三ノ谷から雲取山 (未踏ハイク32)
7月24日(水) 晴れ
北大路駅9・30(バス)花背高原
10・25〜35—寺山峠11・05〜20—
二ノ谷出合11・50(昼食) 12・30
—三ノ谷を経て雲取山13・15〜40
—雲取峠を経て寺山峠下の水場14・
30〜45—花背高原15・10〜25(バ
ス)北大路駅16・25(解散)
行程の大半が木陰と水辺を歩く
夏向きコースで、暑さ知らずのさ
わやかさで快適だった。
(参加者)石原君子 堅田美奈子
芝野康明 本田雪子 安田六兵衛
高岡信男 吉岡亜枝 氷見真砂子
加藤道和 高木 晋 成川みさお
藤井益子 木村正弘 木村千代子
加藤佳彦 松山みつ 右近八栄子
中島和弘 川上久聖 伊藤みはる
藤本三郎 瀧尾健治 生坂はるみ
堅田舞夫 渕田 京 井上忠祥子
風見均子 宮坂敏彦 佐々木直子
坂月清幸 中塚吉五郎
○西上利和 ○氷見岡二
○藤田光彦 ◎前中 敏 (計25名)

八ヶ峰 (京都北山歩き54)
7月27日(日) ◎中西信行
台風の接近で中止しました。

比良・權現山から蓬莱山
8月3日(日) 晴れ
出町柳駅8・00(バス)平8・45
—林道登山口9・00〜10—アラキ
峠9・40〜50—權現山10・20〜25
—ホッケ山11・00—小女郎池11・
30(昼食) 12・30—蓬莱山13・00
〜10(リフト)滝平13・30—打見
キャンプ場13・40〜55—木戸峠14・
00—クロトノハゲ14・15〜30—天
狗杉15・00—JR志賀駅16・30
(解散)
風の少ない暑い日だった。何度
も休みながら歩いたが、大汗をか
いて重い体がスッキリした。琵琶
湖はかすんでいた。
(参加者)三井紘一 安田六兵衛
前田栄二 堅田美奈子
本間俊次 川中 保 橋本喜二郎
大橋元治 徳永英雄 福井清之
前田政雄 入江武史 岩本いすゞ
辻河幸裕 中川光郎 吉田誠宏
宮内季吾 加藤元彦 秋田精郎
中坊智代 高橋峰子 松本春代
乙咲誠雄 泰島 清 森島紀美代
呉北裕美 下村啓子 山本 啓
西川友造 小林 昇 内木良子
藤本千代 高橋勝子 井林寿奈子
隣 慕子 岡田登美 速水 保
高木忠夫 山高義治 山高多恵子

堀田正昭 井川敏一 井川恵子
田中喜美江 ○則定泰夫
◎村田智愛 (計47名)

北アルプス
双六岳から笠ヶ岳
(自然観察山行3)
8月3日30〜31日30 2泊3日
(3日 晴れ時々曇り)新穂高バ
スターミナル5・00(集合) 5・
15—ワサビ平小屋6・35(朝食)
7・00—鏡平分岐点9・40〜55—
鏡平小屋11・00(昼食) 11・45—
弓折岳12・45—双六小屋14・10
(泊)
(4日 曇り時々晴れ)双六小屋
5・50—双六岳6・15〜45—双六
小屋7・45〜8・00—大ノマ乗越
9・45—千丈平11・10(昼食) 11・
45—笠新道分岐13・35—笠ヶ岳山
荘14・20〜35—笠ヶ岳14・45〜15・
00—笠ヶ岳山荘15・15(泊)
(5日 雨)笠ヶ岳山荘5・30—
笠新道分岐6・20—杓子平7・15
—笠新道分岐6・20—杓子平7・
15—笠新道登山口10・00(解散)
雲の多い天候で笠ヶ岳は最後ま
で姿をあらわしませんでしたが、槍の西鎖
尾根・北鎖尾根や三俣蓮華・双六
などの雄姿、森林限界を超えたの
びやかな稜線、カールなどの氷河
地形、そして華やかな高山植物等、
アルプスの夏を満喫しました。開
花していた草木は38種でした。
(参加者)稲本芳雄 岡崎幸三
奥田真雄 奥村誠治 奥野太一郎
風見均子 高木繁夫 田中禮子
谷 久男 中村 清 豊田真理子
藤井益子 三浦弘幸 明神成行
横井 徹 横井泰子 吉岡亜枝
○長井幸生 ◎鷲見守康 (計19名)

白山と三方岩岳
8月13日(水夜)〜16日(土)
3泊(平中1泊) 4日
(13日 晴れ)京都駅八条口22・
00発(バス・名神大垣インター〜
21号線〜東海北陸道経由)
(14日 晴れ)白水ダム大白川登
山口5・00(朝食) 6・10—大倉
山9・00—山頂直下水場の手前広
場11・00(昼食) 11・45—室堂セ
ンター—12・10〜25—御前峰12・
50—池めぐり—室堂センター—14・
30〜45—展望歩道コース入口14・
55—展望台15・20〜25—薬師ヶ原
場・雨量山荘16・10(泊)
(15日 晴れ)南竜山荘7・10—
エコーラインコース展望上部場7・
40〜50—観光新道分岐8・10〜20
—室堂センター8・40〜50—大汝
峰10・00〜10—七倉ヶ辻10・50〜
11・00—清浄ヶ原11・45(昼食)
12・25—小桜谷 避難小屋13・20〜
30—(楽々新道)—林道16・45—
新穂高温泉山荘旅館17・10(泊)
(16日 晴れ)山菊旅館7・40
(バス)ふくべ滝8・15〜30(バ
ス)三方岩岳駐車場8・45〜50—
三方岩岳9・25〜40—三方岩岳駐
車場10・10〜20(バス)白川郷合
掌村11・00(昼食・見学) 13・00
(バス)JR高山駅19・00(解散)
白山の夏山を思いきり楽しんだ。
花を愛で、涼しく山歩を展望し、
最後は温泉でしめくくった。楽々
新道はぬかるんで、所どころ滑り
ながらくだったが、急坂も少なく
楽な下山道といえる。
(参加者)三浦弘幸 近藤 恭
小林 桂 森川信之 湯浅次男
深坂 寛 深坂昌子 安田文美江
三井紘一 小林 稔 井林麦奈子
狩野東彦 沖 伸 横田昌蔵
呉北裕美 渡辺達郎 中川光郎
田中禮子 櫻早康一 安田六兵衛
大平 剛 大平敬子 森 美香子
富岡廉子 ○加藤元彦
◎村田智愛 (計26名)

広沢出合から谷尻谷遡行 (鈴鹿の渓流に遊ぶ2)
8月17日(日) 晴れ
朝明駐車場7・10—神崎川広沢出
合8・40—七丈淵9・00〜25—天
狗滝落口9・45—谷尻谷入渓10・
00—樹林下10・30(昼食) 11・30
—コリカキ場12・30〜13・00—お
金ノ塔13・30—神崎川14・00—大
滝15・00—中峠15・40—朝明駐車
場16・40〜17・30(解散)
オホーツクからの涼しい風と青
空は秋の雰囲気だった。神崎川をくだ
り、七丈淵の清流の誘惑にも負け
ず谷尻谷に入渓。滝と淵の魅惑に
滝のシャワーを浴びた。コリカキ
場で頑張を払い、天狗さんに参拝。
ふたたび神崎川上ノ原下に遊んで
名残りを惜みつつ帰途についた。
駐車場で満月を待ちながらミーティ
ングした。
(参加者)秋原智史 小田妙子
永戸鉄治 神原計国 ○中村健次
◎岡井克治 (計6名)

足尾谷から八丁平湿原
(京都北山歩き55)
8月24日(日) 晴れ
出町柳駅8・10(バス)下坂下バ
ス停9・00—足尾谷口9・20〜35

ーツボクリ谷分岐10・15—クサリ場10・50～11・30—奥穂11・50（昼食）12・45—ノノ谷林道13・10—フジ谷岳入口13・20～25—フジ谷岳13・50～14・00—八丁平湿原中村分岐14・20～30—伊賀谷林道終点15・15～30—中村坂元分岐16・00～10（バス）出町柳駅17・10（解散）

上高谷渓流のガレ場通過に手間どったが、清らかな渓流はいつ来ても心が洗う。フノ谷越えはフジ谷岳えに切換し、八丁平湿原の一周遊歩道もカットしてやっと予定の時間に中村にくだった。残暑の厳しい日だった。

（参加者）三井誠一　馬場宏男　石田俊英　小山晴美　入江武史　上田正子　古部信雄　生坂はるみ　本間敏次　柳水英雄　前田政雄　加藤光彦　堀　久子　井林寿美子　大瀬和洋　中村英雄　内田陽子　巻田　晃　吉植　清　吉植ミチコ　中坊智代　大橋完造　千葉千枝子　狩野東彦　森島　満　森島紀美代　堀越武敏　城月満幸　新甲敏春　秋田楠郎　森脇真義　岡明二三男　奥野雅子　高橋東治　高橋由紀子　下村啓子　山本　啓　西川友造　出田和代　杉村安代　中垣吉五郎　美河孝治　宮坂敏彦　岡田春美　三野　旭　青木一雄　砂原恵美子

○宮比裕美　○中西信行

◎村田智俊　（計50名）

元越谷

8月24日(日)　晴れ

元越谷林道分岐8・40—元越谷分岐8・50—大滝9・40—仏谷分岐10・05—仏谷三俣分岐10・45—阪流11・30—大倉11・55（昼食）13・00—岩足谷林道14・00—元越谷林道15・30（解散）

花崗岩の明るい廊下にはブルーの水を満々とたたえた深い淵 そしてほとばしる流とナメ滝が延々と続いた。大岩で跳躍を楽しみながら昼食。稜線には秋風が吹き、すばらしい一日だった。

（参加者）山田基二　鈴木　庸　奥田真雄　山形　明　高村孟三郎　谷　久雄　寺井知夫　金綱時男　永吉鉄治　馬場宏美　小林　実

○山本久雄　◎岩野　明（計13名）

京都北山・十三石山

（ハイキング入門7）

8月24日(日)　晴れ

京都地下鉄北大路駅（タクシー）市の瀬—十三石山—滝樹峠—氷室—長坂峠—船山—西賀茂車庫（バス）京都駅・近鉄自貸后キリンビアレストラン（解散）＊タイムとらず

リーダーのミスでバス時刻の変更を知らず、バスに乗りおくれタクシーに分乗して市の瀬に着いた。リーダーはこの事実を厳粛に受けとめ、ビアレストランでの反省会にて懇親した。

（参加者）堅田時夫　石丸常太郎　石丸宏子　桑名和子　前田幸子　田中直実　新家脩義　新家絢子　芝野康明　佐藤鈴子　吉田豊美子　村上治子　○湯浅次男

◎西沢広二　（計14名）

比良・八雲の滝から駅通路

（水曜ハイク10）

8月27日(水)　晴れ

京都駅7・37（電車）近江高島駅8・25～8・37発（バス）青少年施行村9・00—大雲鉢10・20—曼船の滝上11・10—オガサカ道登り口11・40（昼食）12・20—比良明神下13・00—釈迦岳13・50—大津ワンゲル道—雄松山荘通分岐14・50—イン谷口15・45（解散）

7月の台風で谷コースが荒れているので大雲鉢までは谷和と遊歩道組に分かれて歩いた。さすが比良絶海コース、気温は25度。くさり場・梯子で緊張しながらも十分に渓谷コースを楽しんだ。ワンゲル道の下山は長くて厳しかった。

（参加者）白堀清子　安田六兵衛　辻　行子　立川郁夫　太村正一　西沢広二　千葉千枝子　吉田紘宏　飯尾一正　飯尾公代　成川みさお　松山みつ　真田久子　中上紀代子　平敦英子　石田豊美　松本いつ子　真田昭子　綱谷　炎　増島百合子　細井知子　郷司善八郎　郷司良江　葛田幸子　佐々木直子　鷲本三郎　藤井益子　呉山繁二　堅田幹夫　山崎勝雄　井上久子　浦上　明　加藤豊和　砂原恵子　上田重子　青木一雄　○岡田　昇

◎湯浅次男　（計39名）

紀北・田代峠から飯盛山

8月31日(日)　晴れ

JR粉河駅9・05～15—一本松10・15～20—ちりなし池10・40～50—田代峠11・15～35—4等三角点展11・55（昼食）12・40—岩船分岐13・05—飯盛山13・25～35—飯盛山荘14・00～15—麻生津峠14・30—JR名手駅15・30（解散）

残暑が厳しい一日だったが、山上に吹く風、ツリガネリンドウ・ホトトギス・ミズヒキソウなどの花に秋の気配が感じられた。

（参加者）立川郁夫　佐賀益一　前田政雄　船越利明　船越みよ子　川中　保　木村信之　大谷草子　福田久子　稲本芳雄　広巳不笑子　城月満幸　田淵昭良　千葉千枝子　布施清美　奥野雅子　岡田惠美子　石田賢一　秋田楠郎　塚本和幸　山野　貢　木村太郎　宮村孟次郎　青木一雄　堤　良男　山本　勉　岡本和子　増田昌雄　湯浅次男

○岡田　昇　◎奥村泰治（計31名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通して正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（部）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6冊分）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）

年会費　3000円（資料共）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び郵便番号からの送本かを忘れずにご明記ください。

尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に1～2回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。

経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部（村田）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号3407から3467まで

【滋賀】　井上昌子

【愛知】　河原良尚

【三重】　水谷俊之　船木吉雄

【滋賀】　吉武幸男　馬場栄子　岡　和子

【京都】　戸川郁子　藤井　勲　木下尚一　足立謙民　足立博子　山本　啓　西川友造　天野加奈江　由田郁代　田代友広　姫野美代子　川原勝意　宮谷勲子　西田美治子　長尾節子　伊藤瑞子　江原美智子　長尾　忠　北川田純子

【大阪】　新家脩義　新家絢子　坂口生夫　磯田　誠　西浦ムツ子　辻井繁子　田淵昭良　金綱純一　中野雪子　辻　富子　中岡靖典　楠原良彦　杉山千恵　上正　勝　首藤育子　古川勝治　川崎忠男　外南和男　中西秋野　大野宏造　永田弘子　坂本道子　岩崎ミサ子　高崎光志

【奈良】　米谷　勇　戸田真智子

【兵庫】　北村　正　北村　楠　木山幹雄　根田八重子　機田真規子　平井佐智子　泽　雅子　和田裕子

【広島】　益田敦朗

（61名）

訂正とお詫び

36号（初秋）15ページ下段15行目「日文誓星」は「日武誓星」が正しい。

36号（初秋）19ページ下段3行目「住所・氏名・名前・郵便番号」は、名前を削るのが正しい。

36号（初秋）41ページ下段4行目「…生存していたか…」は「生存していたか…」が正しい。

36号（初秋）56ページ下段5行目「大極脈」のルビは「だいごくでん」が正しい。

36号（初秋）71ページ中段最終行目「夕日に映られ」は「夕日に彩られ」が正しい。同ページ下段20行目から21行目「うなづきながら」は「うなずきながら」が正しい。

36号（初秋）74ページ三段13行目「大見戸道」は「大見戸道」が正しい。

36号（初秋）81ページ三段13行目「精進あげ」は「精進あけ」が正しい。

36号（初秋）90ページ上段3行目「古代の歌合の」は「古代の歌垣の」が正しい

36号（初秋）92ページ下段18行目「美野李種」さんは「美濃李種」が正しい。

なお、36号「せせらぎ」欄の文中に不適切な表現がありました。深くお詫びします。

（編集室）